

—TANK MASS-PRO TYPE  
TT-3 GUNARMOR HEAVY WEAPON TYPE  
RX-78GMS-8 GUNDAM GLE  
RXV-1 GUNTANK I  
RX-78X BALL  
RXM-78C GM  
RXM-78 POWER GM  
RXM-78X GM CUSTARD  
RXD-83 GM CANNON  
RX-78GP01 GUNDAM GP01  
RX-78GP01Ps GUNDAM GP01 Ps  
RX-78GP02 GUNDAM GP02  
RX-78GP03 GUNDAM STAMEN  
RX-78GP03 GUNDAM GP03  
FF-83 SHAYEN FISH  
FF-8 TIN COO  
FF-87 CORE FIGHTER  
FF-87-BM CORE BOOSTER  
G-FIGHTER  
FF-8718 CORE FIGHTER J  
FLY-BABY  
MECA  
TYPE81 M.B.T.

# GUNDAM MECHANICS II

## ガンダムメカニクス2

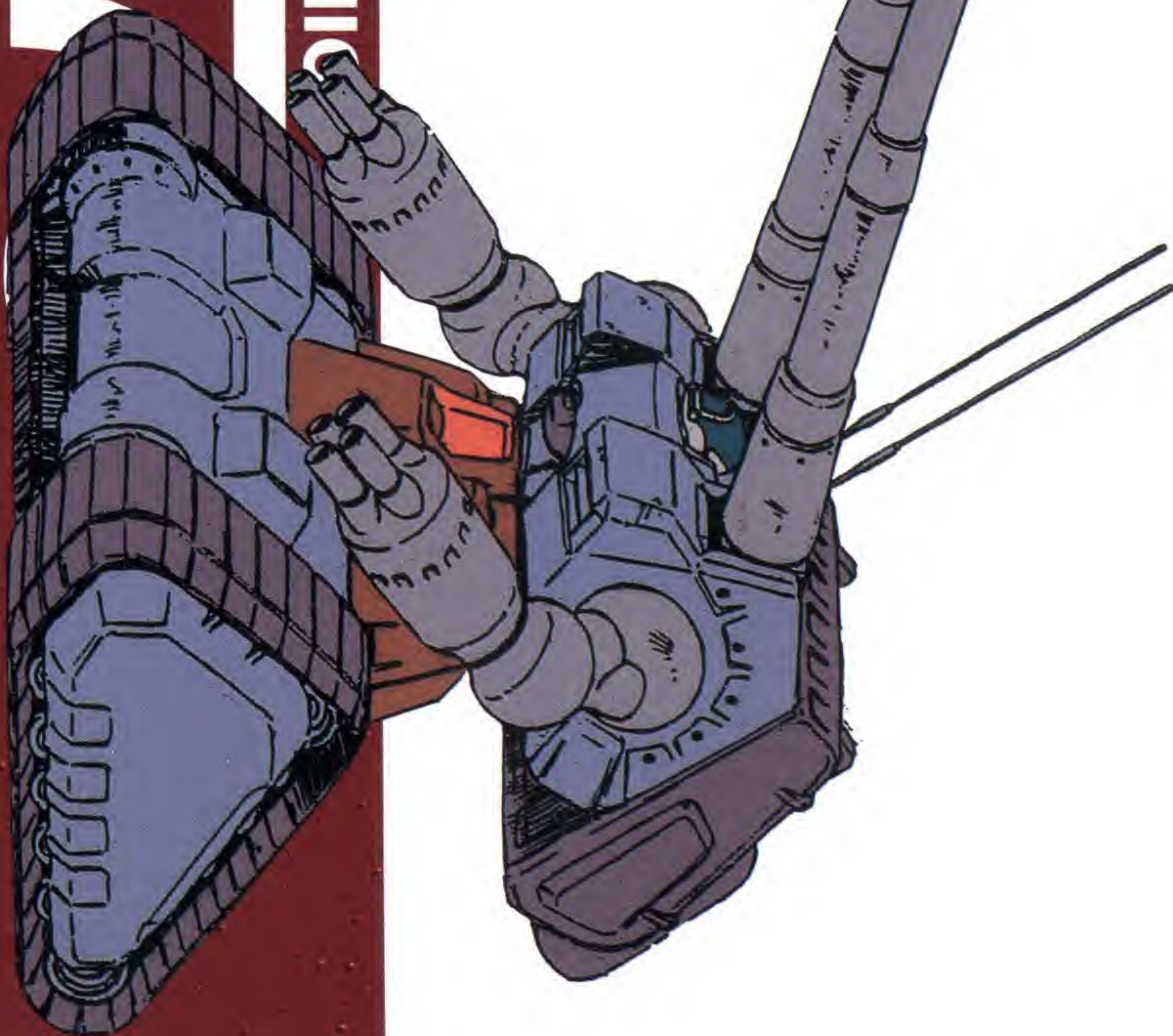
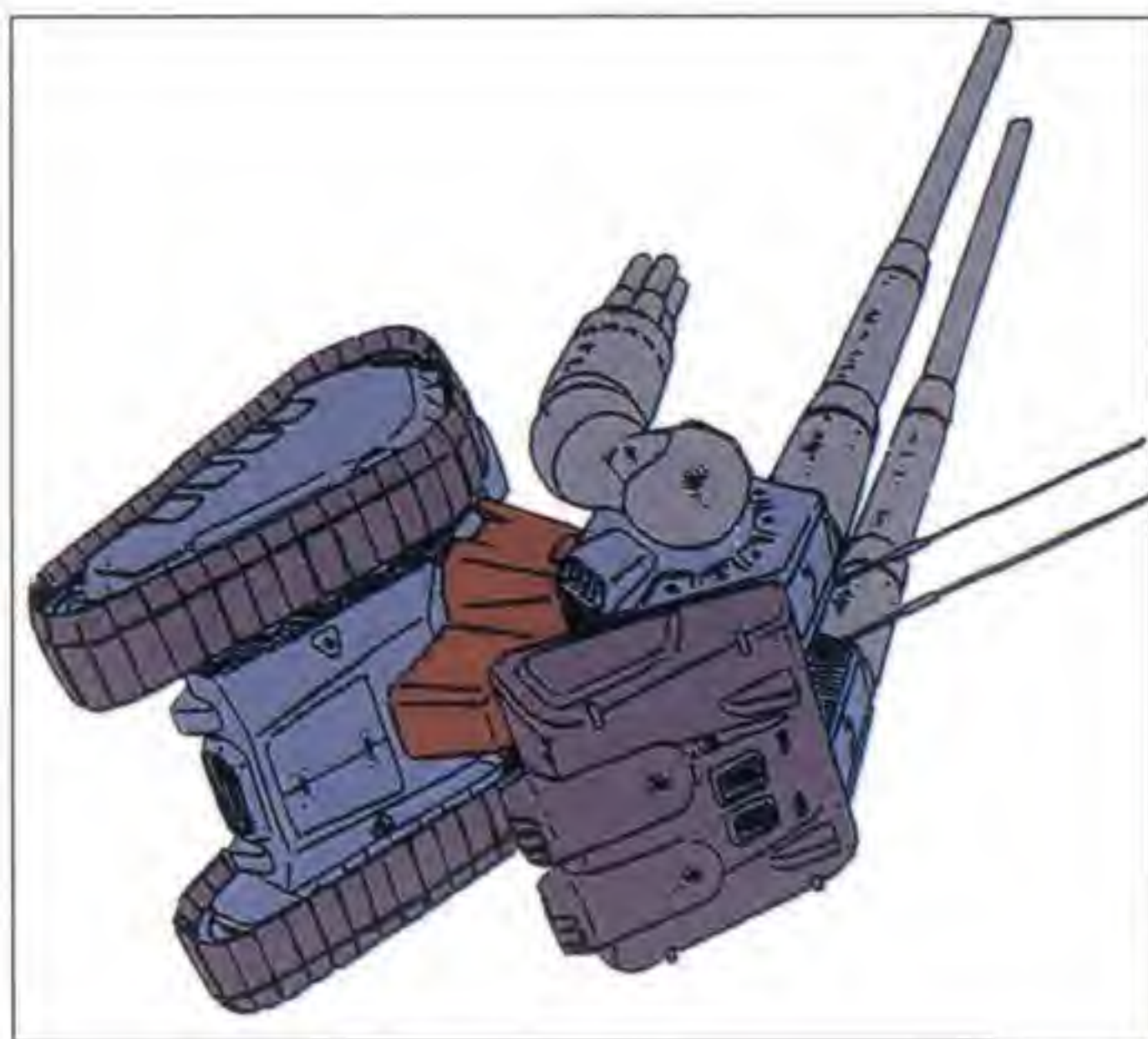
HOVER TRUCK  
MS-06E ZAKU FORCED BOOST TYPE  
MS-06F2 ZAKUS  
MS-06M ZAKU MARINE TYPE  
MS-06P04 ZAKU HIGH-MOBILITY TEST TYPE  
MS-06V ZAKUTANK  
MS-07B2 GOUF CUSTOM  
MS-07H GOUF FLIGHT TYPE  
MS-07TH GOUF FLIGHT TYPE  
MS-11 ACT ZAKU  
YMS-15M SAMEL  
MS-21C DRAGO  
RXD-04 GUNVERA TETRA  
APSAAR  
APSAAR2  
RXD-03 AZOTH  
RXA-04C  
RXA-05 BAL-BALD  
—1— NGUE ZINL  
DOPP  
—1—  
DOOMT



量産型ガンタンク

# RX-78-2

## GUNDAM MECHANIC







# RX-75

## 量産型ガンタンク

機体分類：陸軍専用MS

製造：連邦軍

全高 総高さ：15.8 / 15.0m

本体 全機重量：84.0 89.0t

ジュエルータ出力：870kw

センサー有効半径：6,000m

●「RX計画」により最初に開発された汎用タイプMS。

戦場に入るとジオンの電ビルスー  
ツ「ザク」の戦術的な特徴を見に開発  
された反戦術をもとに、最終的に生産  
された量産型は対空能力などに実用  
性が入った。歩行システムが完成する  
前に造られた機体であるため、脚ではな  
くキャタパルによって歩行する。また、サ  
ムとセンサー系統をないため、人型高  
機としての有用性はなく、機体というより  
戦車に近い機体となっている。

このガンタンク量産型は、3.5tのさ  
がるコアブロックシステムを導入したため、  
パイロットの生存率や戦闘データ回収  
率は低いものの、上半身を回転させる  
ことが可能となっている。また、パイロ  
ットに装備された大型の自動目標探  
知システムによって、攻撃距離のより  
広大な運用が可能となっている。

機体開発士ガンダム 機体開発士小南

120mm高反動キャノン砲

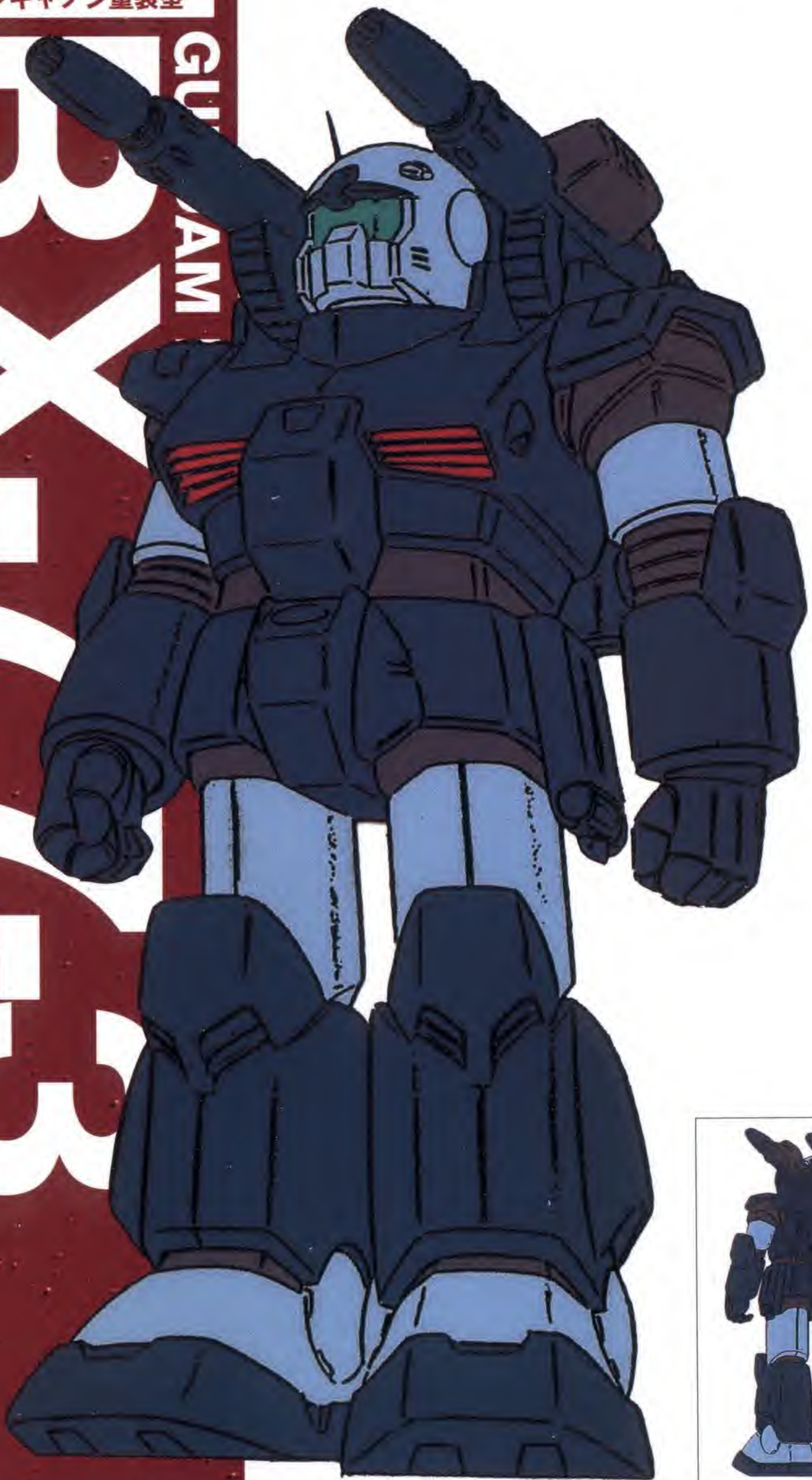


4連装ガンランチャー



ガンキャノン重装型

GUN  
CANNON  
AM







# RX-77-3

## ガンキャノン重装型

機體分類：近接戦闘MS

開発：通称軍

全高 頭頂高：16.1/17.5m

本体 全機重量：58.6/79.1t

ジュネータ出力：1,360kw

スラスター総出力：62,200kg

センサー警戒半径：3,000m

●「宇宙野全ガンキャノン」の通称を愛称  
 称号を受け、その特長である高射撃力・機  
 動力も両方よく発揮されたのが「RX-  
 77-3ガンキャノン重装型」である。機体の  
 基本構造は「RX-77-2」を継承し、主兵器  
 を実装した60mmキャノン砲から、威力  
 などビームキャノン砲に劣っている。さ  
 らに左腕部にはハンドグレナードランチャーを装  
 備し、ビームキャノン砲の1発1発のた  
 め若干の整備増があるものの、近接戦闘  
 に予備されたい戦闘面では威力を発揮  
 するものと期待された。

しかし、生産コストの高さと近接戦闘に  
 よるジャブローで整備が生産されたと  
 だった。一足踏みはジャブローでデス  
 トが防られ、その成果はビームキャ  
 ノンを継承した「RX-80-2」などに表れてい

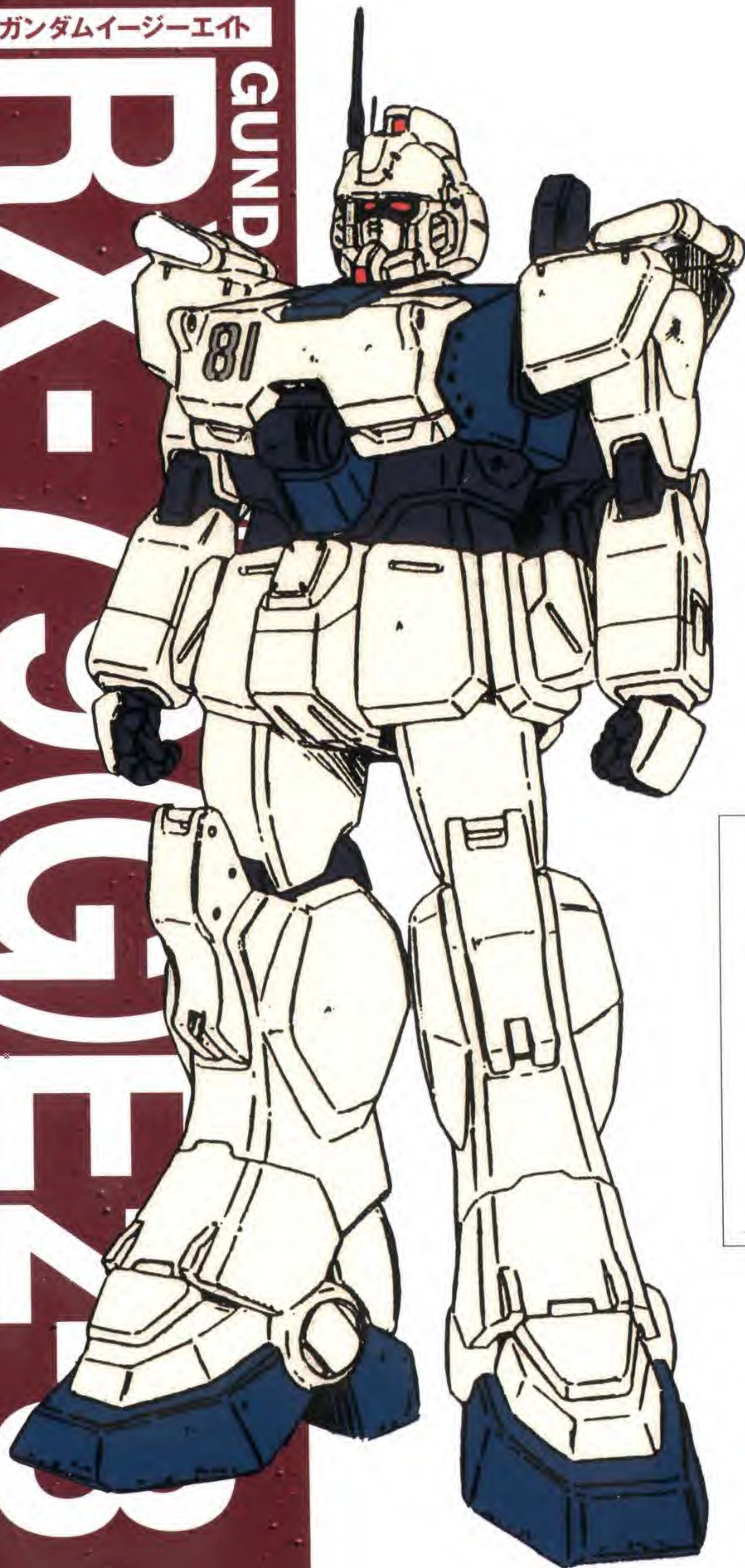
■モビルスーツ・バリエーション(プラモデル)  
 ■機動戦艦Zガンダム





ガンダムイージーエイト

GUNDAM







パラシュートバック機體

# RX-79(G)Ez-8

ガンダムイージーエイト

機體分類：機動用MS

製造：通商省

全高：機體高：14.5/16.0m

本体：全機重量：51.5/71.3t

ジュネレータ出力：1,380kw

スラスター総出力：52,000kg

センサー有効半径：5,000m

■「RX-79(G)Ez-8」は、量産機ではあるものの、試作機であるRX-79(G)Ez-1の製作課程で生じた廃棄パーツを流用して生産された機体である。そのため、最終に配備された「RX-79(G)Ez-8」200機中での修理用パーツは十分に確保されていない状態であった。試練の名義では、機体構造が近い「RX-79(G)Ez-1」などの部品を使用することでこの事態に対処し、結果としてスラムタイプ・ガンダムが数多く生まれたのである。

「Ez-8」は「Ez-1」の改良機と呼ばれるものの機体も、事実上アリアの機械化完成大戦に配備されていた機体が大幅に減少したため、大規模修理を機にもスラムタイプとなった。機体に12.7mm対空用機関銃が2挺あり、各部に35mm機関銃が2挺あり、各部の装甲面が変更することにより、弾性の向上と軽量化が図られている。

■開発機士ガンダム 第60MS小队



12.7mmバムガン  
+センサーポッド

100mmマシンガン

ビームライフル

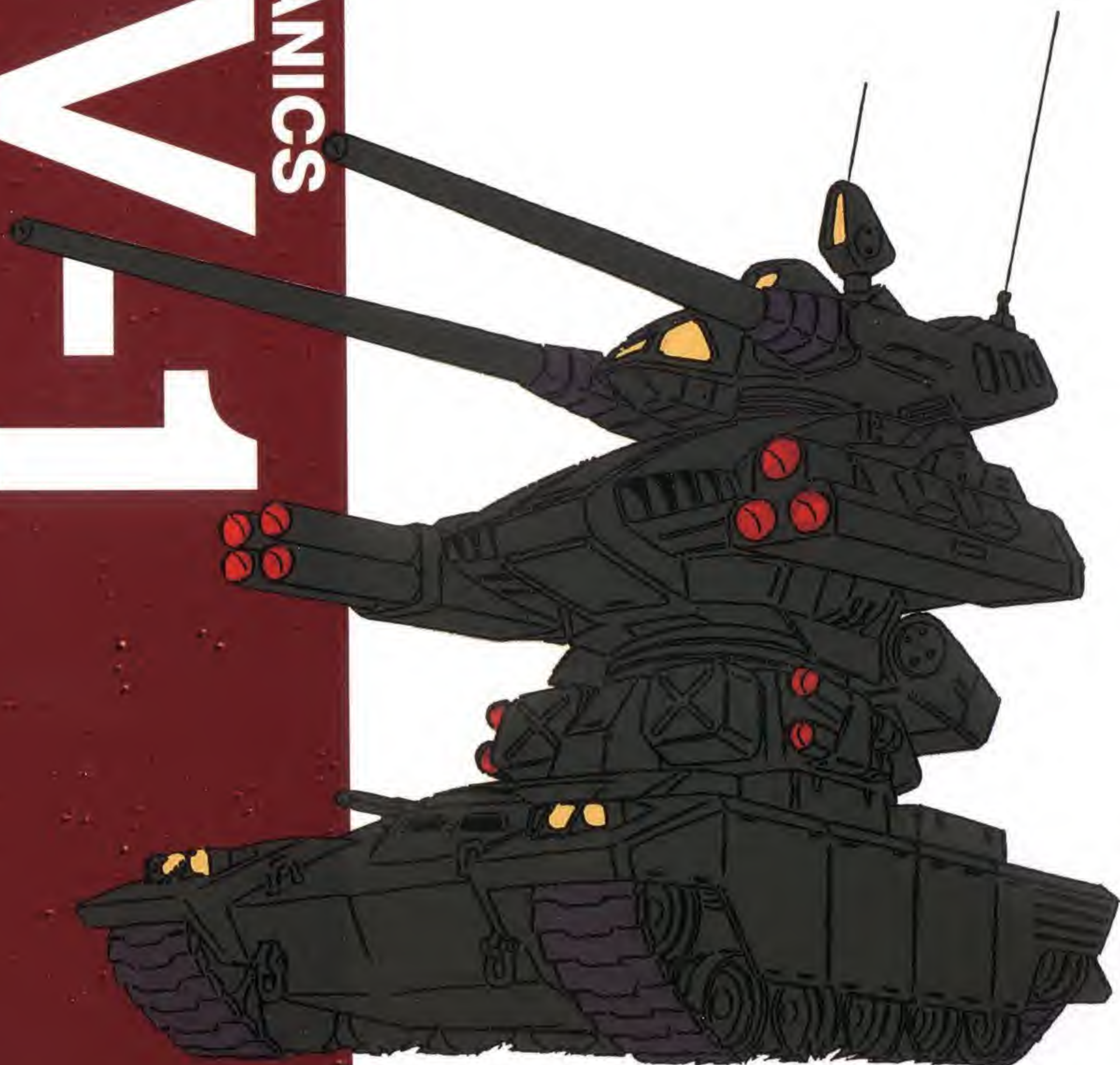
35mm機関銃



ガンタンクⅡ

# RV-1

## GUNDAM MECHANICS







# RMV-1 ガンタンクⅡ

機體分類：機体防衛用MS

開発：連邦軍

全高：機体高：15.9 / 15.2m

本体：全機重量：98.4 / 123.7t

ジェネレータ出力：218kw

センサー検知半径：5,000m

■MSとしての運用には前例の無い特殊機である「RMV-1」であったが、開発がキャタピラであることからその生産性の高さは評価された。その生産性と連邦軍が要求する方向を汲み、「RMV-1ガンタンクⅡ生産型」が完成直後に運用されたのに対し、この「RMV-1ガンタンクⅡ」は最終段階に開発された。

「RMV-1」は、MSとしての機體をほとんどすべて前が基とし、前部車高としての機體を最低限として開発されている。そのため、120mm低反動キャノン砲×2、4連装ロケットランチャー×1、2連装ミサイルランチャー×1、60mm機関砲×1と、固定武装が多く装備され、乗員として操縦者と砲手の2名を必要とする。

「RMV-1」は、一年戦争後少数が生産され、ジャブローをはじめとする連邦軍各地に配備された。

■ビビルコープの1エーション(プラザ4444)  
機体開発士とガンダム



3連装ミサイルランチャー

2連装  
スモーク  
ディスチャージャー



60mm機関砲



120mm低反動キャノン砲



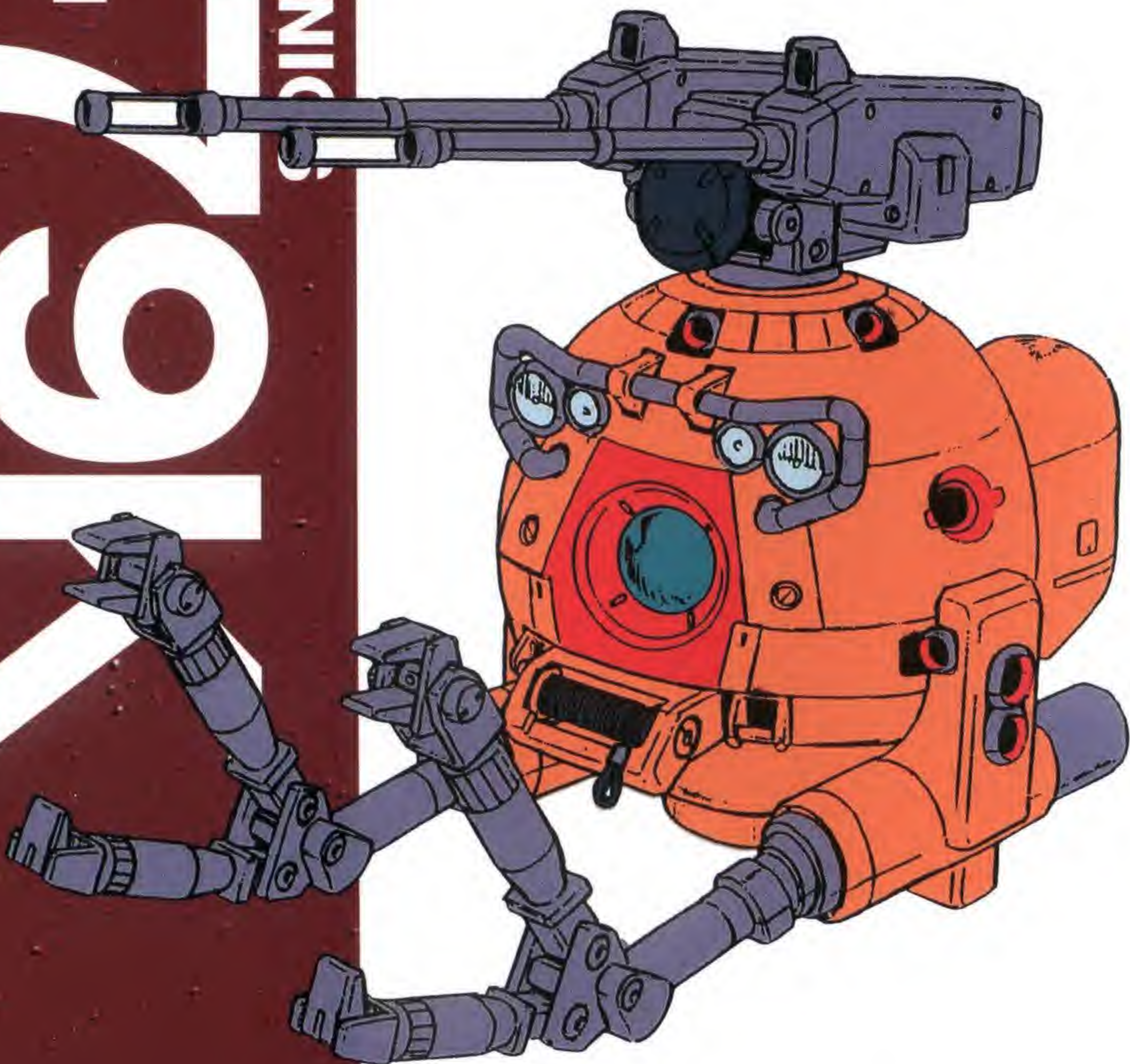
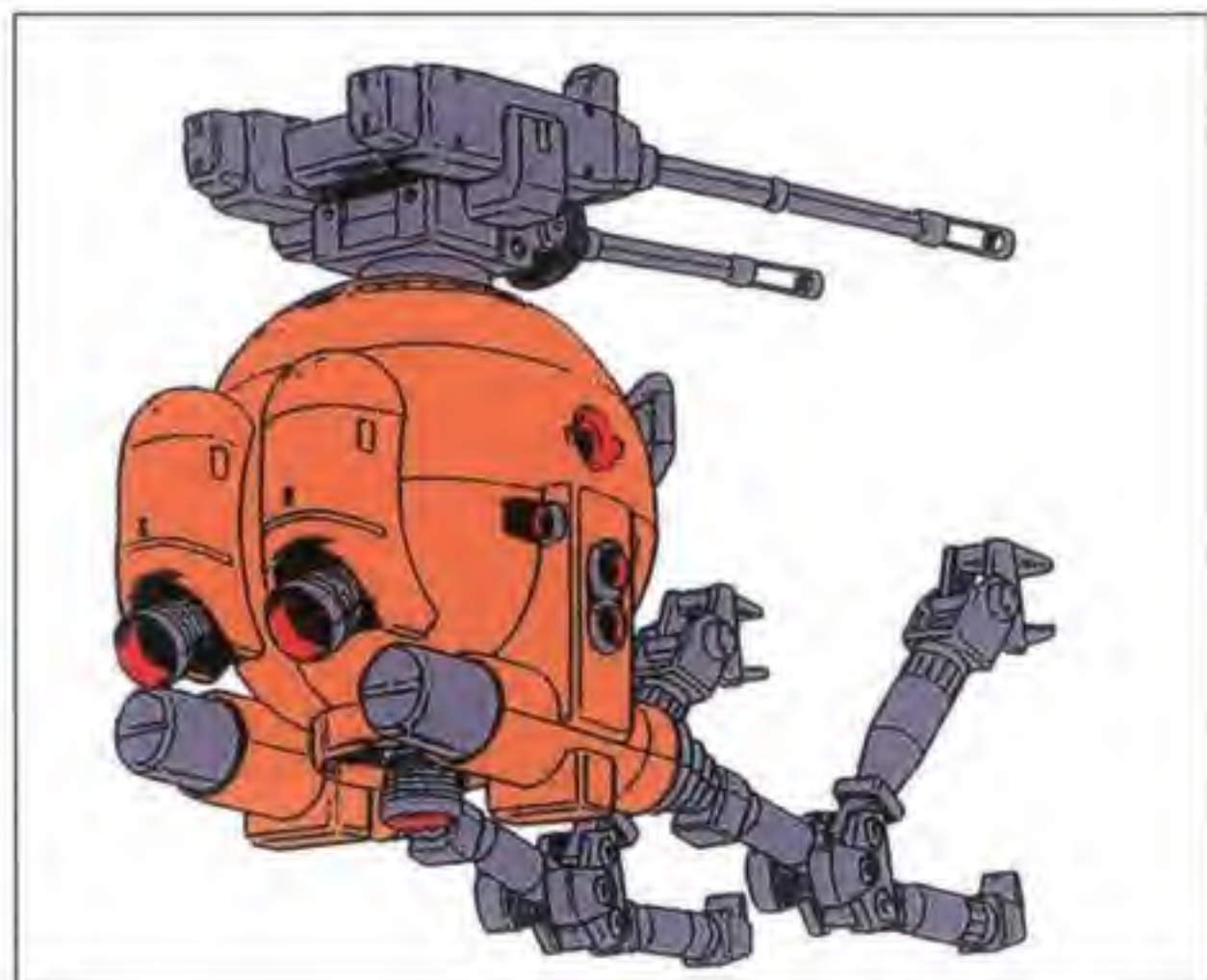
4連装ロケットランチャー





ボール

# GUNDAM MECHANIC





# RB-79K

ボール

機体分類：モビルゴッド

製造：連邦軍

全高：12.0m

本体/全機重量：17.2 25.0t

ジェネレータ出力：400kw

スラスター総推力：24,000kg

センサー照射半径：4,000m

●「ヤマト」によって星域M8が完成するまでの間、ジオン軍のM8に対抗するため、その最前線として連邦軍が宇宙開発ゴッド「8P-883」を改造して造った機動戦艦ゴッド。

その戦闘能力は低く、連邦軍のパイロットからはあまり評判が良くなかった。大規模な戦いでは大敗を喫する。星域M8「9234 9235」配備時は、その支援メカとして使用された。

標準武装として「R&S-75」局の150mmキャノンを採用したものが装備されているが、機体によっては他の武器が装備されていた機体もあった。「RB-79K」は、宇宙戦艦機に配備されていたもので、武装として180mmキャノン、他にワイヤーランチャーや大型サブジェネレーターを装備している。

機動戦艦士ガンダム / 9234 9235 中隊



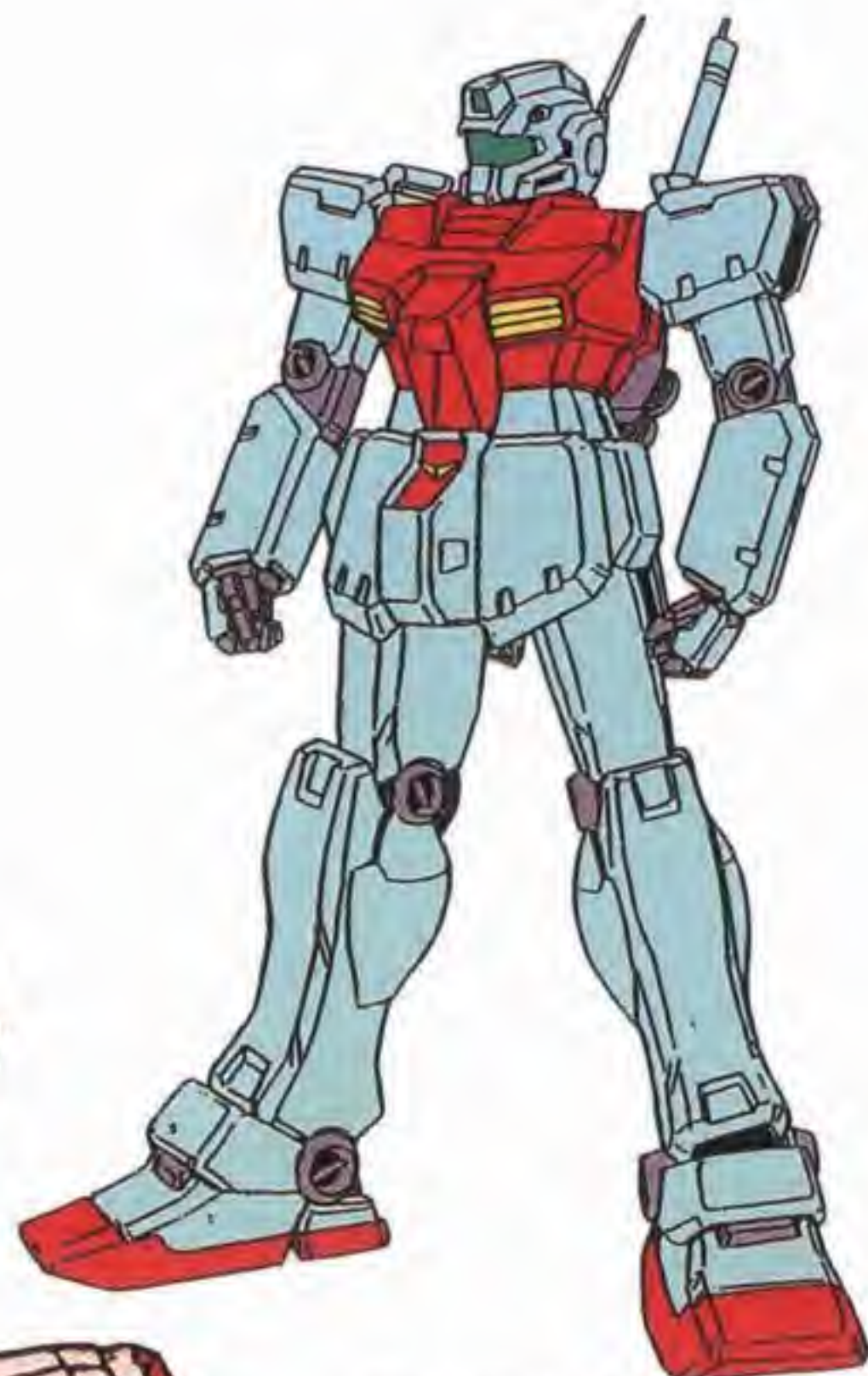
180mmキャノン



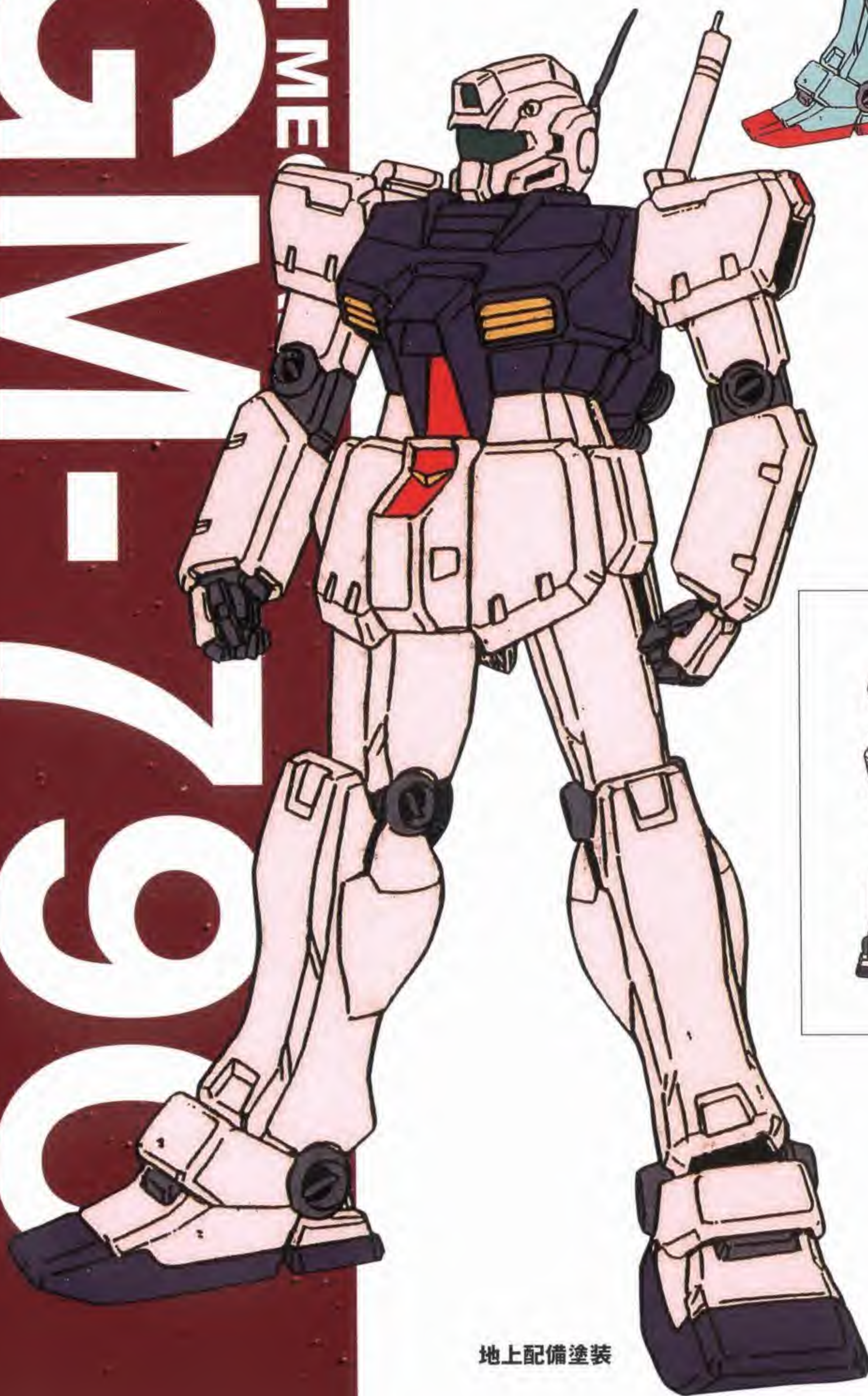


ジム改

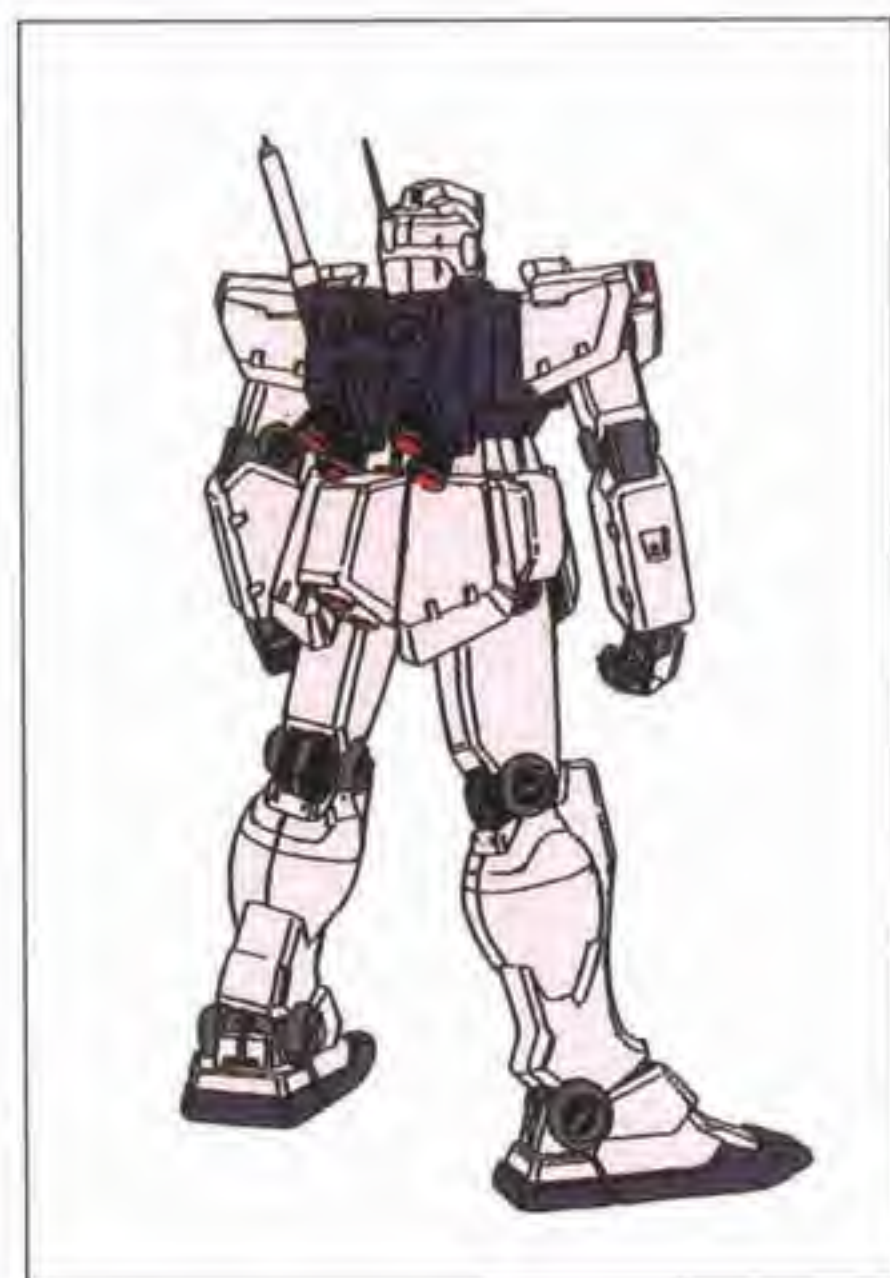
GUNDAM ME



宇宙配備塗装



地上配備塗装







# RGM-79C

ジム改

機体分類：汎用MS

製造：連邦軍

全高 頭高：15.5 / 10.0m

本体 全重量：41.2 / 15.0t

ジェネレータ出力：1,250kw

スラスター総推力：57,400kg

●一年戦争後にバージョンアップされた「RGM-79C」の改良機である。

「ジムコマンド」や「スナイパーガンダム」といった特殊なジムを改良・強化した、いわば上級機だが、この「RGM-79C」はあくまでも量産機であり、1980年当時の時点ではジムの生産ラインはすべてこの「C型」になっている。

ジェネレータは旧型のままで、スラスターの駆動力と機体の運動性能が若干強化されている。『サウザンクロス』の作戦にたいしては機体も受けてきたダメージが、この改良により多少の回復はあった。

このあと、「RGM-79C2ジムII」が登場するまでの期間、ジム改は連邦軍の主力MSとして重用されている。

■機動战士ガンダム  
0083 スターダストメモリー



90mmマシンガン



360mmバズーカ



シールド

ビームサーベル



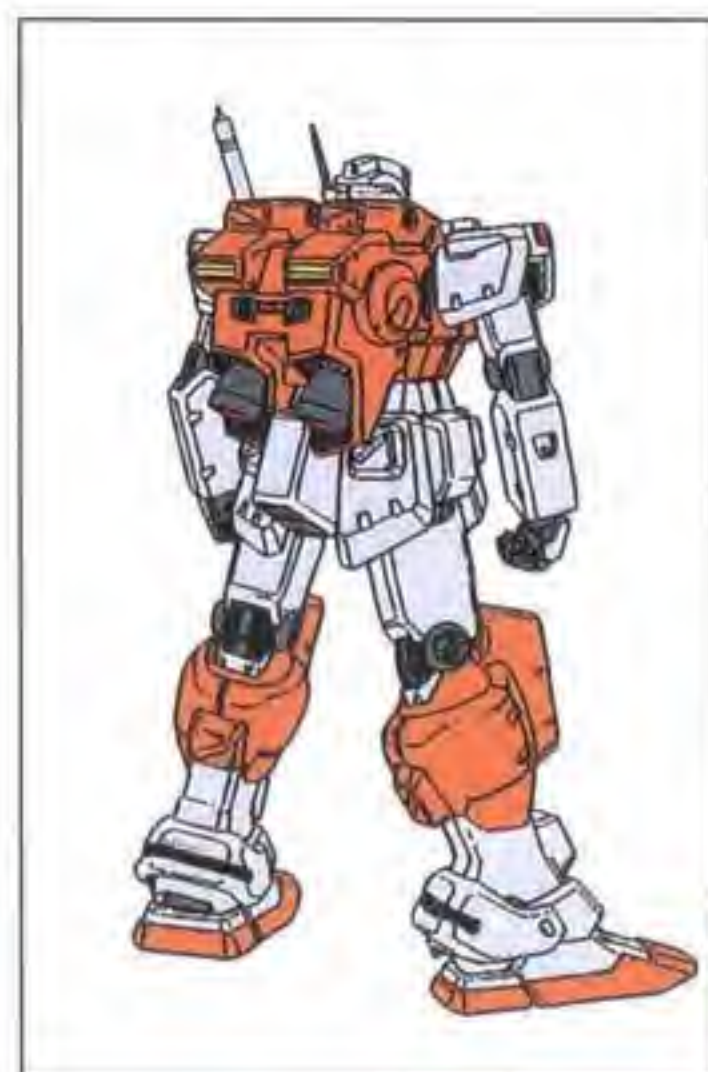
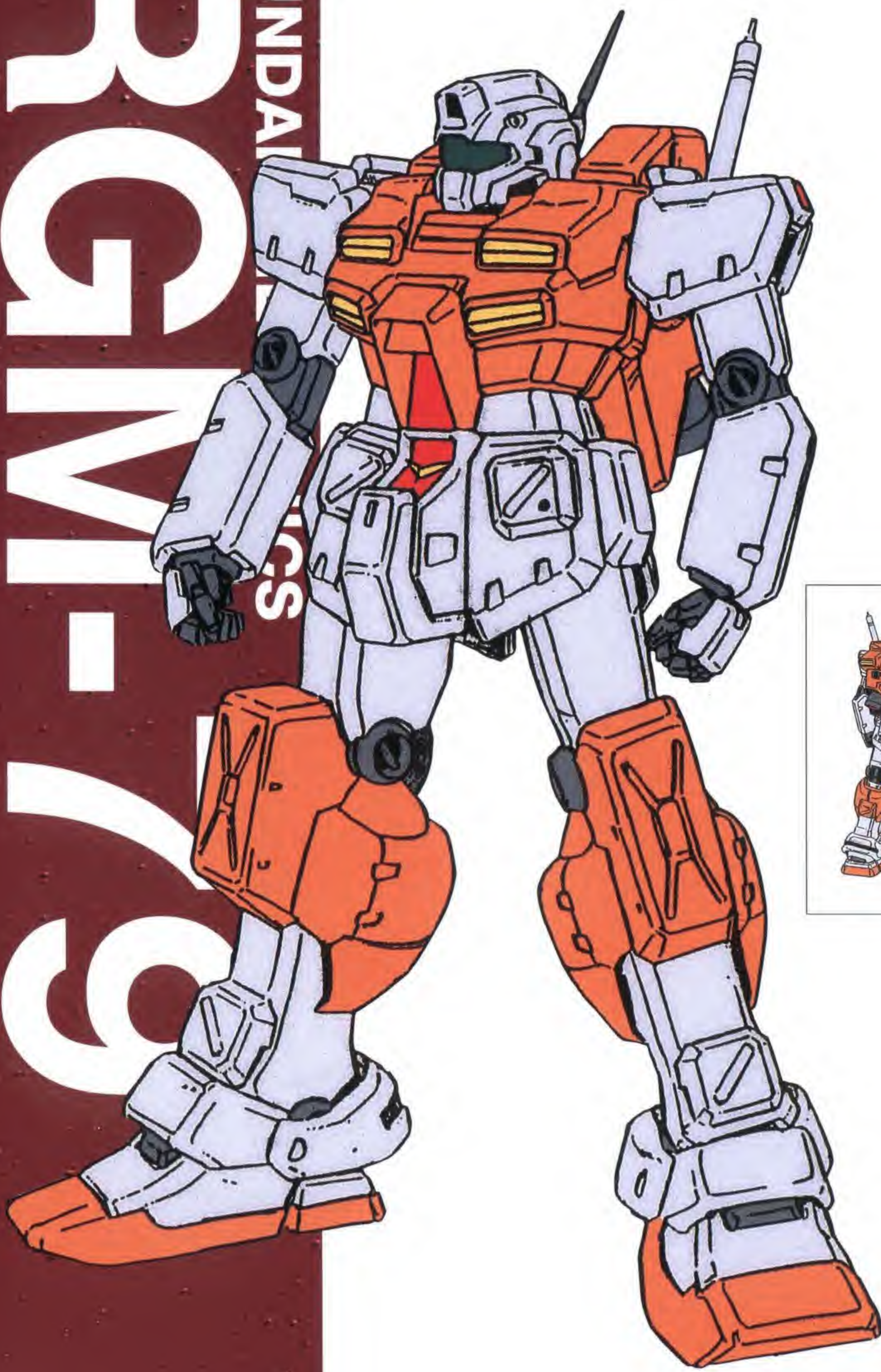
60mm  
バルカン砲





パワード・ジム

GUUNDAI







シート装備時



# RGM-79

パワード・ジム

機體分類：テスト用MS

製造：通商省

全高 頭頂高：18.5/18.0m

本体 全重量：41.2/58.8t

ジュエルータ出力：1,250kw

スラスター総出力：57,400kg

センサー有効半径：6,000m

●「RGM-79のパワード・ジム」は単独の試作番号を持っていない。これは、この機体がガンダムシリーズ開発のための「アーチスト機」だからであり、アレンジとがワイズという機体名もテスト機であることからしている。「RGM-79」はベースとした機体には、スラスター出力が大幅に引き上げられた「バックホウ・アーマー・システム」に、パワード・ジムという名称のもとになった。同時に強化された「ショックアブソーバー」が装備されている。これは地上での機動性向上も図って装備されたものであり、ここで得られたデータは「RGM-79の1」能力下で機体にフィードバックされた。要するにこの機体の機体設計とで想定されている「ワイズ・アーム」のため、追加された装備の制御システムは外観に露出している。

機体構成主ガンダム

0083スラスタストメモリー



ビームサーベル



90mm  
マシンガン



360ミリ  
バズーカ

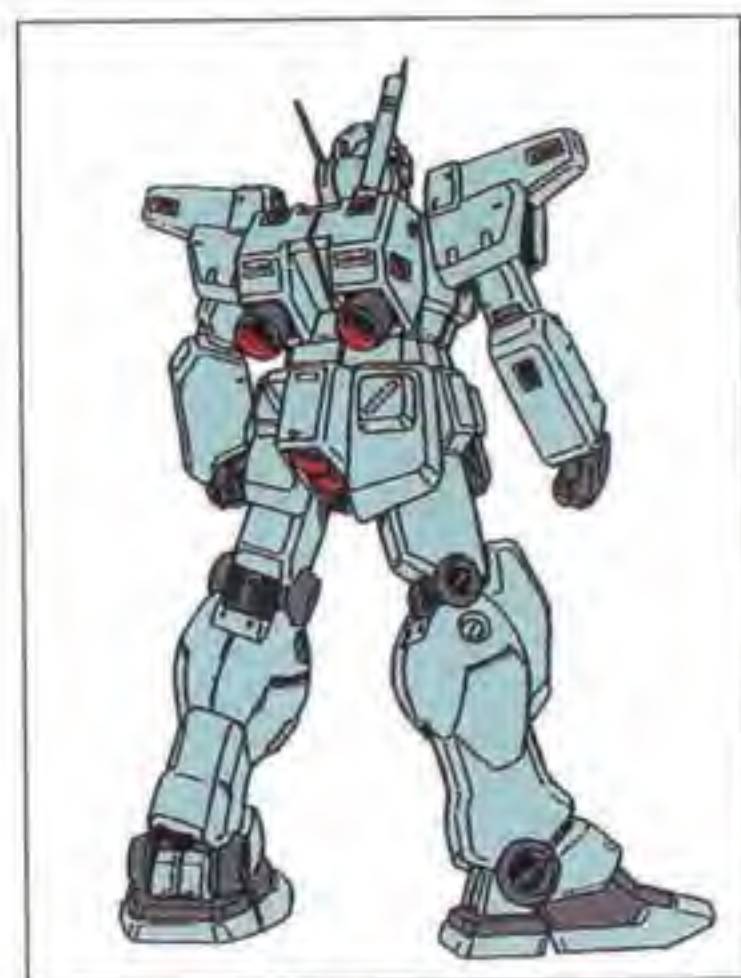
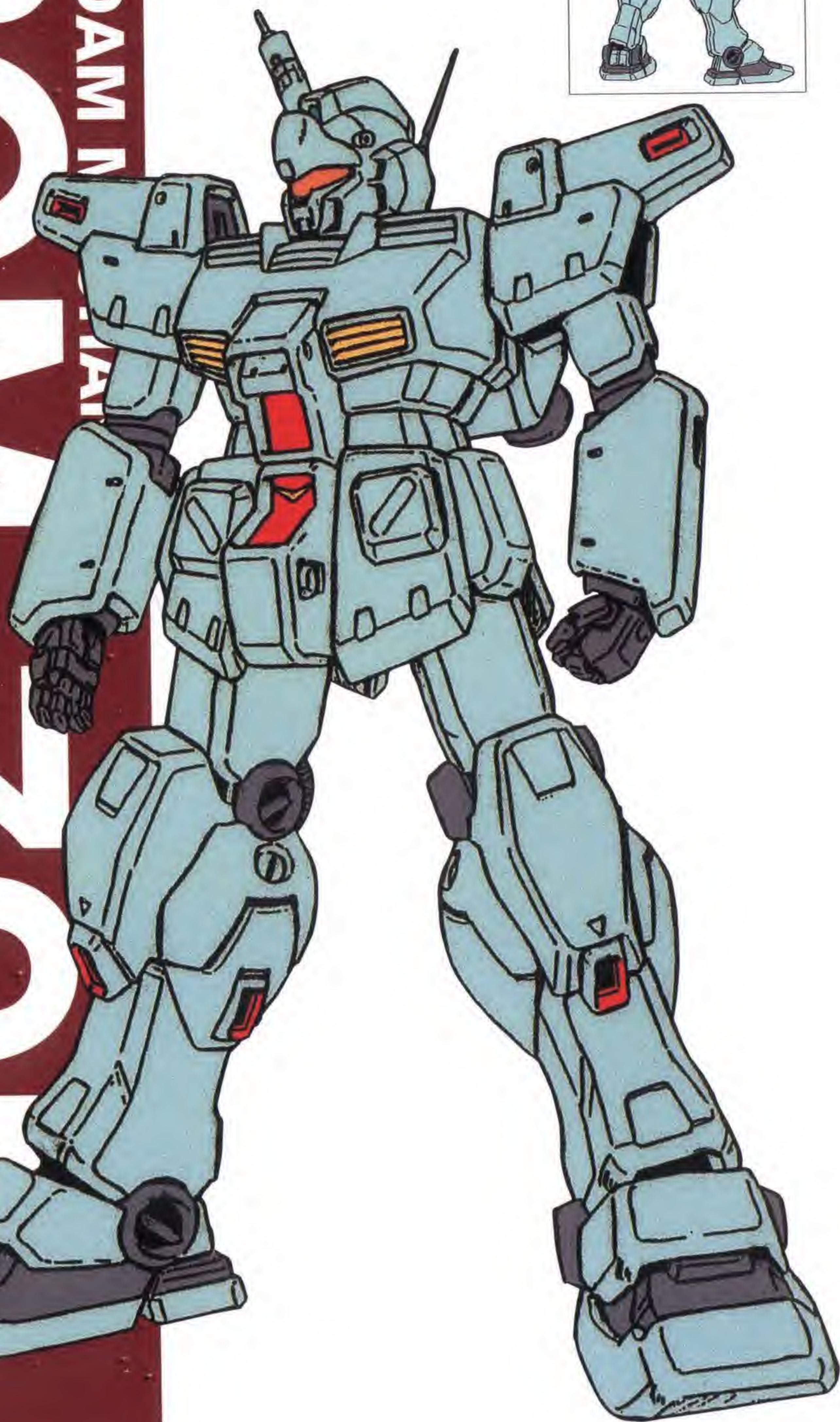


60mm  
対空ガン



ジム・カスタム

GUNDAM







# RGM-79N

ジム・カスタム

開発分類：汎用MS

製造：連邦軍

全高：標準型：18.0 / 18.5m

全幅：全機幅：42.0 / 37.5m

ジェネレータ出力：1,420kw

スラスター総出力：57,600kg

●エースパイロット用として開発されたジムの性能向上型である。

一年戦争以前、クインズの機体技術者集団、太陽連隊は、各種の新兵器の開発に着手した。この「ジムカスタム」は、その中でもずば抜けた高性能を持つにいった機体である。「スナイパーカスタム」のように高機動性を追求するのではなく、あくまでベース機の機体性能の向上が図られている。機体各部に設置された高機動用パーニアにより高い運動性を持っており、ガンダムタイプのジェネレータ出力によって、機体ビーム兵器の駆動にも使用することができる。

ガンダムタイプを脱けば、敵の水陸の機体性能を持つ敵艦といえる。加えて、生産コストが安く量産されているものの駆動費数は非常に少ない。

■機体解説士ガンダム0083

スターダストメモリー



80mm/100mmガン

ビーム  
サーベル



シールド



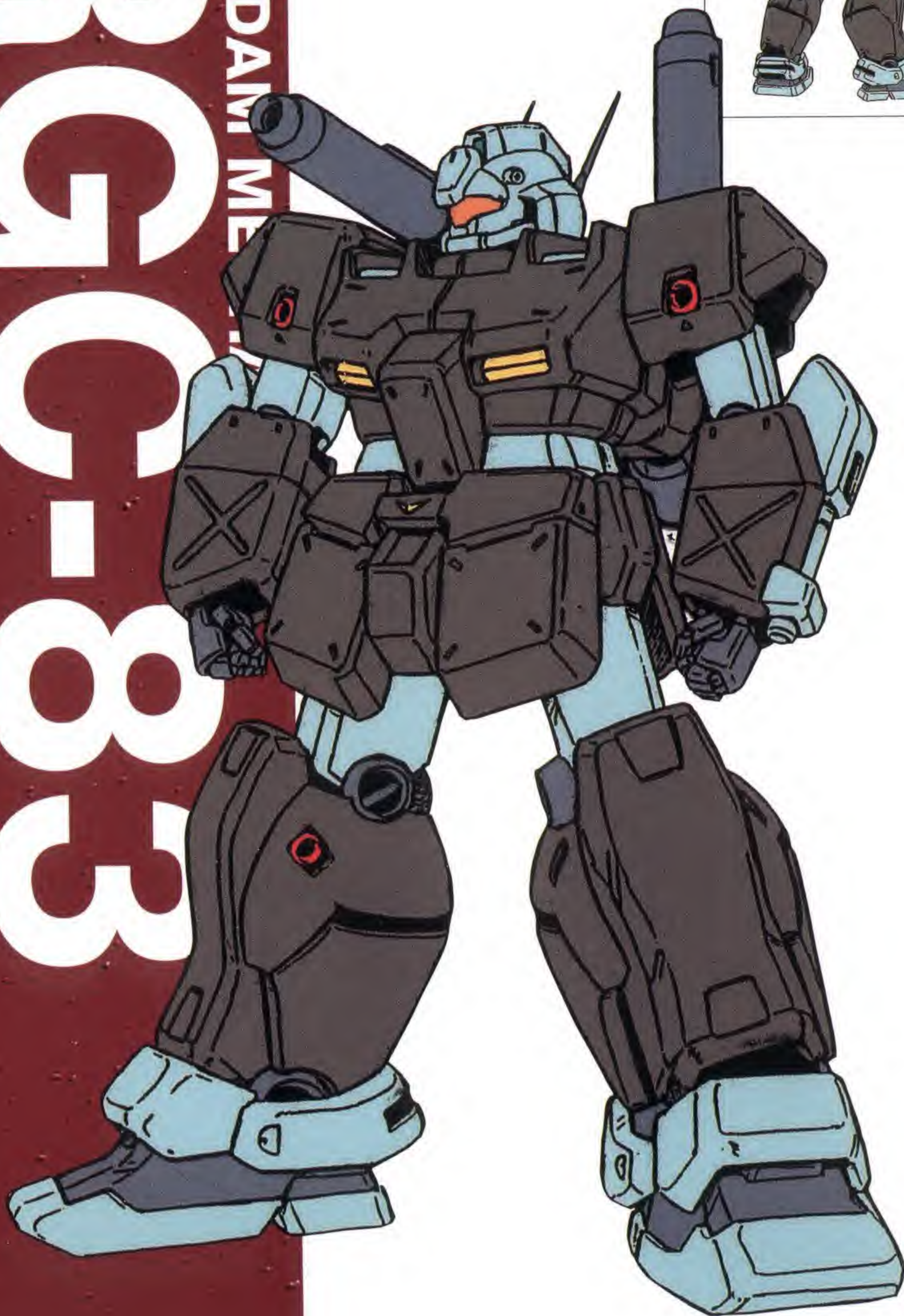
ジム・ライフル



ジム・キャノンⅡ

GUNDAM ME

33-33







# RGC-83

## ジム・キャノンII

機體分類：攻撃用機45

製造：連邦軍

全高：機体高：28.0 18.0m

全長：全幅横長：47.3 66.9t

ジュネータ出力：1.420kw

スラスター総推力：59,400kg

●機体が見られる「RGC-83ジムキャノン」の生産機は、改良といえるものの、その機体コンセプトは「RGC-77ガンキャノン」に近いもので、設計されておらず、実質は名前だけを変換した別の機体といえる。

高出力のジュネータを搭載したことにより、中距離支援用兵器としてジムキャノンが門の候補も検討されている。機体には「RGC-77」でのテスト結果を受け、中距離支援MSに最適と判断されたサブバラムアーサーコンセプトが採用された。大方、機体の両面が大幅に強化された機体であるが、量産機型による機体性の低下は否めない。

ジムとシステム同様、この機体も一年戦争後に開発されたもので、生産数は非常に少ない。

### ■機体設計士ガンダム0083

スターダストメモリー



### ジム・ライフル



60mm  
バルカン砲



ビームキャノン

シールド

ビームサーベル

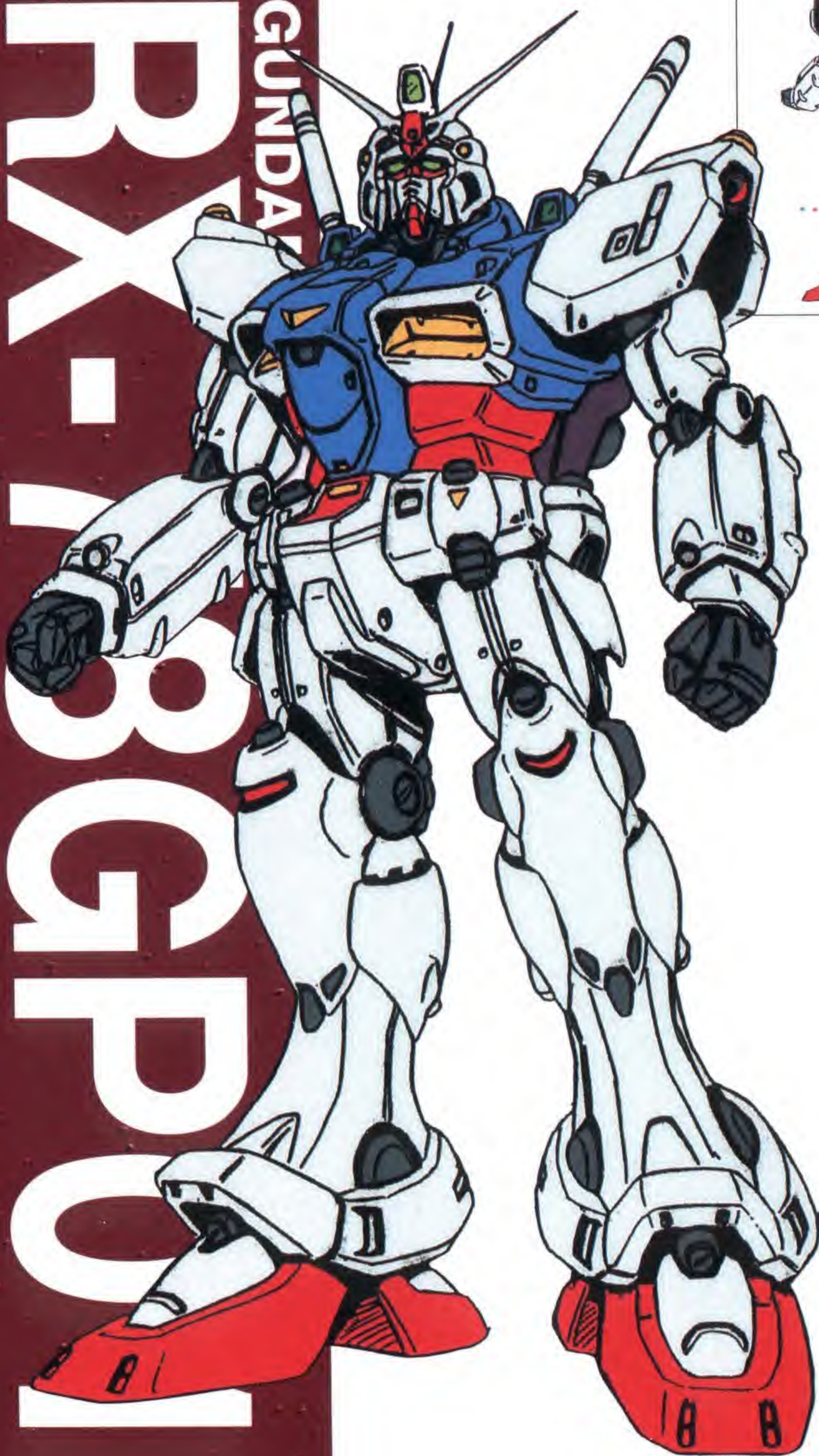




ガンダム試作1号機

GUNDAM

RX-78-2







# RX-78GP01

## ガンダム試作1号機

機體分類：汎用試作MS

製造会社：アナハイム・エレクトロニクス社

全高 機体高：18.6 18.0m

本体 全機重量：32.7・35.0t

ジェネレータ出力：1.795MW

スラスター総推力：100,000kg

■RX-78GP01ガンダムは試作機であり、  
一般戦や特殊戦では、コウラックや  
による攻撃のもと、同時期の試作機「ガン  
ダム試作1号機」としてアナハイム・エレクトロ  
ニクス社が設計した。GP01は、その試作機である。

GP01は従来の汎用MSを脱却して開発  
された。パーツを共通することによって、重  
下・高速度下を問わず、常に高機動が保  
持できるように設計されているのである。

機体各部にセンサー一体型のソナールシ  
ステムが搭載されており、試作機としては  
先進的である。また、従来のサーブドモ  
ア・プロセッサシステムを採用している。

武装としてビームライフル、ビームサー  
ベルなどを持ち、白刃戦・格闘戦を得意とする。

機体製造士ガンダム0083

スターダストメモリー



ビームライフル



ビーム  
サーベル

シールド



60mm  
バルカン砲

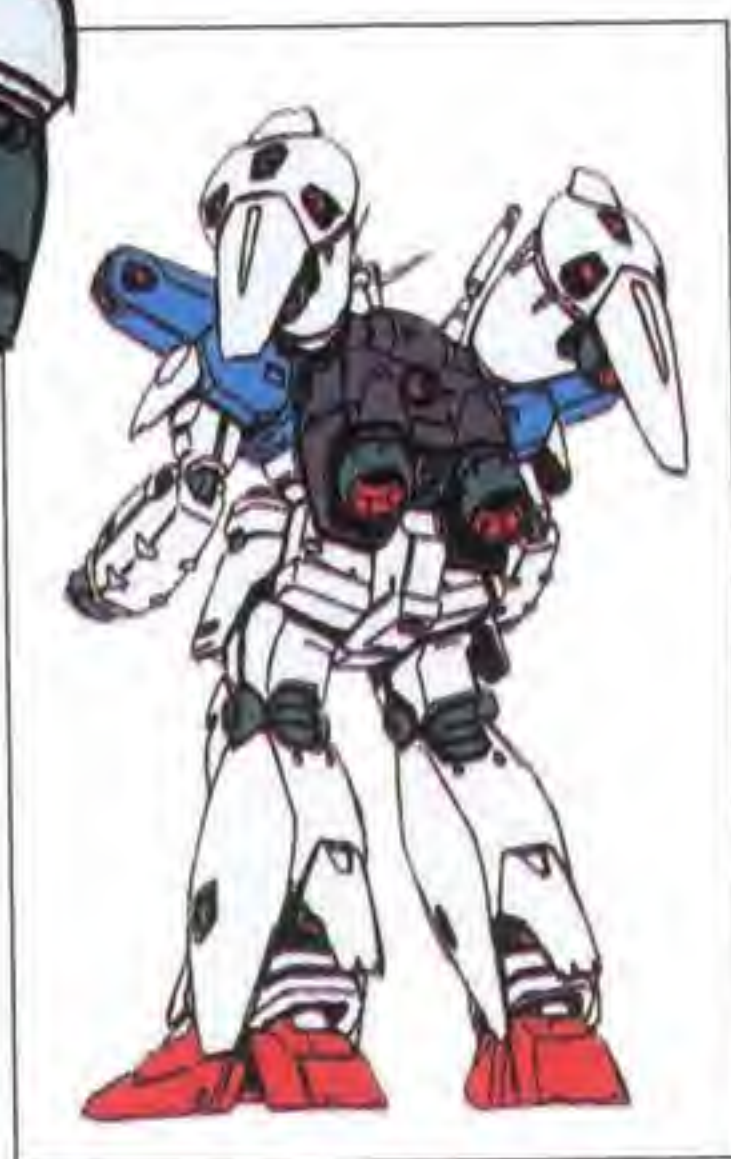
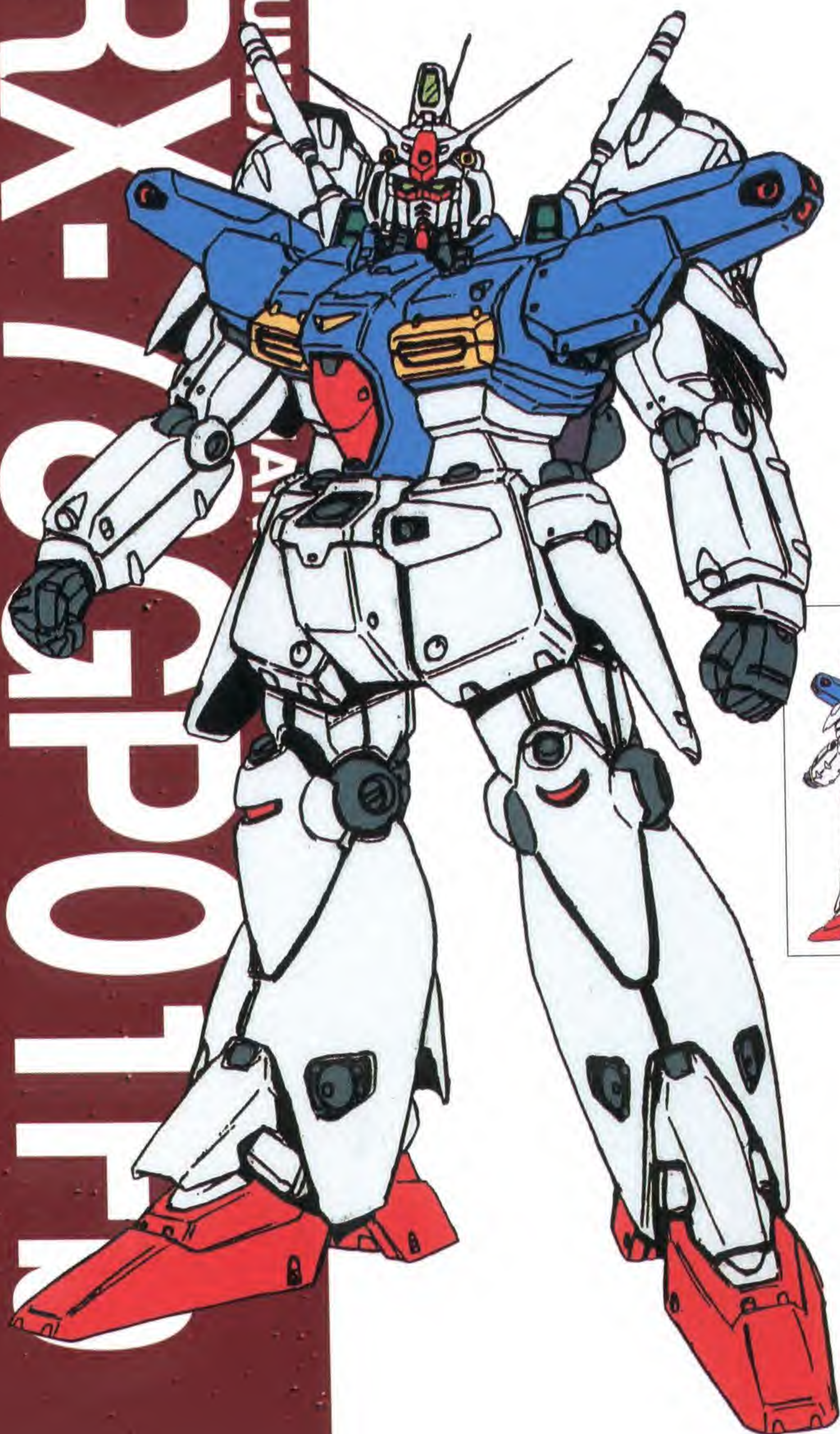


90mmマシンガン



ガンダム試作1号機フルバーニアン

RX-78-2







# RX-78GP01Fb

ガンダム試作1号機フルバーニア

機體分類：宇宙戦用試作MS

製造会社：アナハイム・エレクトロニクス社

全高 頭高：18.5 / 18.5m

本体 全機重量：43.2 74.0t

ジェネレータ出力：2,045kw

スラスター総推力：144,000kg

●GP01の宇宙空間仕様。Full Burner=フルバーニアと呼ばれる。

最終試作のGP01に高機動性バーニアスラスター、熱防護装甲などの宇宙用装備が追加されている。それに伴い、コアブロックを構成するコアファイターはも宇宙仕様へと改造されている。

フルバーニア最大の特色は、バックパックに取り付けられたブースター・ゴッドである。このブースターはフレキシブルジョイントで接続されており、推力方向をほぼ無制限に変えることができる。これによって、フルバーニアは機体重量を減らし、機動性・運動性を高める機体となっている。

得意に高いレベネで機体バランスがとれる機体であり、500年遠征における最終のMSと評価してもいいだろう。

機体製造士ガンダム0093

スターダストメモリー



シールド



ビームサーベル

60mmバルカン砲



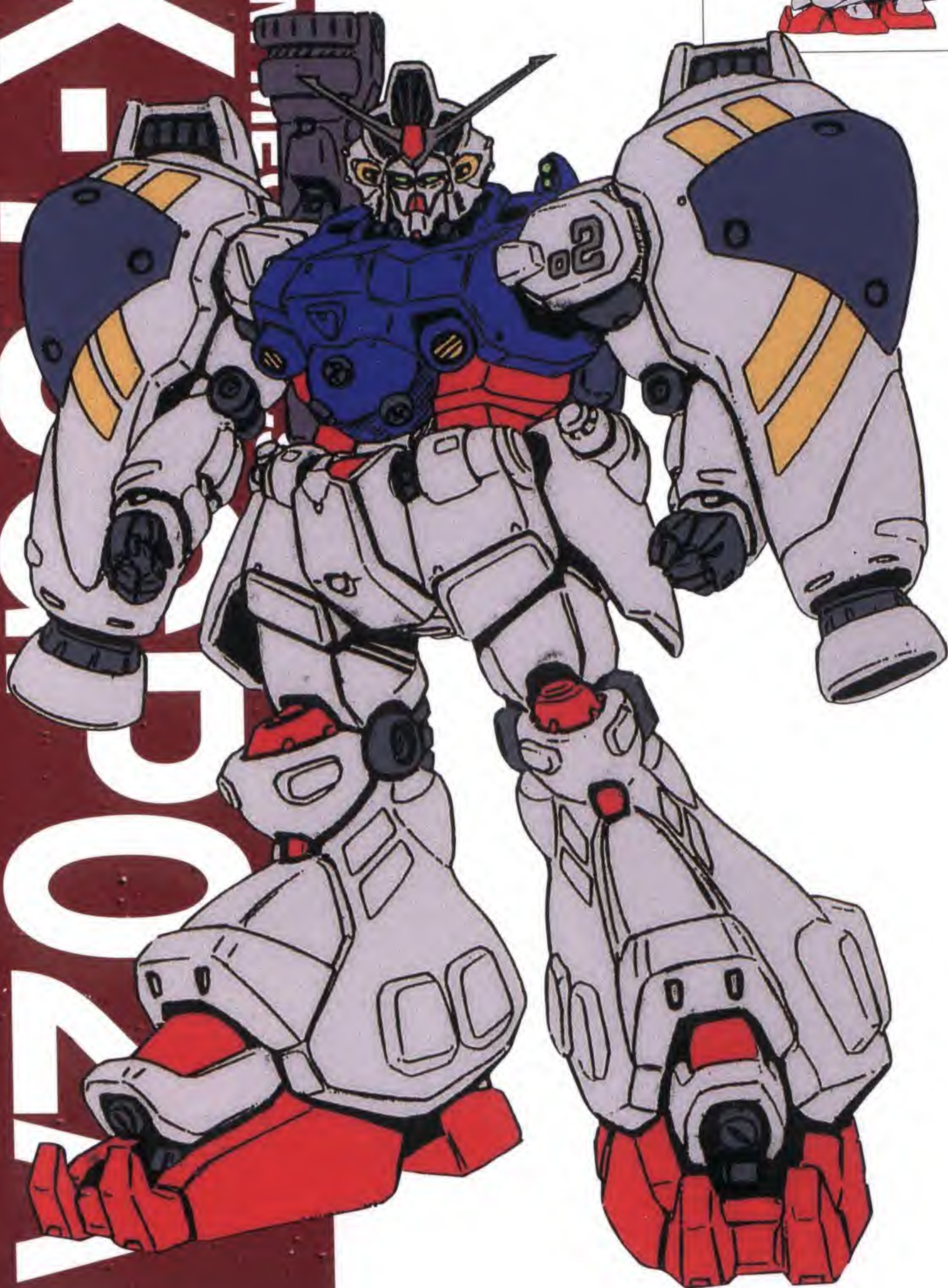
ビームライフル



ガンダム試作2号機

RX-

GUNDAM







# RX-78GP02A

## ガンダム試作2号機

開発分岐：機動汎用試作機MS  
製造会社：アナハイム・エレクトロニクス社

全高：標準高：19.5/19.5m  
本機：全機重量：54.5/52.0t  
ジェネレータ出力：1,500kw  
スラスター総推力：155,200kg

●「ガンダム開発計画」によって開発された2機目のMS。

機動汎用性によって採用が予定された機体だったが、その機動/機体上の優越性は、シフスキー機や機体下にある、その面々に高かった。このGP02Aは「機体整備方を有した機体型MS」として開発されたものである。

右肩部に取り付けられたアトミックバズーカより、60mm口径の弾を発射する。アトミックバズーカは射撃が速いため、GP02Aは30秒以内にその生存性が落ちた。そのため機体下の急降下機を可能とする大型スラスターを搭載し、また、機体下に搭載された機体を固定、機体には新機体一機体は機体が固定されており、機体下の急降下機と機体下の急降下機とを制御する。

### 機動汎用ガンダム0003 スターダストメモリー



シールド

アトミックバズーカ

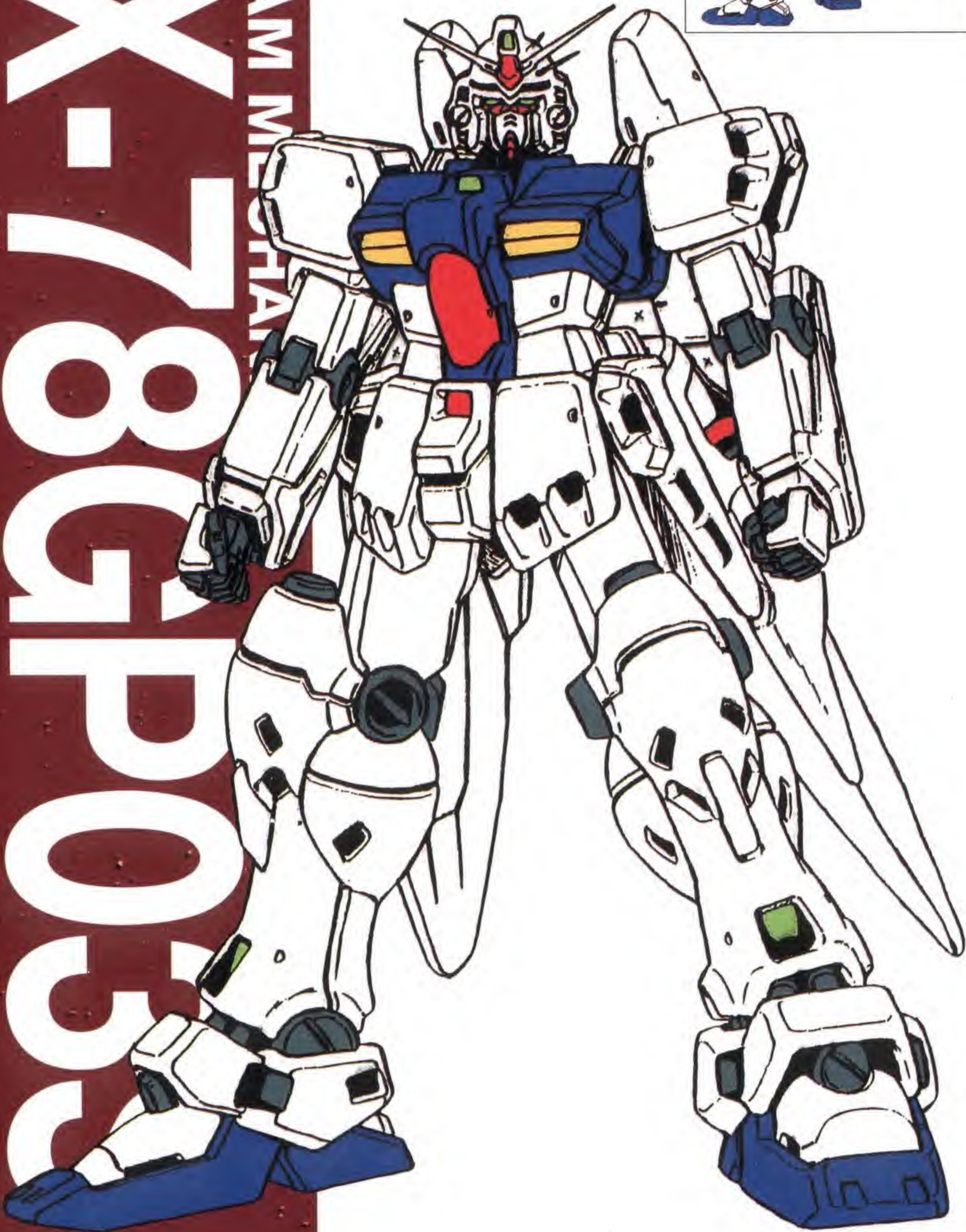
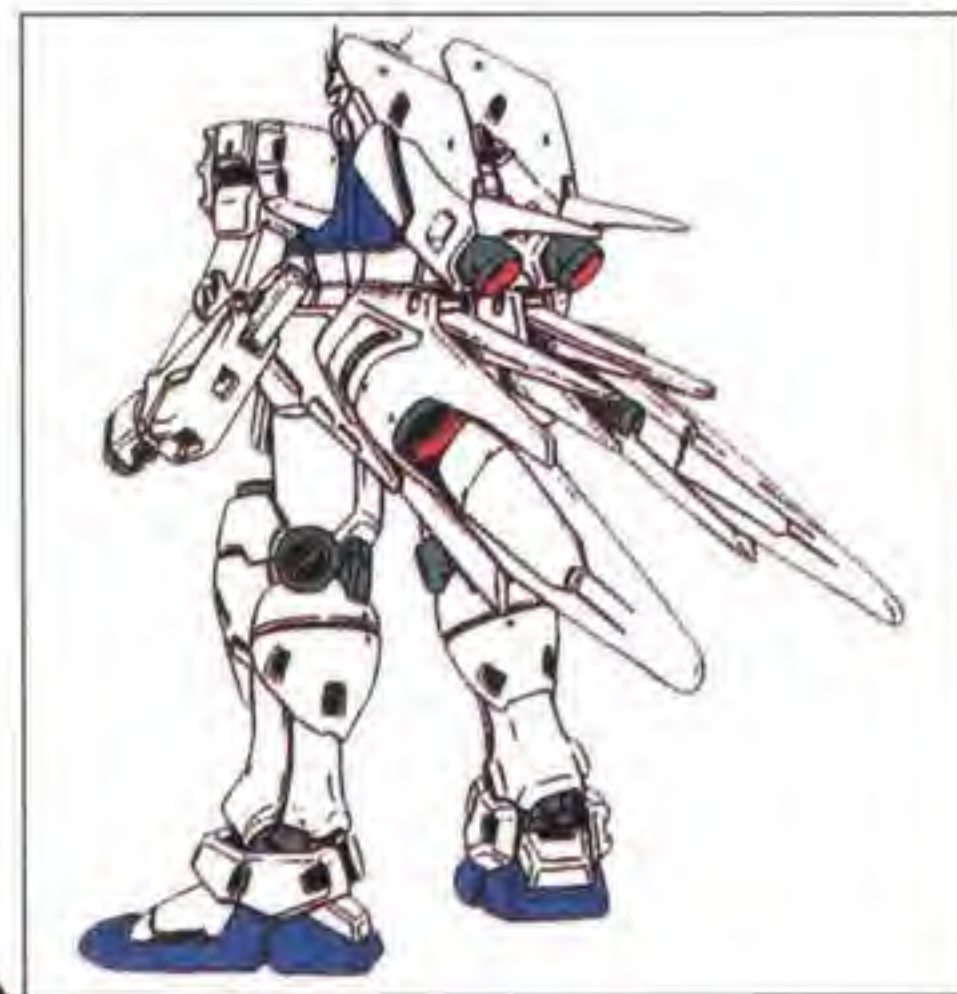
60mm口径機体用機

60mm  
バズーカ

ビーム  
サーベル



ガンダム試作3号機 ステイメン



RX-78GP03

GUNDAM MECHANICA





# RX-78GP03S

ガンダム制作3号機 スタイメン

機体分類：宇宙戦闘用試作機

開発会社：アナハイム・エレクトロニクス社

全高 機体高：18.2/18.0m

本体 全機重量：41.5/70.0t

ジェネレータ出力：2,000kw

スラスター総推力：100,000kg

■大型MA「アンドロダウム」のコアユニット(コアビーム演算システム)として開発された機体である。

GP03スタイメンは、試作コンテナ、無差別、大型ビーム砲などから成るアームドベース「オーキス」に合体、デングにビームライフルシステムを形成する。

この機体は単体の機体としても高い性能をもつ。機体に取り付けられたボールバインダーは、GP01のブラスターボイド同様、高い可動範囲をもち、高い運動性を実証している。オーキスのウェポンコンテナとの合体により、多様な武器の使用が可能となる。ボールディング・バスターはボールバインダーのバスターと並び、大威力のものが多い。



## ■機体主ガンダム0093 ステージストモリー

### ボールディング・シールド



ビームサーベル



ビームライフル

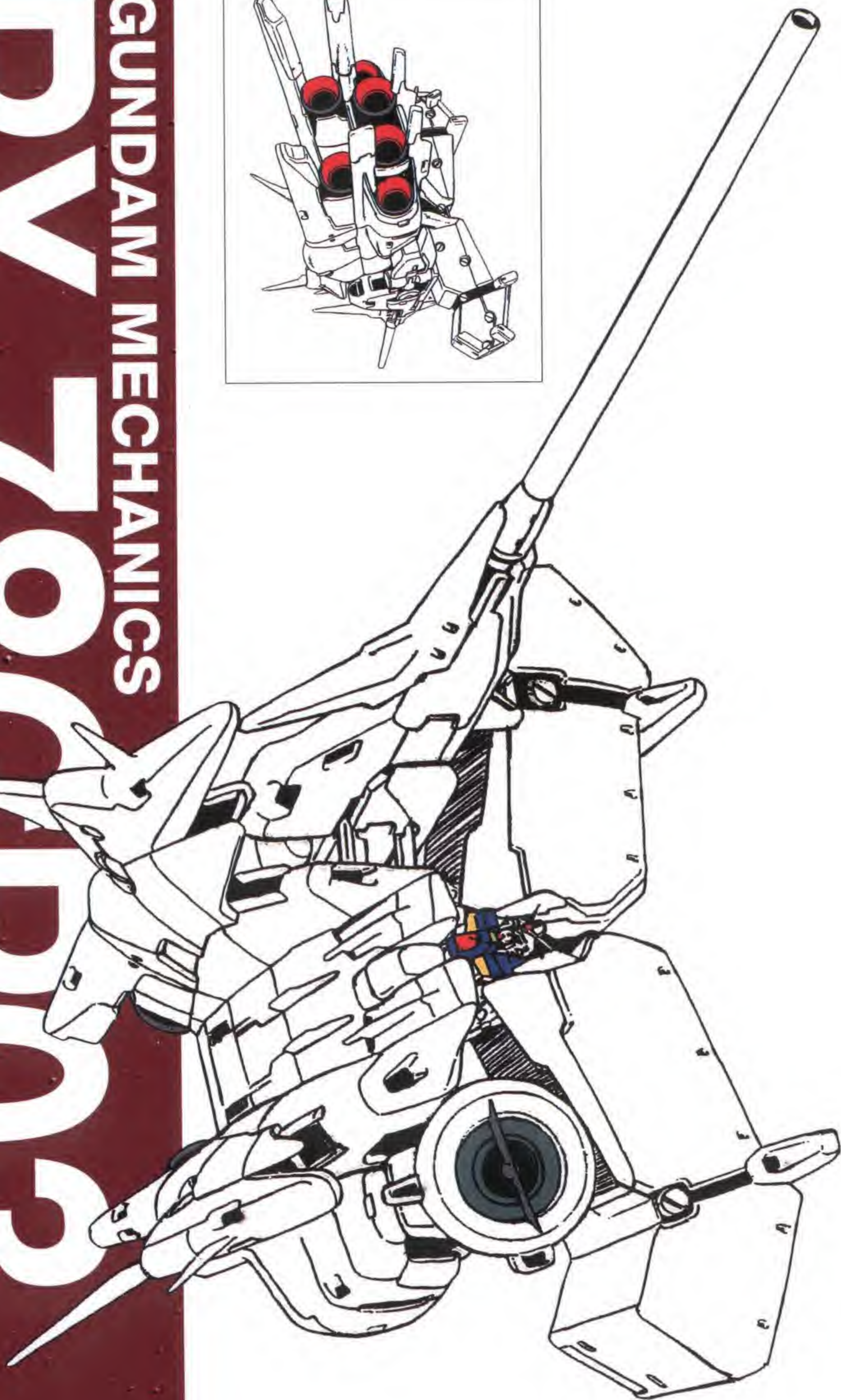
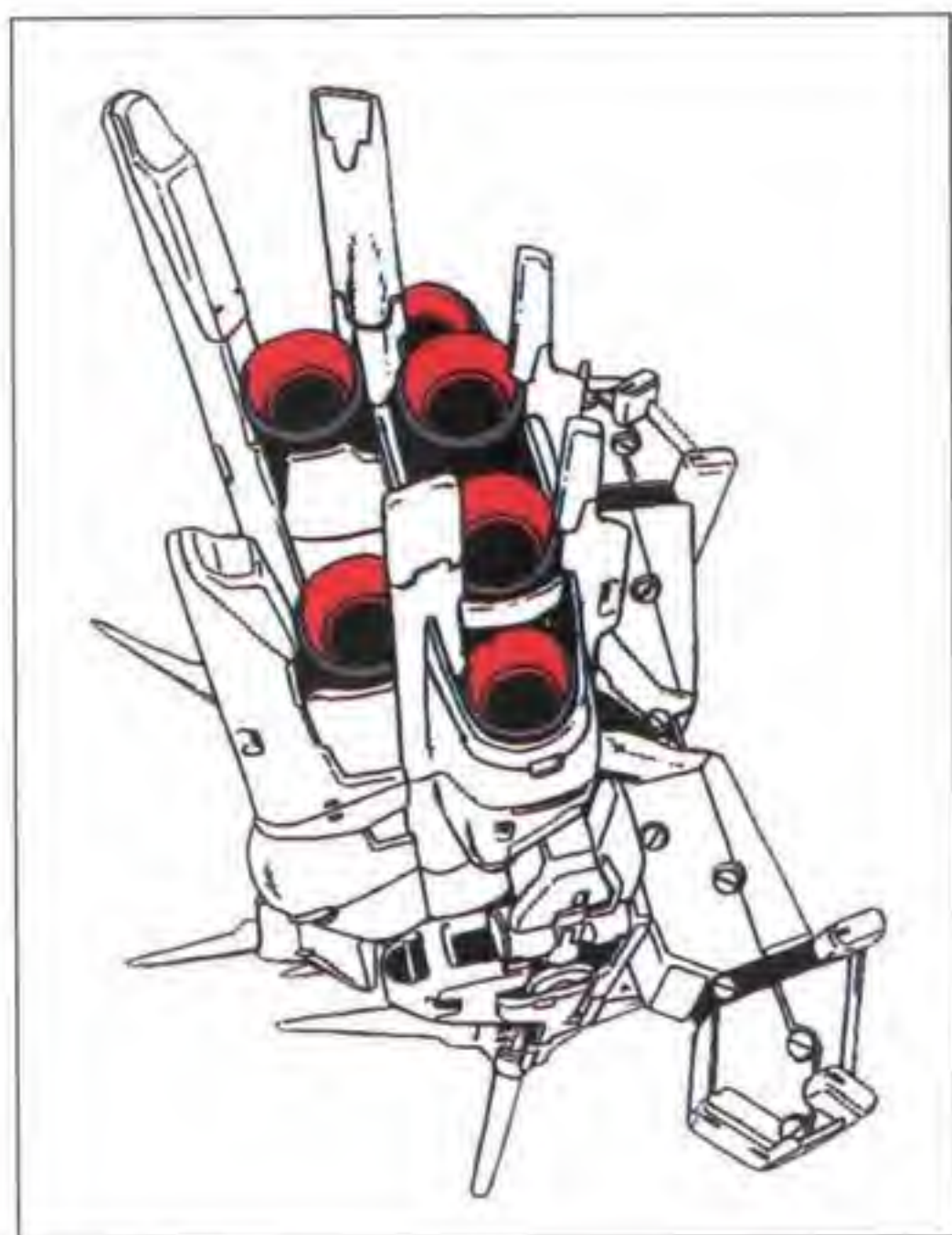




ガンダム試作3号機

# RX-78GP3

## GUNDAM MECHANICS





# RX-78GP03

## ガンダム試作3号機

機體分類：試作機・試作機  
製造会社：アナハイム・エレクトロニクス社  
全長：全高：140.0cm/30.5m  
本体：全重量：226.4  
48.8kg  
ジェネレータ出力：130,000kw  
スラスター総推力：200,000kg

●「GP03ガンダム」は「ガンダム」の試作機である。大出力と高機動力を兼ね備える機体構造として開発された。

ガンダムは「ガンダム」の試作機である。中核部分における動力伝達である。機体上部のウェポンコンテナには必要に応じてさまざまなオプション武器が搭載され、対艦攻撃や対空戦闘など、あらゆる戦況状況への対応が可能とする。その機体は極めて高く、1機で4000kgに達する。

機体上部には複数の主動力の動力伝達を行うメガ・ビーム銃が、機体下部にはビーム兵器による攻撃を無効化するフィールドジェネレーターが、取り付けられている。

■機体構造ガンダム0003  
スターダストメモリー

メガ・ビーム銃



マイクログ  
サイクル  
コンテナ



フィールド・  
ジェネレーター



大型ビーム  
サーベル



大型ビーム  
サーベル



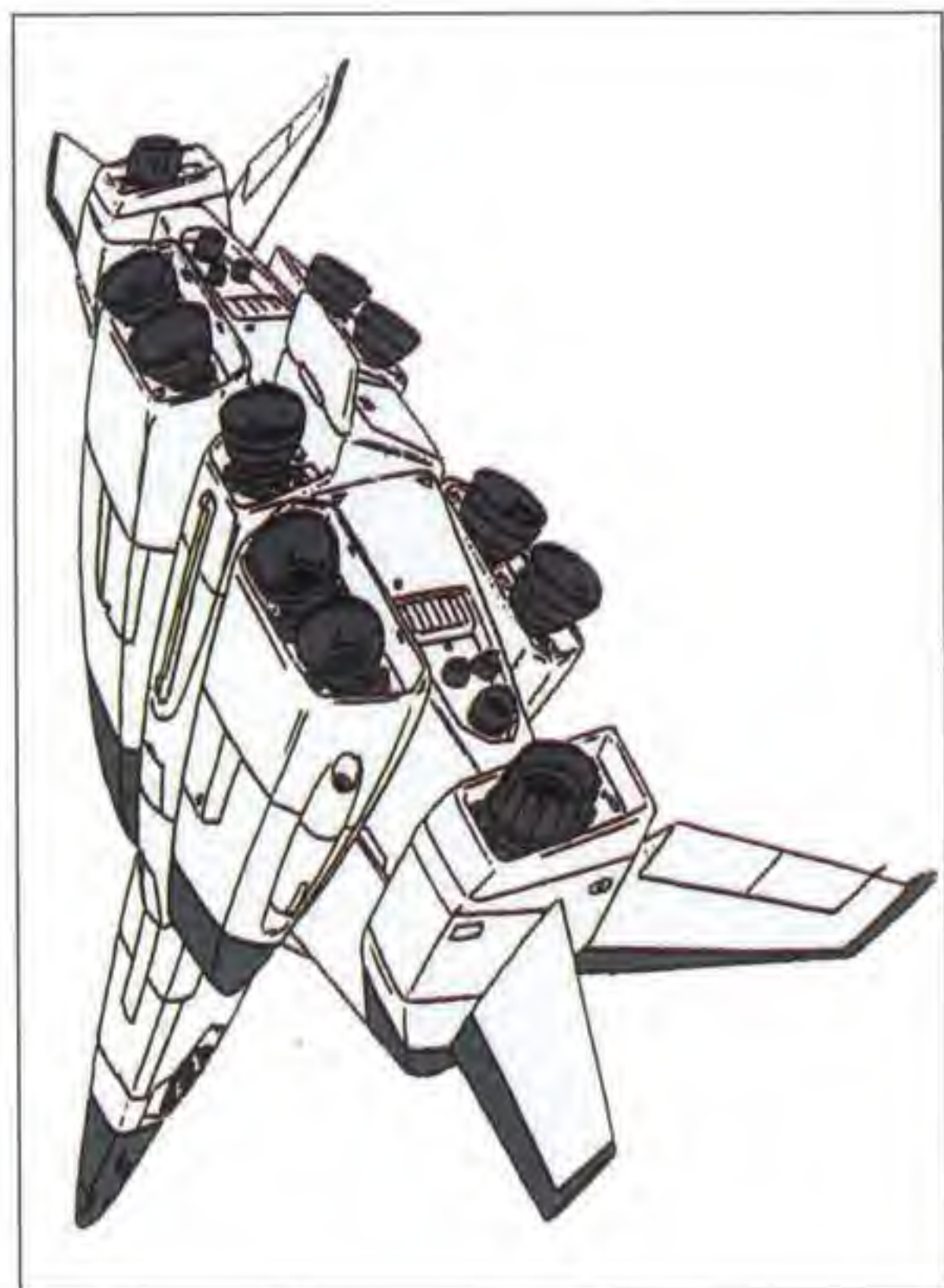
クロー



セイバーフィッシュ

GUNDAM MECHANICS

FF-3





# FF-S3

## セイバーフィッシュ

機体分類：空軍用戦闘機

製造会社：ハービッツ社

乗員：1名



●「FF-S3セイバーフィッシュ」は、多用途戦闘機として開発された「FF-3」の宇宙空間用タイプである。

「FF-3」開発にあたって機体構造の統一が図られ、機体の機翼により宇宙・高高度・大気圏内と、あらゆる戦闘領域での運用が可能と判断されている。宇宙仕様の「FF-S3」では、通常4基のブースターパックを装備して使用される、1基整備以前の運用では、宇宙空間の戦闘に十分な出力として使用されており、開発当初は機密性で厳密に封鎖される機一の兵器であった。

■4基のブースターパック(ブラスター)

■機体構造のガンダム



ミサイルランチャーとミサイル

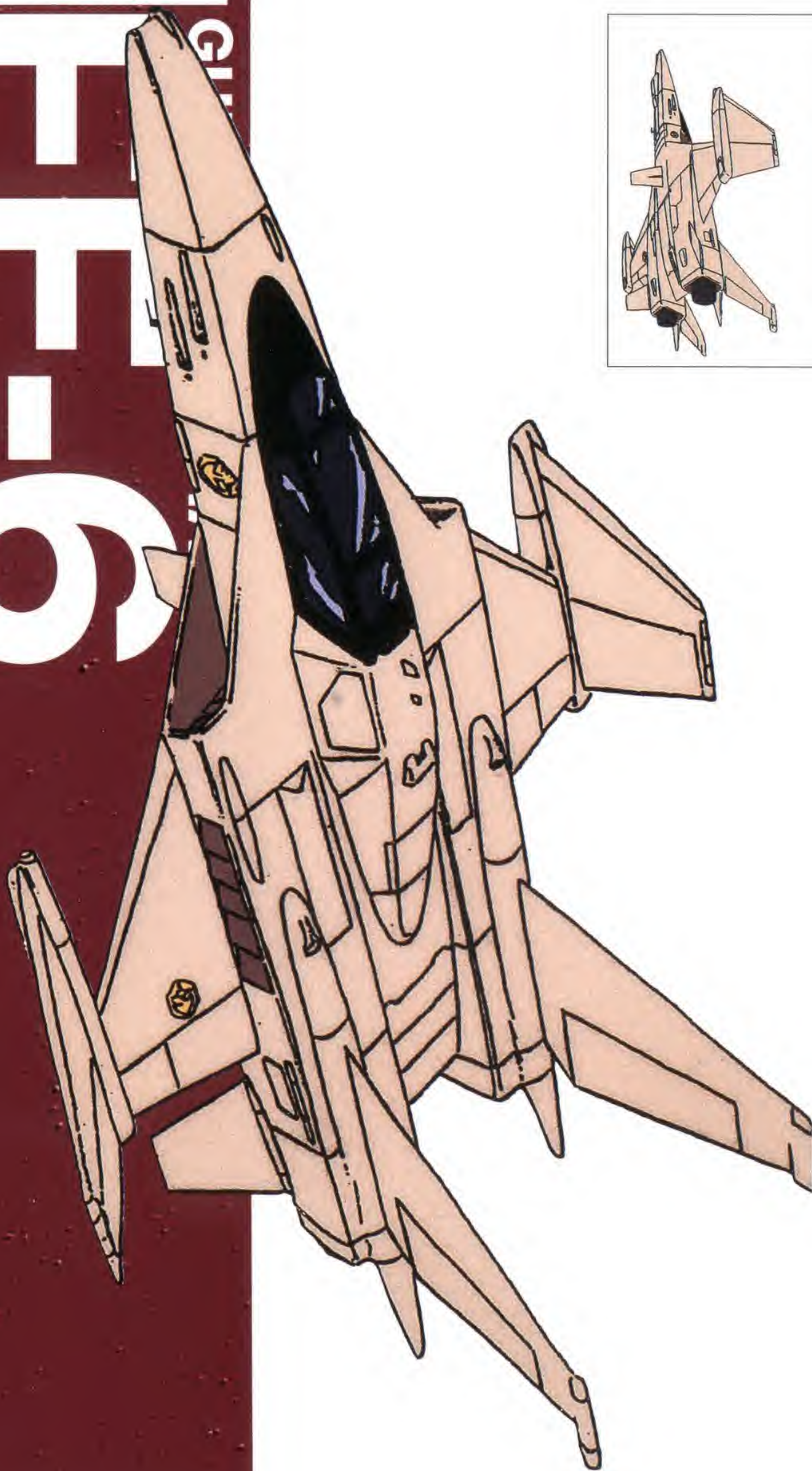
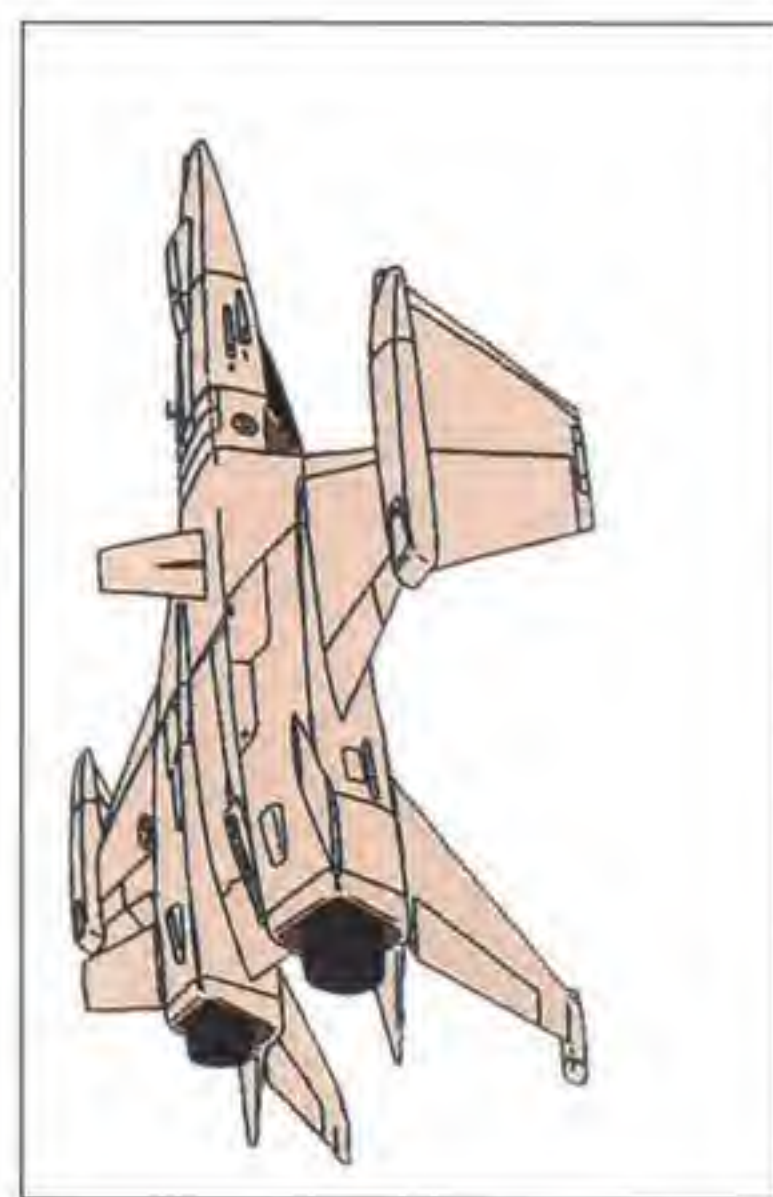


25mm機関砲



TINコード

T  
T  
の





# FF-6

## TINコッド

機体分類：制空戦闘機  
製造会社：ハービッツ社  
全長：14m



●大気圏内での制空戦闘を主任務として開発された遠征軍の小型制空戦闘機。

遠征戦力の制空戦を確保する、制空戦機が主な任務のため、戦闘距離はそれほど多くない。そのため機体は小型化と運動性能が重視され、いかなる戦場でも駆逐する空中戦能力が与えられた。武装は20mm機関砲とAAM(空対空ミサイル)。AAMは機体の推力特性を向上させるため、外部取り付け式ではなく内蔵式となっており、流形のランチャーによって発射される。

なお、TINコッドはコア・ファイター開発の母体となったことでも有名である。

目黒ビルダーズ・バリエーション(プロモーション)  
機体製造士エバンダム



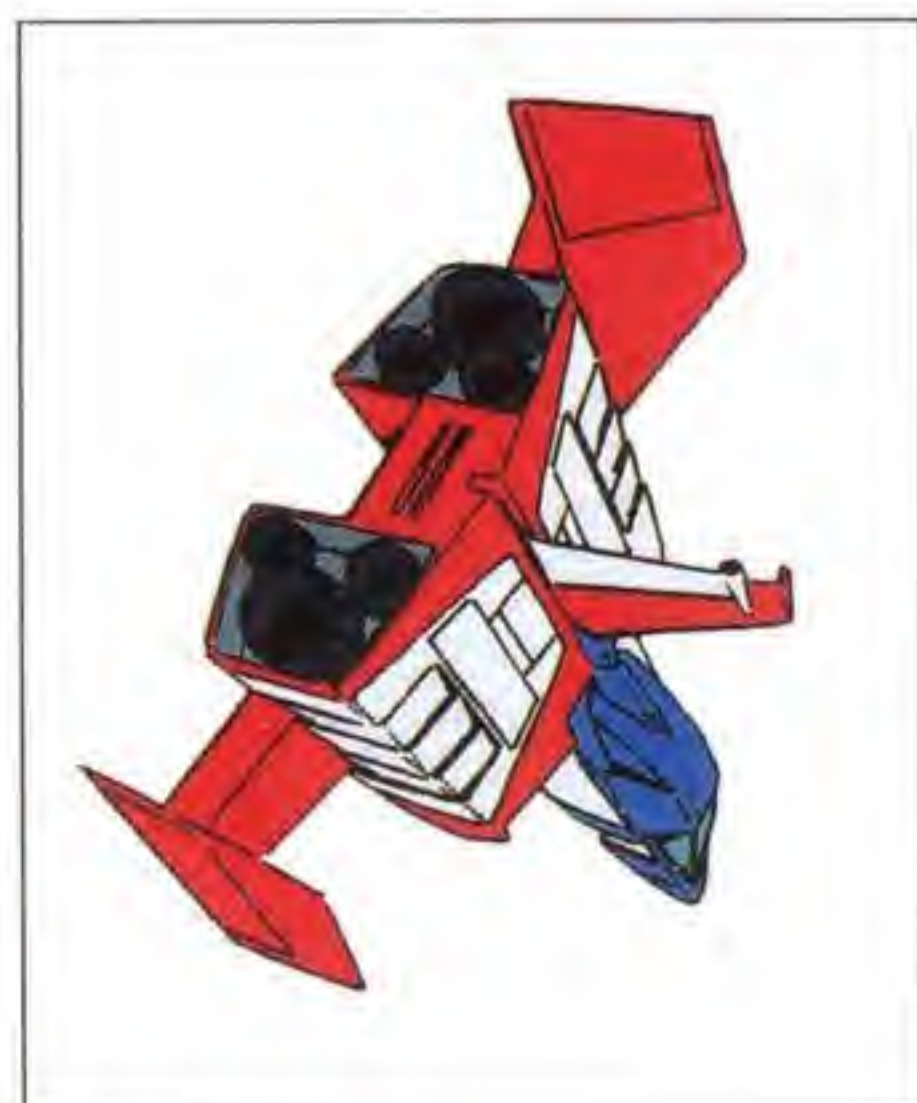
20mm機関砲



コア・ファイター

# GUNDAM MECHANICS

# FX







# FF-X7

## コア・ファイター

機体分類：小型特機用機  
製造会社：ハービタ社  
全長：全幅：8.6 5.8m  
全機重量：2.9t  
乗員：1名

●FFXシリーズのコア・トランポートシステムとして開発された小型戦闘機。

コア・ファイターにはFFXシリーズの機体でも数少ないコンピュータが搭載されている。また、宇宙、地上の両方での運用を可能にするため、推進装置には高価な小型熱核ジェット・ロケットエンジンが使用された。これは機体設計時にはジェネレーターとしても機能する。武装は25mm機関銃と内蔵式のペンシルミサイル。最高機動能力まで持った万能戦闘機である。

■機体組立士ガンダム



ペンシル  
ミサイル



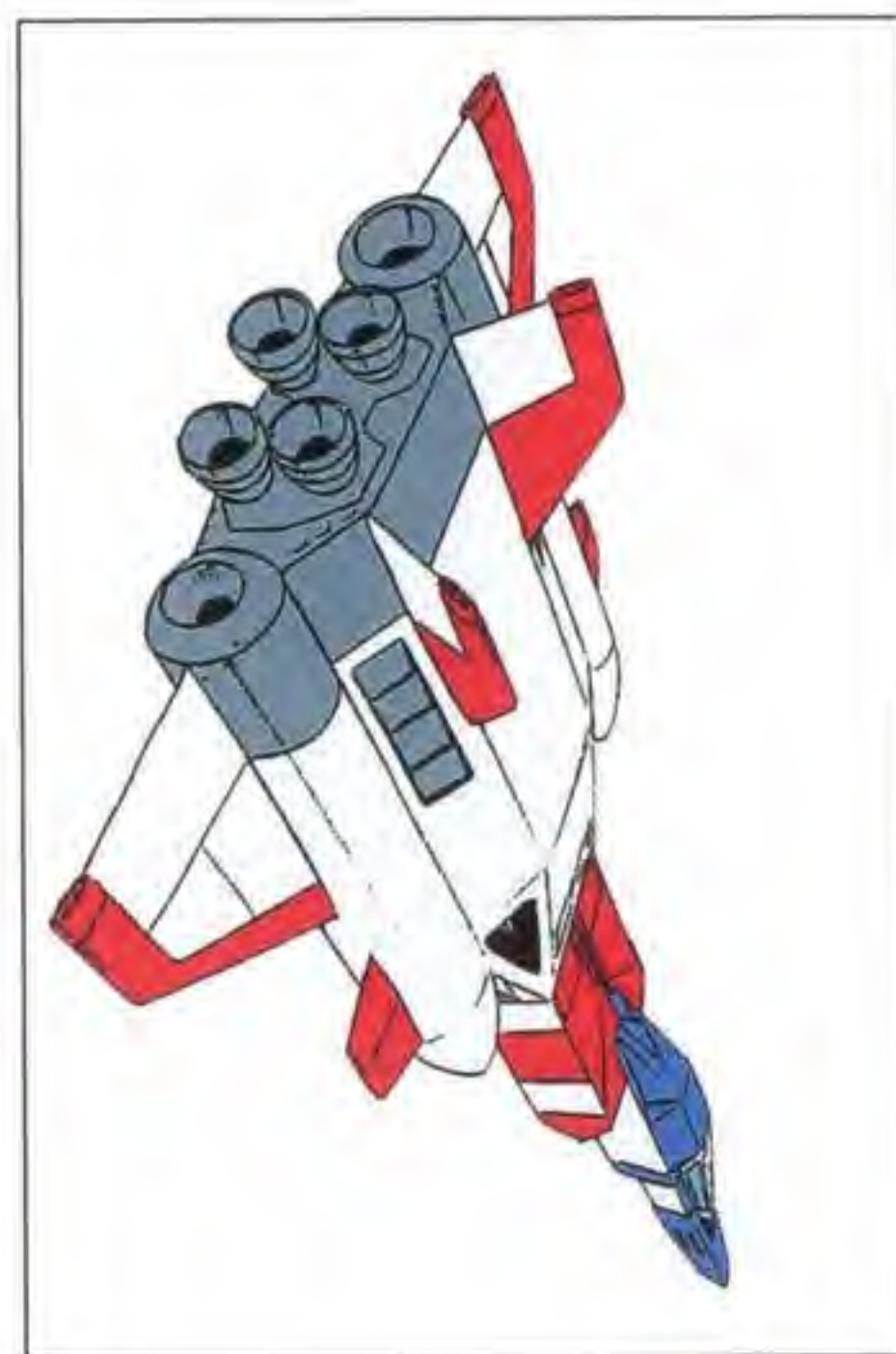
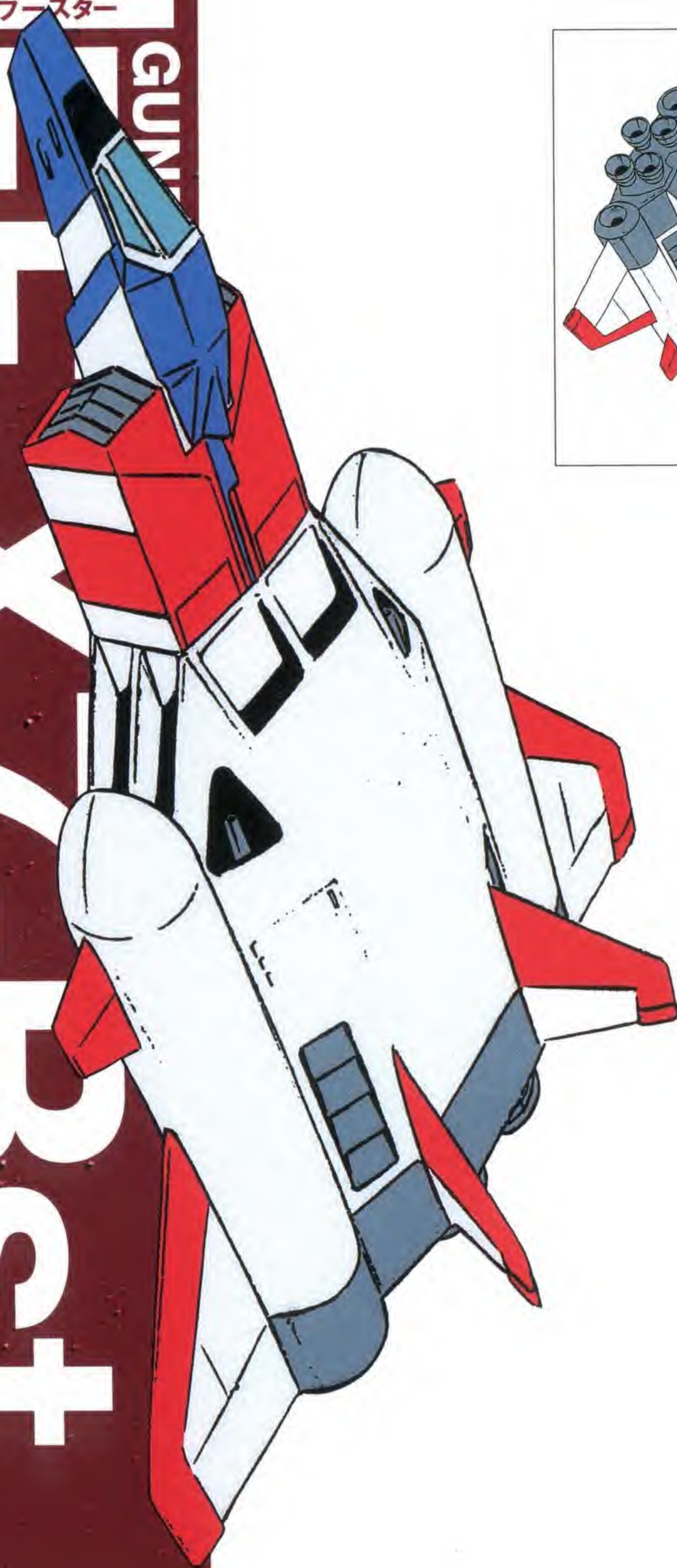
25mm機関銃





コア・ブースター

GUNN





# FF-X7-Bst

コア・ブースター

種別分類：多用途戦闘機

製造会社：ハービタ社

全長：全幅：13.0/12.8m

全機重量：18.3t

乗員：1名

●コア・ファイターにブースターユニットを装着し、パワーアップを図った機体。宇宙と地上の両方で使用できる多用途戦闘機である。MSの支援メカとして試験的に開発された。

全武器として、ビームライフル並みの威力を持つメガ粒子銃を2門装備した他、多弾頭弾頭なども開発されている。

コア・ブースターはMSのサブ・ファイナンスシステムとしての使用も可能であり、1機のMSを牽引して航行することができた。

■機体構造主ガンダム(前機体)



ビームキャノン



25mm機関砲



Gファイター

GUNN



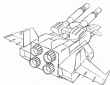


# G-FIGHTER

## Gファイター

機體分類：MS変形機特種戦闘機

機高：1台



■「RX-78ガンダム」の変形用に変化された特種戦闘機。

宇宙・地上の両方で運用が可能で、地上ではジオン軍のトライバスターに「サブ・フライ・システム」として、MSを機上に乗せて運用することができる。また、Gファイターは機体を機体に分断し、「RX-78ガンダム」をその内部に収納することができる。この状態は「Gドーマー」と呼ばれ、これにより、ガンダムの両脚部移動も高速に行なうことが可能とした。

Gファイターはガンダム機体の両足メカという特徴上、2機が生産されることになっている。

## ■機体史上ガンダム(TV版)



ビームキャノン



GUNDAM

FF-X(7)IIFb

FF-X(7)IIFb



FF-X(7)II





# FF-X(7)II/Fb

## コア・ファイターII

商品分類：全形特約品限定品

製造会社：アサハイム・エレクト

ロニクス社

全長 全幅：14.7/10.5cm

全高重量：15.5g

スラスター総数：84,000kg

価格：1名

●「FF-X(7)II/Fb」の開発技術は、コア・ファイターとして開発された小型戦闘機。このシステムが「コア・プロテクションシステム」と呼ばれることからわかるように、これは「FF-X(7)II/Fb」で採用されているものを改良し、開発したものである。

コア・ファイターIIのスラスターは、MS開発時にはその主要な目的のメインのスラスターとなる。このため、コア・ファイターIIの仕様を変更することで「FF-X(7)II/Fb」は宇宙/地上両方での運用が可能である。

最新型地上ガンダム0083

スターダストメモリー



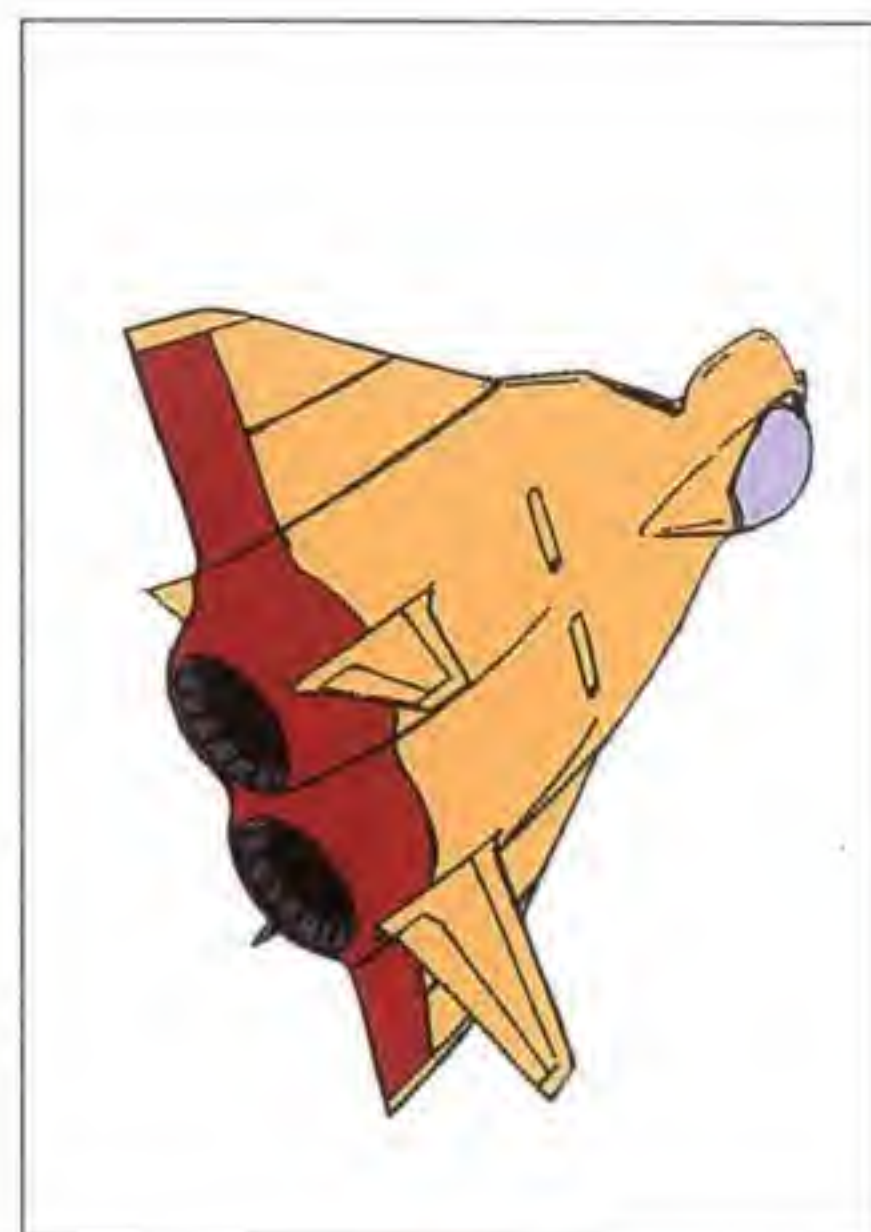
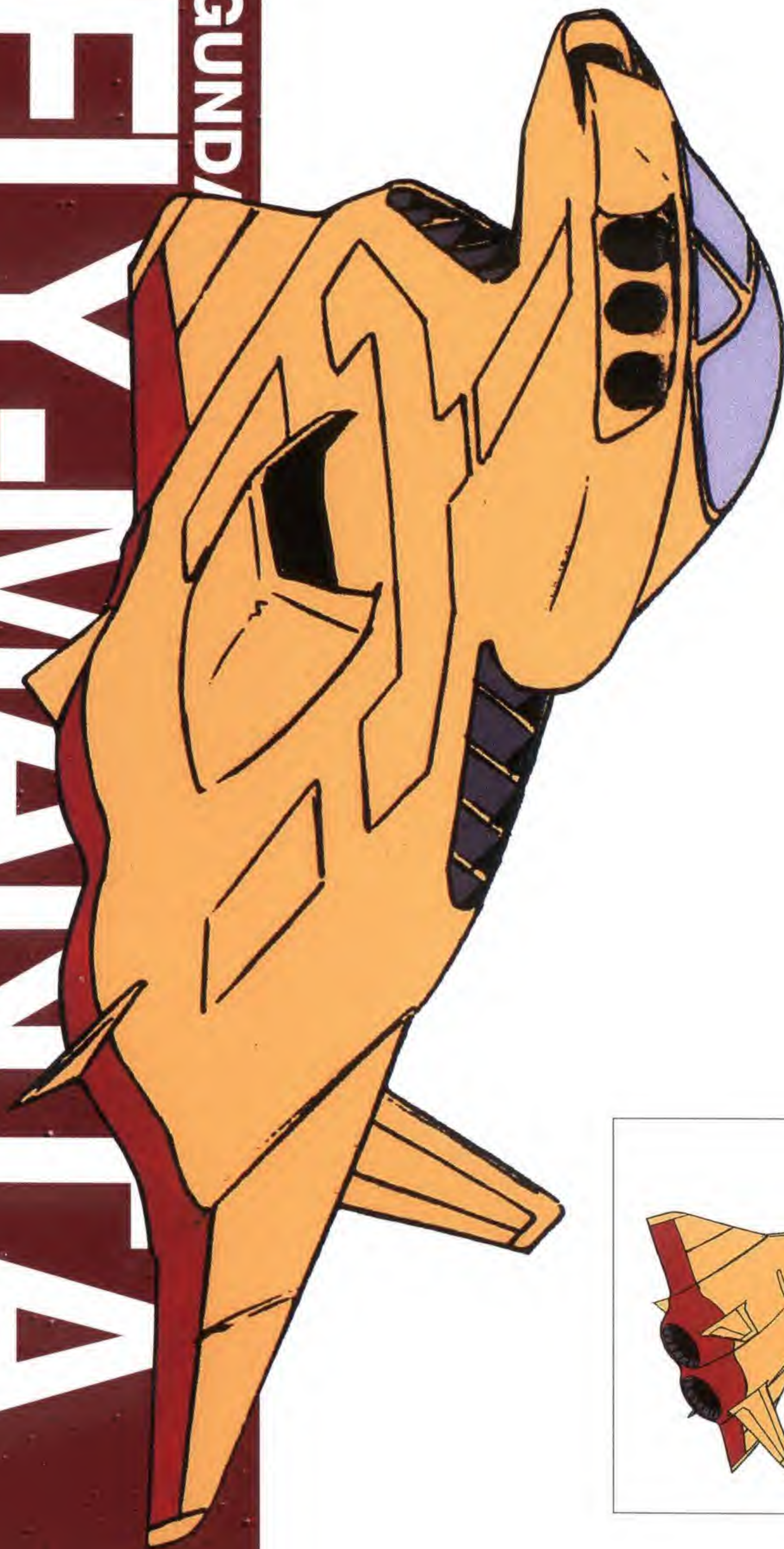
ビームガン





フライ・マンタ

GUNDAM







# FLY-MANTA

フライマンタ

機体分類：戦闘攻撃機

開発会社：

全長：全幅：17.0×13.0m

全機重量：11.7t

乗員：1名

●対地攻撃を主任務とする陸軍用の戦闘攻撃機。

機首に装備された8本の多目的ランチャーは高い命中精度と、空対空・空対空の各種ミサイルが搭載可能である。

機体後面の空気取り入れ口は、25mm機関銃が装備されており、これは自衛の目的に使用される。その他、胴体下、翼下のランチャーにはスマート導弾や対地ミサイルなどが取り付け可能であり、幅広い任務の遂行が可能となっている。

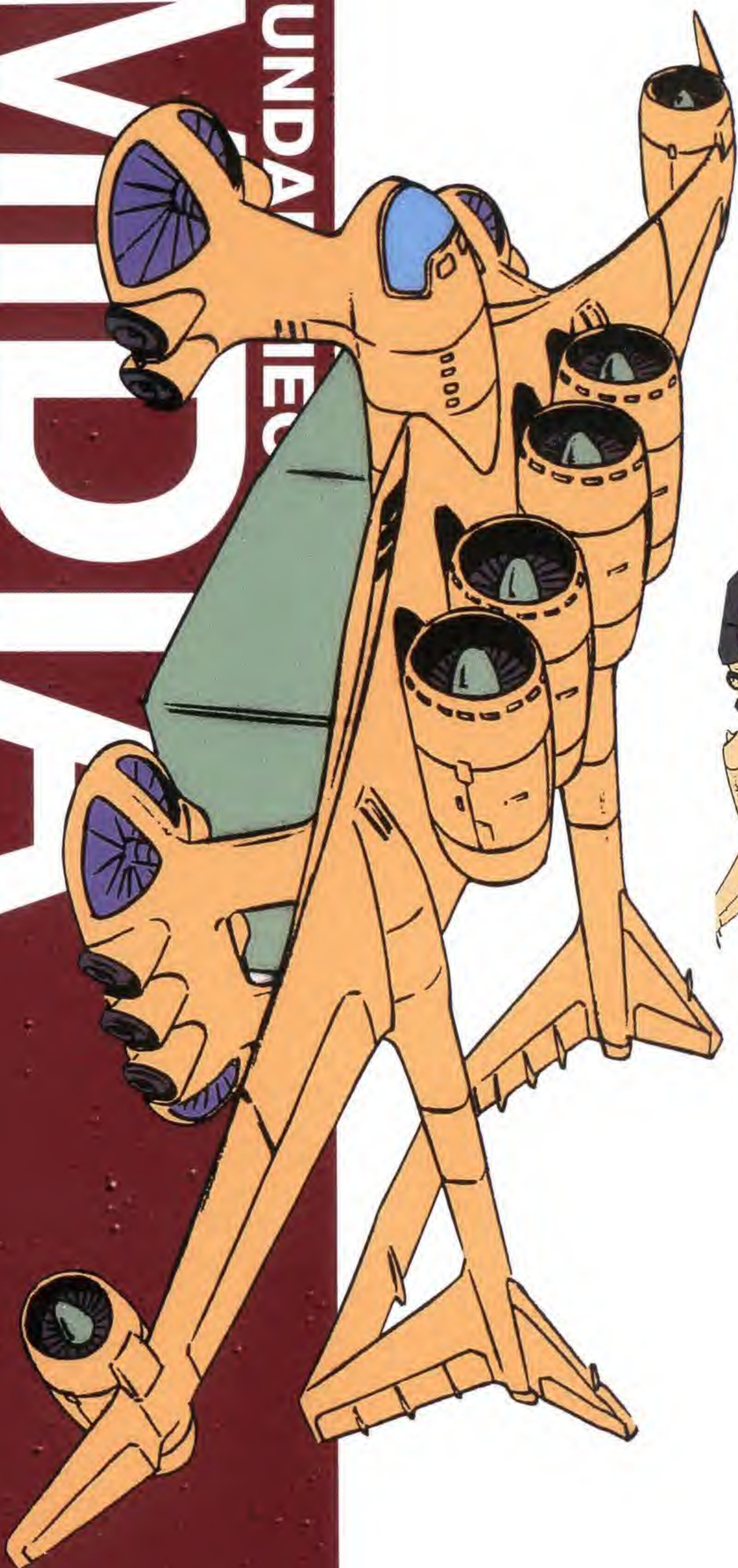
主力戦闘攻撃機として、陸軍の多くの基地に配備されている。

■機体短主ガンダム

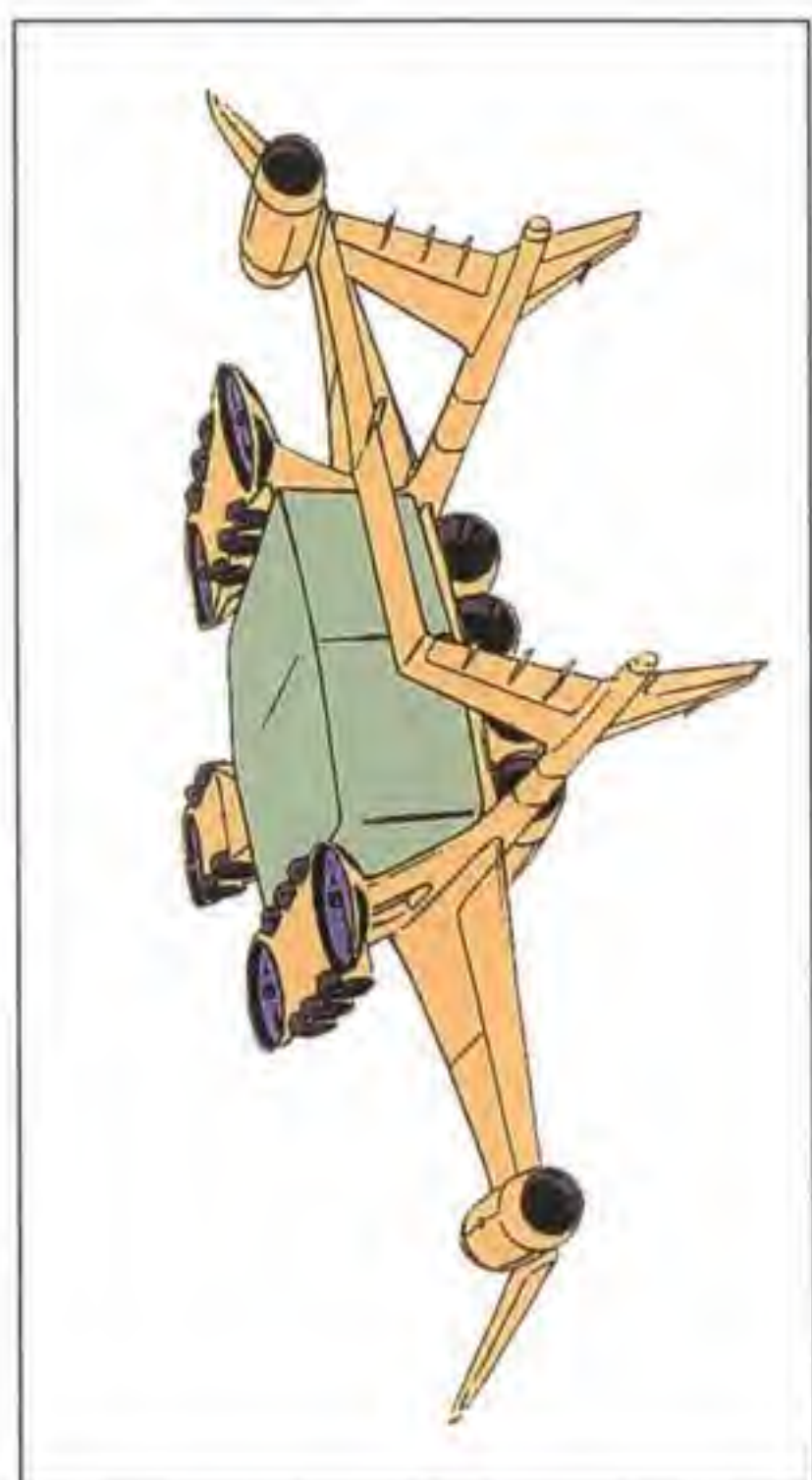
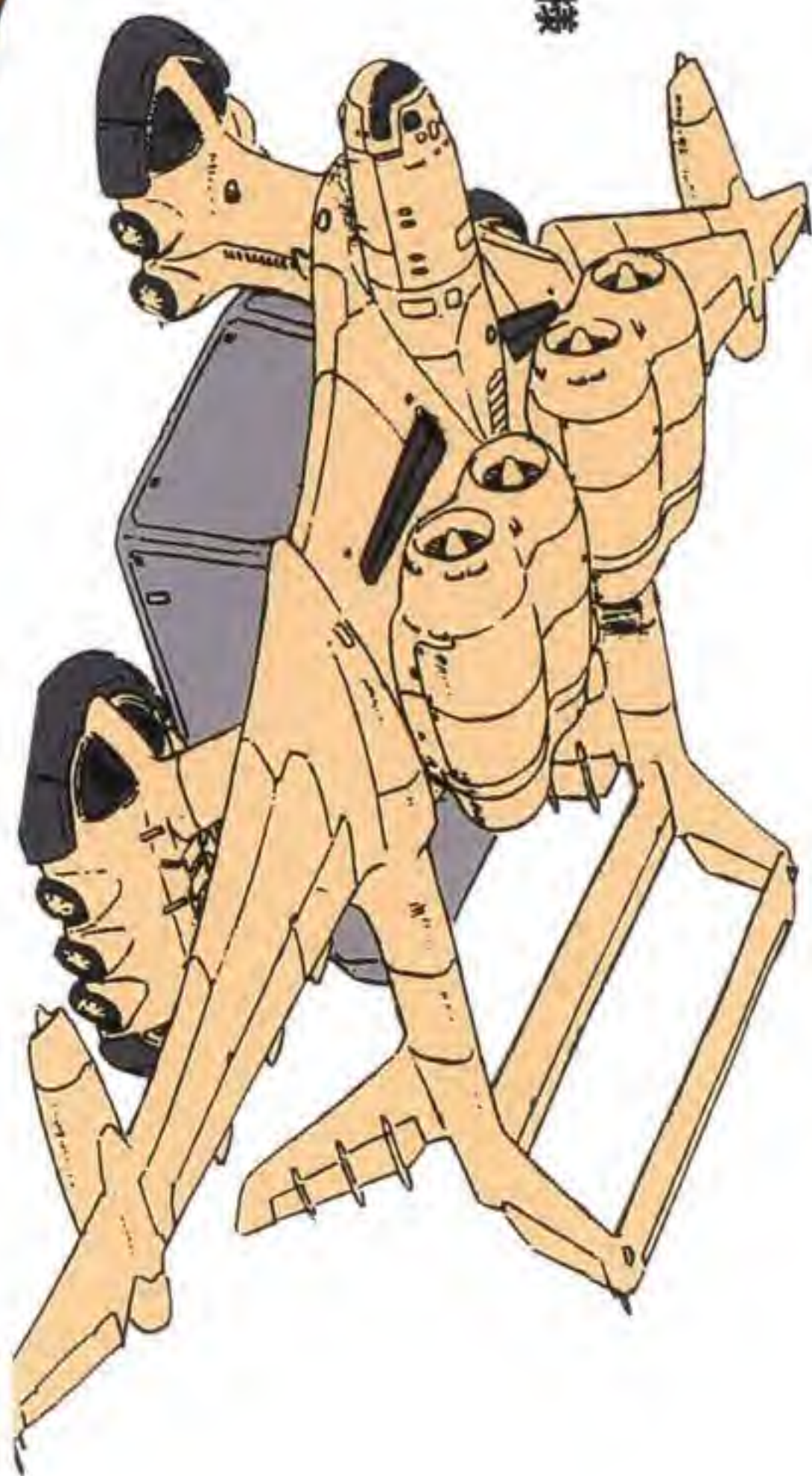


6連射多目的ミサイルランチャー





MS空挺降下仕様







# MIDIA

ミデア

機体分類：輸送機

製造会社：ミデア社

全高：全幅：45.0 57.7m

全機重量：245.0t

最大機動量：160.0t

乗員：2+6名

●通称「箱」の大型輸送機。輸送目的の機体としては、通称「箱」でも多くの機体を持っている。

8基のローターを上げ、6基の機力をジェットエンジンに換装して使用する。このローターとジェットエンジンにより、ミデア輸送機は160tという大容量の機動能力を得る。主に通称「箱」の各基の機動能力の向上への機動機体の輸送に使用した。なお、一年戦争後にはエンジン出力も向上し、機動量620t以上になったタイプも配備されている。

一応、対空戦闘能力が装備されているが、基本的に戦闘能力はない。

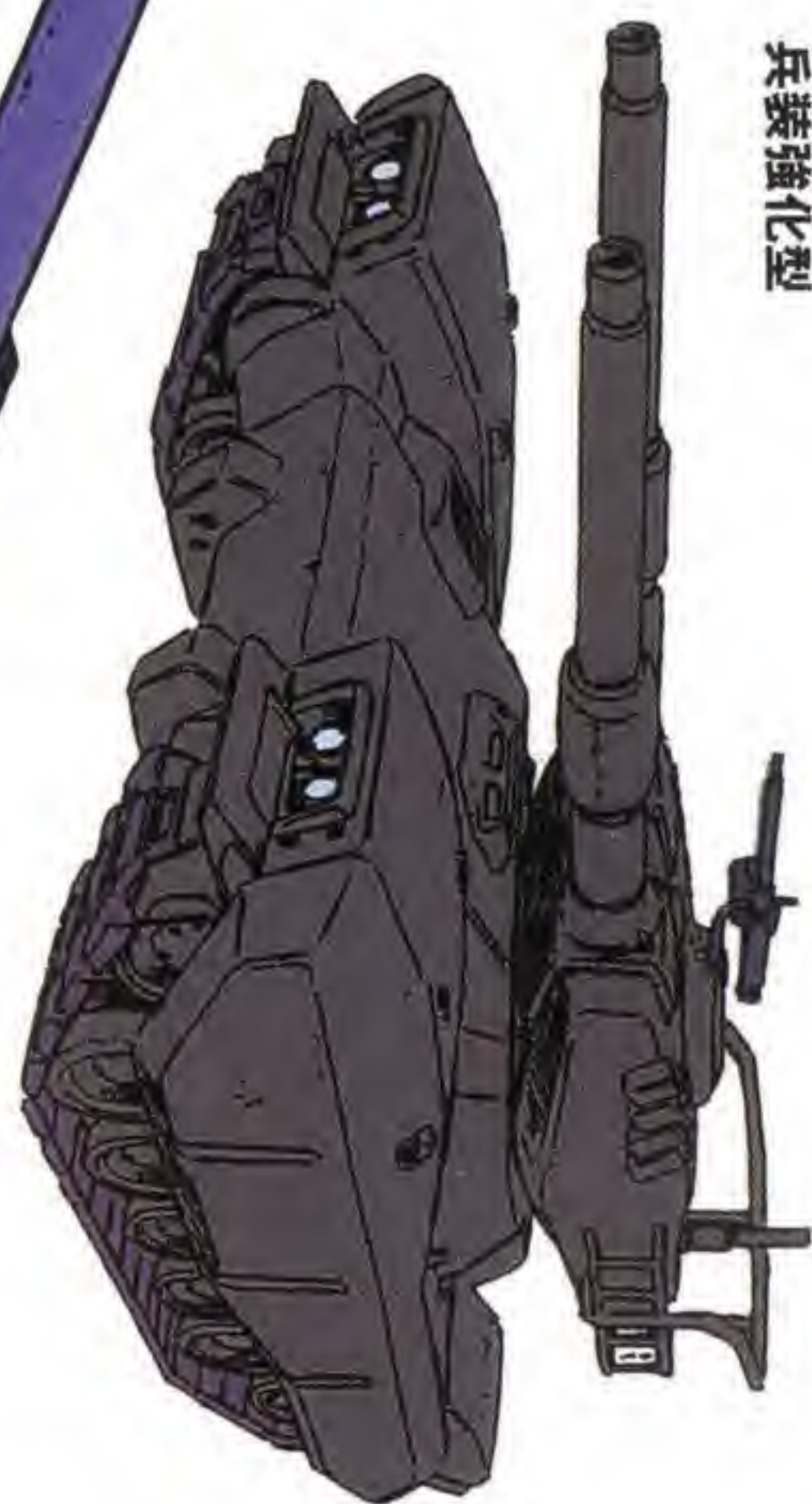
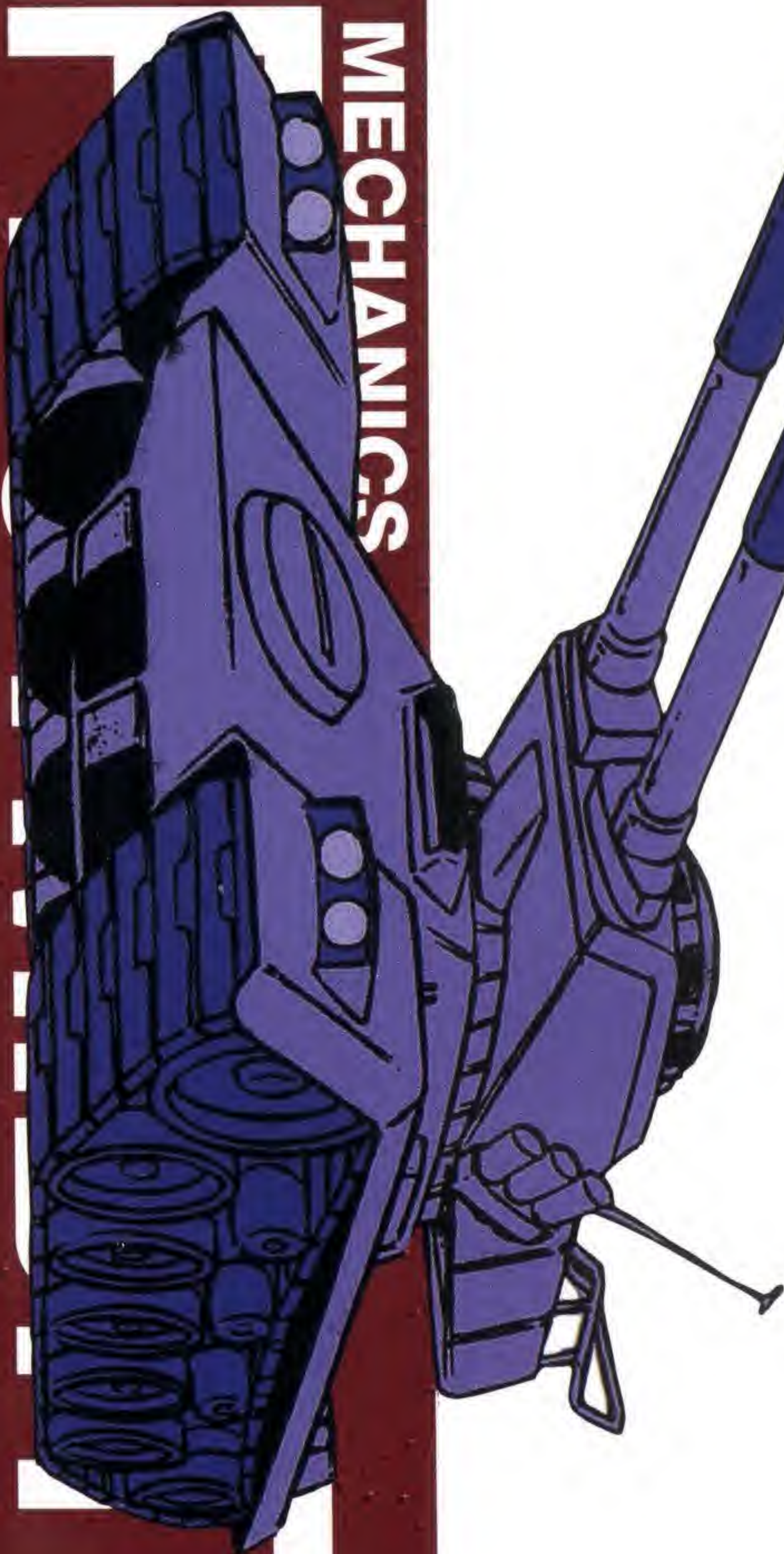
■機動戦士ガンダム

■機動戦士ガンダム 第0083小隊

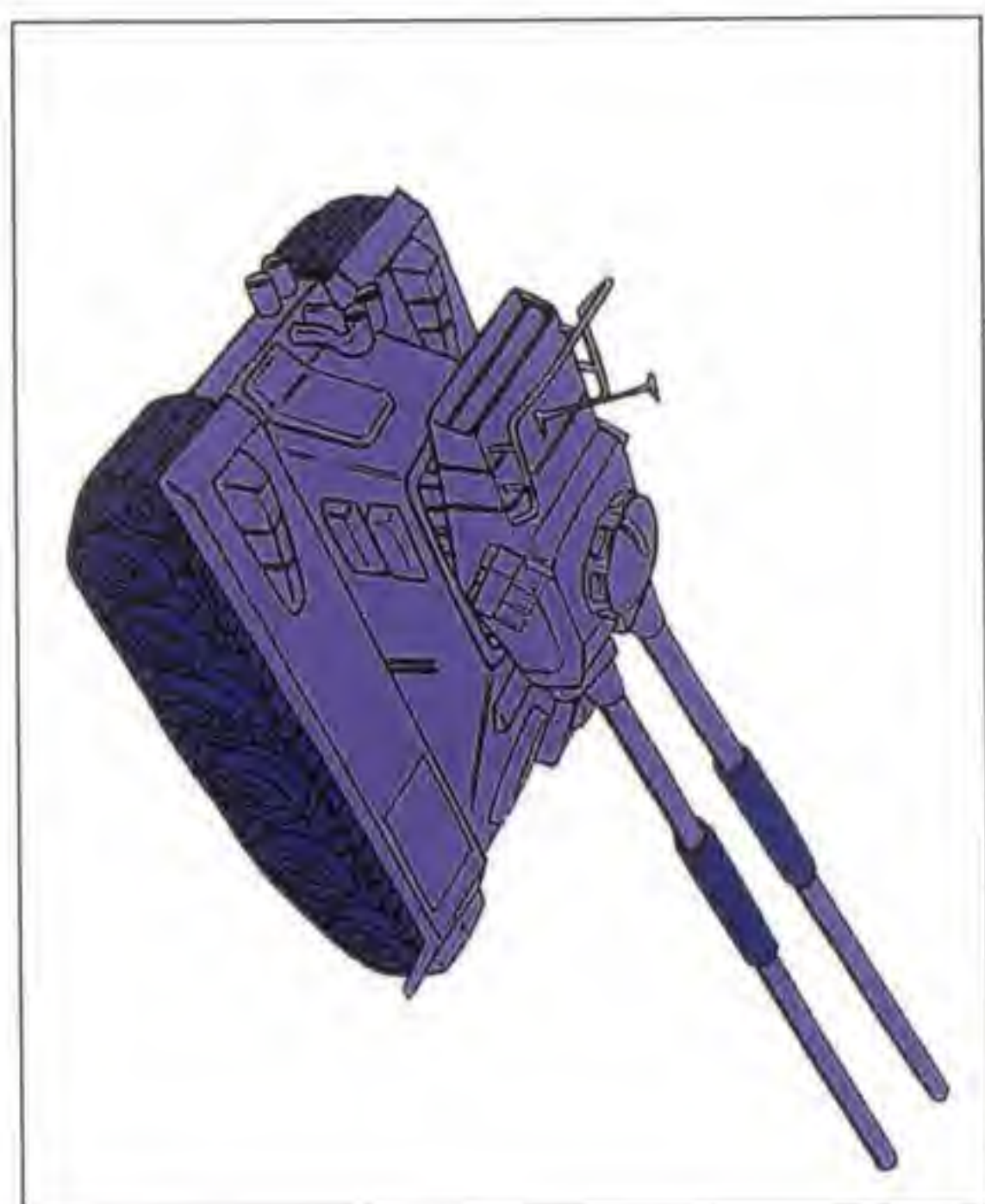




# TY GUNDAM MECHANICS



兵装強化型





# TYPE 61 M.B.T.

## 61式戦車

車体寸法：生力戦車

乗員：3名

●平成世紀2001年に制式採用された、陸自軍の主力戦車。

全長である350cm=35.2門装備している、砲塔から3本の砲身が伸びているという、独特のフォルムを持つ。乗員は、車長・射手・ドライバの3名で、主砲弾の装填には自動装填装置が使用されている。兵器としては固定化しており、竹槍向上車としてバネ式にスプリング電子装填システムなどに各種改良が施されている。

一年間を必要とする通常の生力兵器であったが、地上での戦闘力としては威力が強く、戦場に耐えるのは難しくなった。

■戦車戦士ガンダム

■戦車戦士ガンダム 第001号機



150mm砲



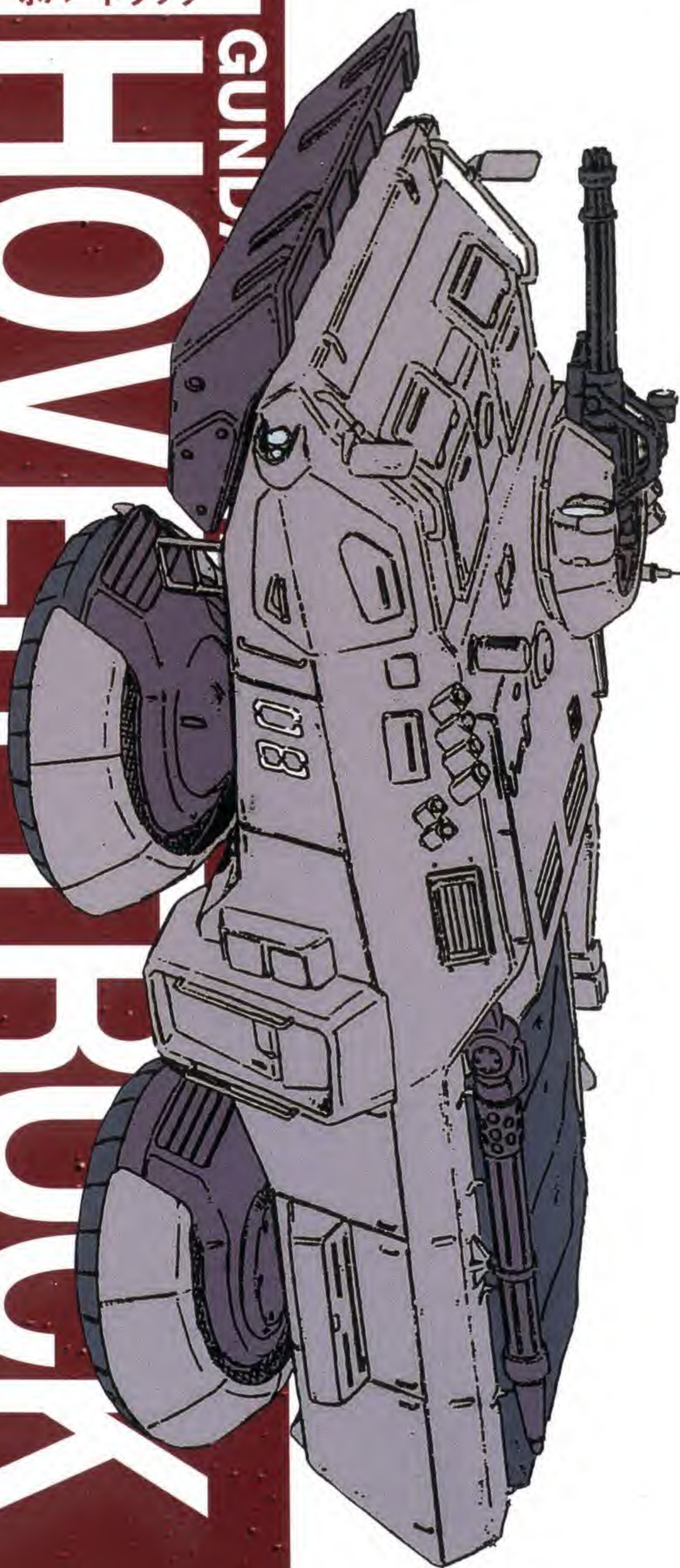
12.7mm機関銃





ホバートラック

GUNDAM



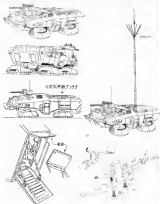


# HOVER TRUCK

## ホバートラック

商品分類：模型玩具車両

価格：2～4巻



●4巻は全開閉として開発された運転系のホバートラック車種。

本体は20mmバルカン砲と機関銃、遠望のサポーターやバンプンナー（機中を仕切る壁と動く扉）による構造で、4巻の制御装置を行き、特にバンプンナーを動かした「機」による遠望は、従来のレーダーが役に立たない、ミクスチャー・電子制御下において、車内に設置された。本体は機中の両側は、機中や手動装置などの補助装置の設置に使用される。

運転系の地上制御では、4巻の各小機にこのような制御装置を運行させるのが特徴となっている。

■機中機士ガンダム 機中機士小機



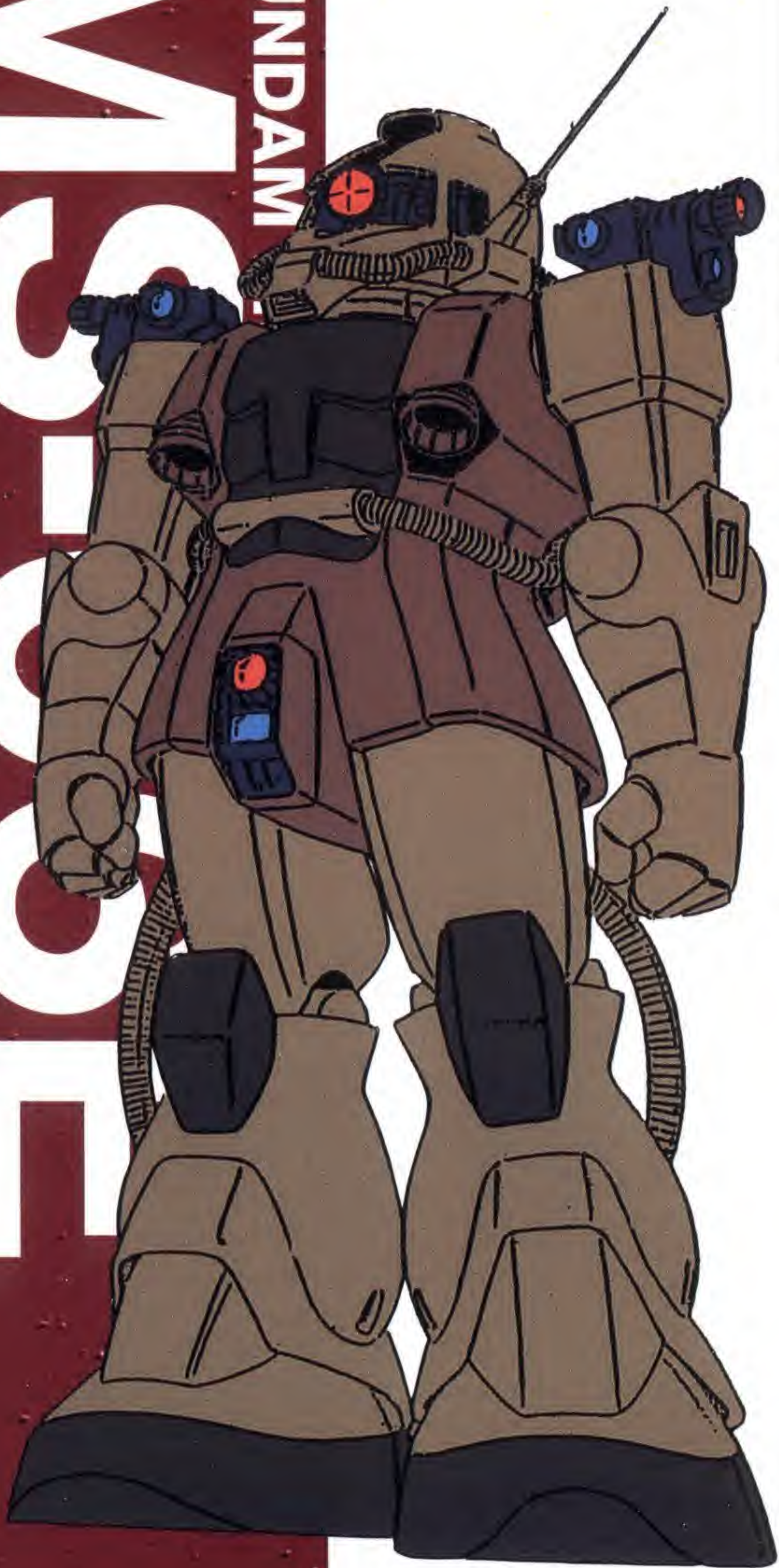
20mmバルカン砲



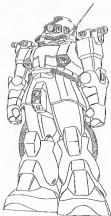


ザク強行偵察型

MS-06C  
GUNDAM







# MS-06E

## ザクⅡ標準型

機体分類：汎用MS

製造会社：ジオニッパ社

全高 標準高：18.0 17.7m

本体 全重量：60.4 74.2t

ジュネレータ出力：961kw

スラスター総推力：83,780kg

センサー有効半径：3,200m

●「MS-06EザクⅡ標準型」は、MSのなか  
タイプの機動力も利用し、戦術的価値として  
認識され、戦場である。

「MS-06E」から発展した豊富な機体と戦力  
を誇り、戦場は、従来の一連のMSベース  
を1つに集約、機体各部に搭載したシステムを  
集約したものである。最大の特徴であ  
る機体モブアイシステムは、もともとの機体  
機体のカメラやセンサーの集約を可能にする  
に貢献し、それによりスラスターを  
集約したものである。また、モブアイシステム  
のオールラウンドに、カメラやセンサーの範囲が  
広がっている。

同様に「基本型」の機体は「ザクⅡ」に  
「基本型」のMS-06Eや、機体各部の  
機体各部のカメラや、センサーに集約  
した機体は「ザクⅡ」にも評価され、一連の  
機体各部の機体は「ザクⅡ」にも評価され、一連の  
機体各部の機体は「ザクⅡ」にも評価され、一連の

●モビルスーツ・バリエーション(ザクⅡ)

●機体各部の機体は「ザクⅡ」にも評価され、一連の

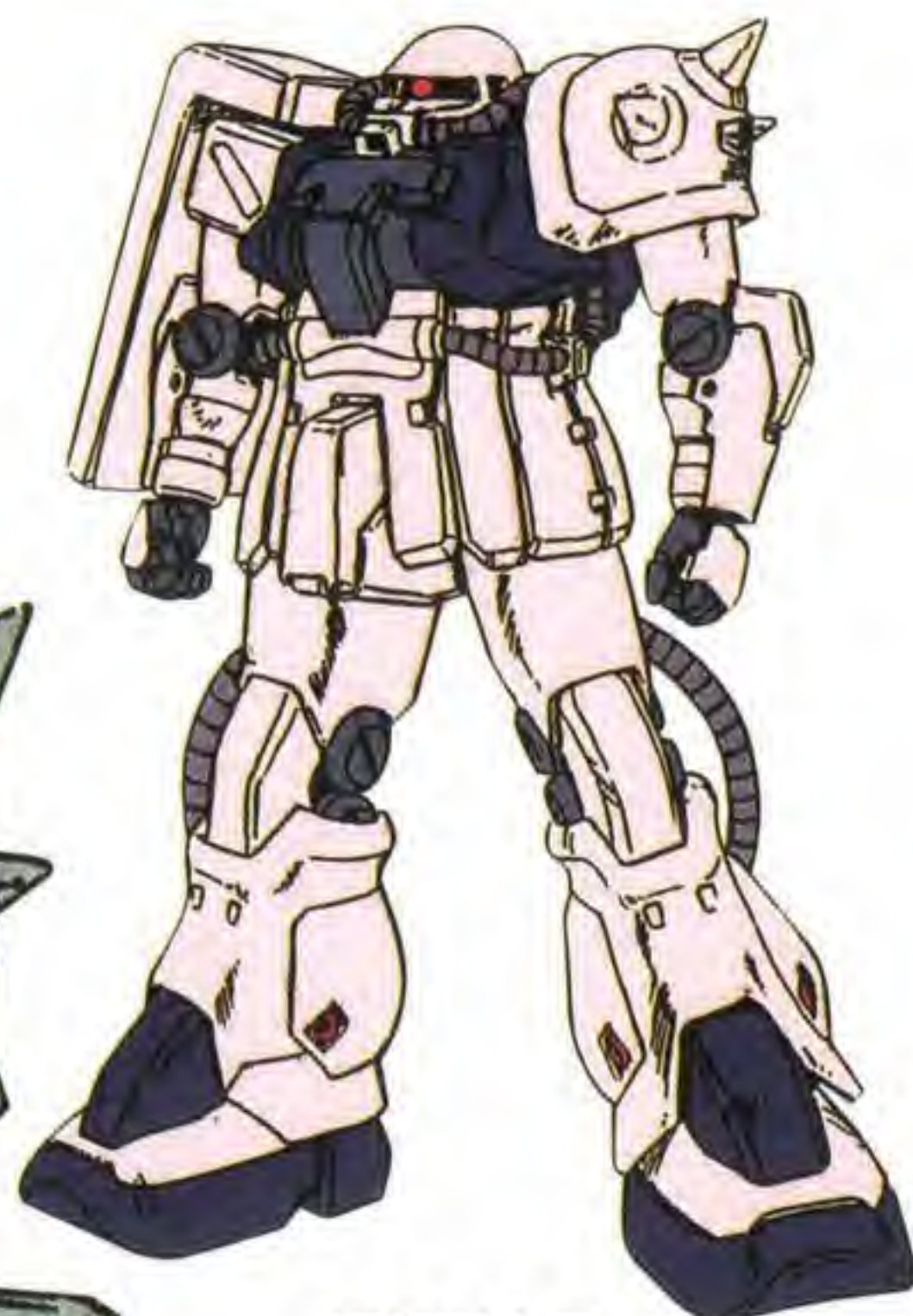
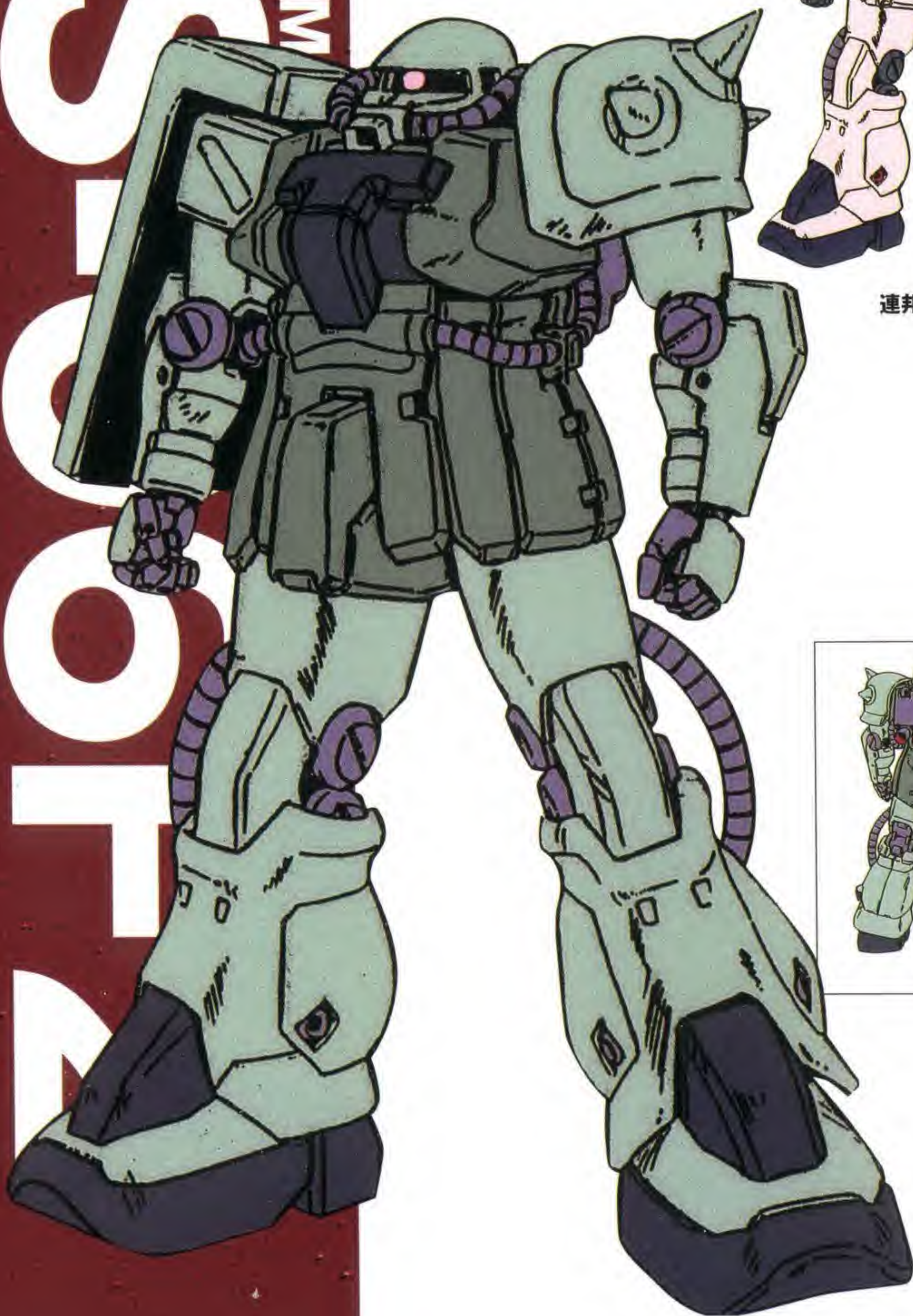


ガンナー

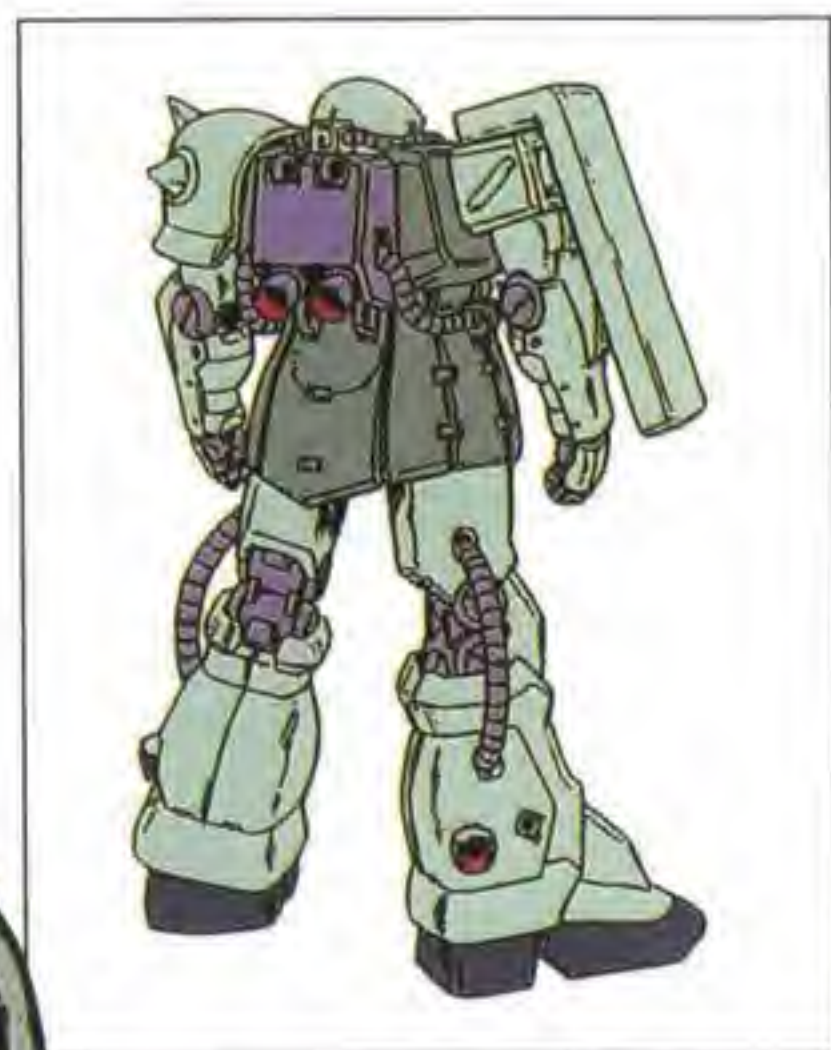


ザク後期型

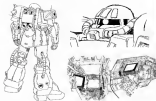
GUNDAM M



連邦軍カラー







# MS-06F2

## ザク後期型

機體分類：汎用MS

製造会社：ジオニッパ社

全高：標準型：17.5 / 17.8m

本体：全機重量：40.2 / 70.3t

ジェネレータ出力：986kw

スラスター総推力：53,400kg

センサー有効半径：3,200m

●地上物の移動用MSとして開発された「MS-06F2 ザクII」は、その汎用性の高さを証明するから部隊の兵士にも広く愛された。基本性能の優秀に加え、同型や近縁機に含められたバリエーションも数多く作られ、一年戦争を通じてジオン軍でもっとも多く生産された機体となったのである。「MS-06F2」は、後援を型型であり、機体の軽量化とジェネレーター出力の向上を中心とした進歩がなされている。また「MS-06F2」の前身であったコロニー・ムパ・チ周辺の試作も知られており、同時期に登場した連邦軍の「RGM-79ジム」の原型型に類似する性能を實現している。一年戦争終結後は、地球連邦軍に接収され、ジオン軍MSの運用データは別ののために使用された。

■機體構造上ガンダム0083

スターダストメモリー

シェルフムアウター



バンドグレナード



120mmマシンガン

ヒートホーク



90mmマシンガン

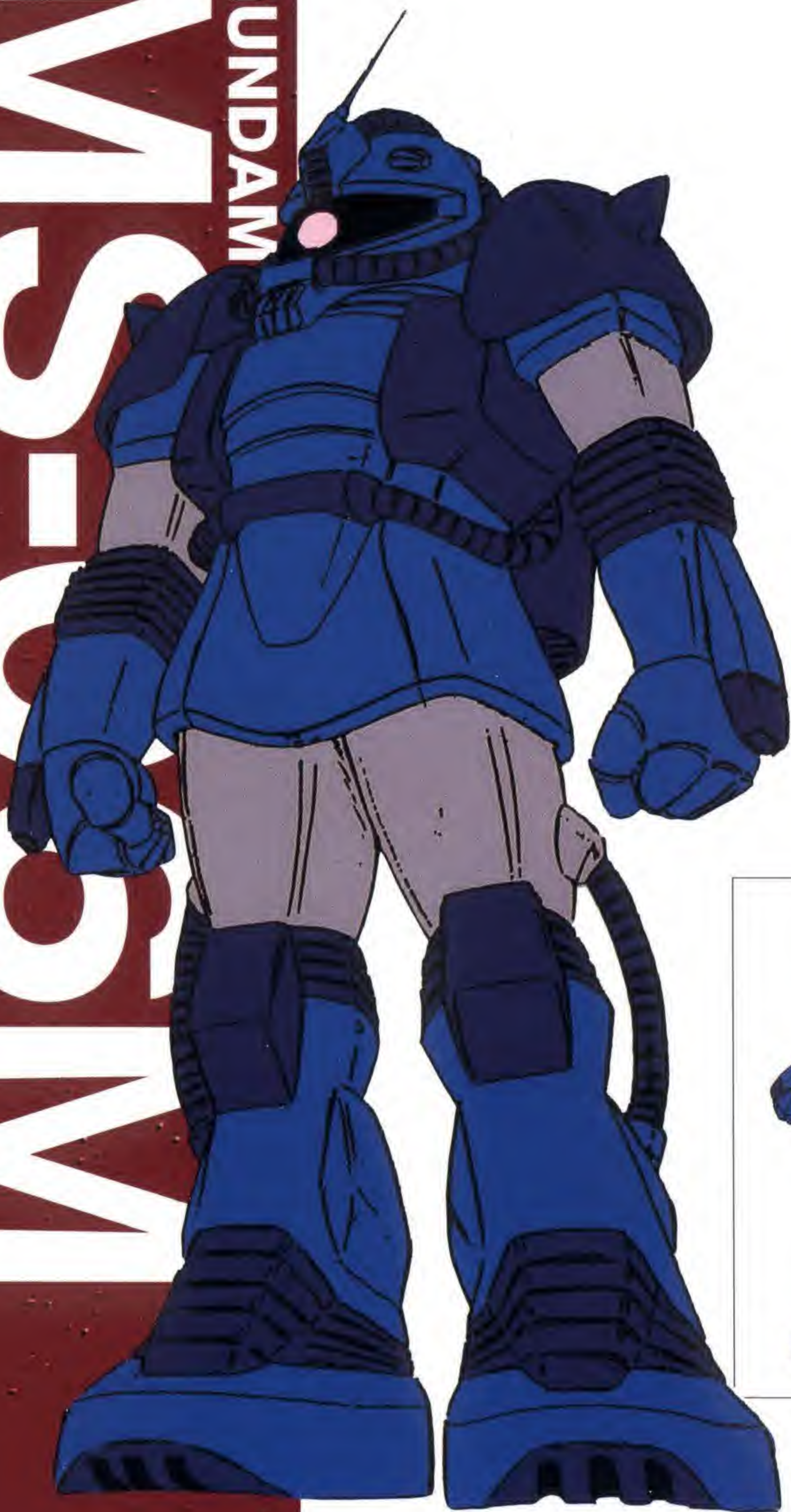


200mmバズーカ



ザク・マリンタイプ

GUUNDAM







# MS-06M

ザク・マリンタイプ

機體分類：水陸両用MS

製造会社：ジオニッパ社

全高 頭高：18.2 / 17.5m

本体 全機重量：42.3 60.0t

ジェネレータ出力：951kw

スラスター総推力：68,000kg

センサー有効半径：3,200m

●ジオン軍は、一年戦争開始前から地球防衛作戦における海軍制圧を重視し、水中行動が可能なMSの開発を進めていた。当初はMS-06系を水中戦が可能な機体へ改良する計画が立てられたが、同系統が推進するスペックを満たすことはできなかった。このため、水陸両用MSとしては、まったく新設計のMSが開発されることになったのである。このため、06系の改良型は「MS-06Mザク・マリンタイプ」の名地を手に入れた。水中運用用の水密コンテナと水中航行用のフィン機構のため、重装甲化された。

改良された7機の「MS-06M」は、北大西洋の深海水域試験に配備され、結果はともかく、データ収集という点では成果を収めている。

■モビルスーツ・バリエーション(プラモ対)  
■機動戦士ガンダム



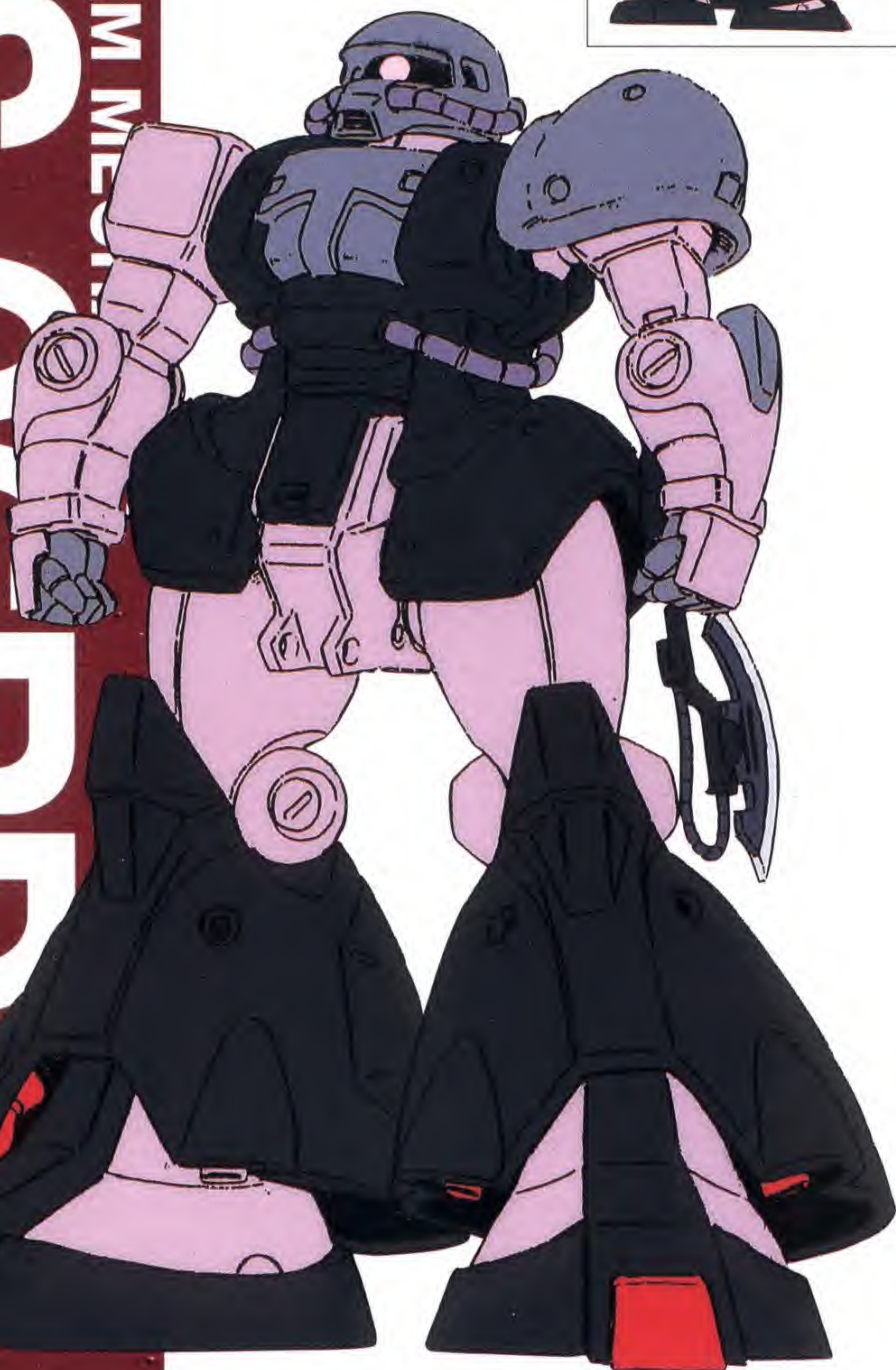
ザクロックガン



ザク高機動試験機

# MS-09R2+

## GUNDAM MECH







# MS-06RD4

## ザクⅡ機動試験機

機動分類：テスト用MS

製造：グラナダ基地MS工場

全高：機動時：17.5 / 17.5m

全幅：全機幅：60.3 / 77.5t

ジェネレータ出力：9600w

スラスター総数：53,000kg

センサー有効半径：3,200m

■一年戦争中、ジオン軍は機動試験機として開発したMS-06(MS-14)が完成するまでの間、既存MSと取り合える中量型MSの開発を進めていた。軍司令部は、モビルスーツの活用でMS-06とMS-05の能力差を機動試験機として想定し、各種の試験を行った。

「MS-06RD4」は「MS-06ザクⅡ」の上半身と「MS-05」の下半身をベースに開発された試作機である。元は「MS-05」の胴体カバー機構を平直型スラスターに換装すると、どのような機動性能を誇れるかがテストするため、この機動試験機とした。ザクⅡの半身を使用しているのに、胴体部分のみが平直型のアビオス構造を有しているためである。

月動グラナダ基地で開発された後、試験要領計画に引き渡された機体はトライアル中に突如、破壊されるまでに、多くのデータを残している。

■機動試験士ガンダム / 機体MS-06



120mmマシンガン



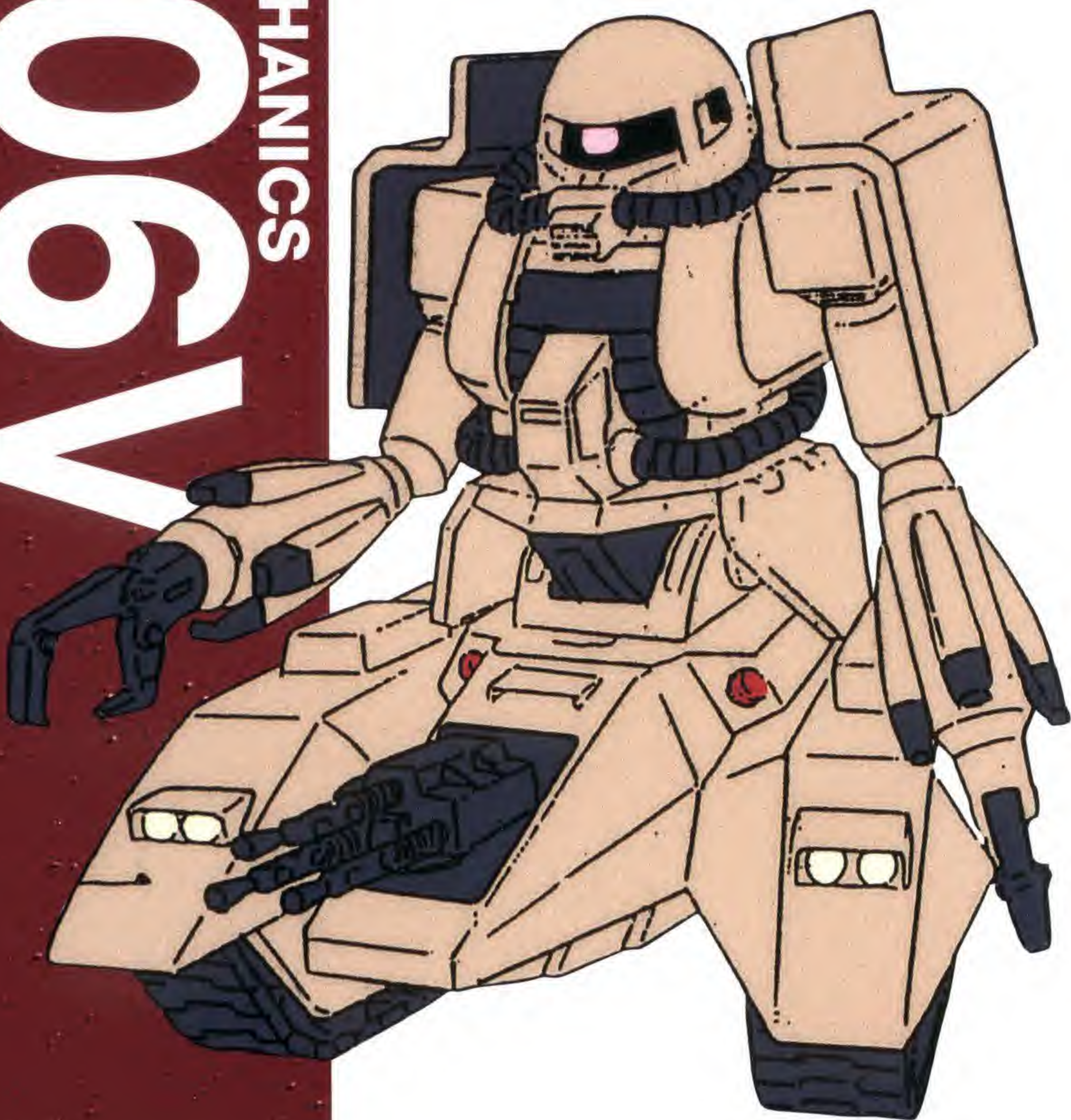
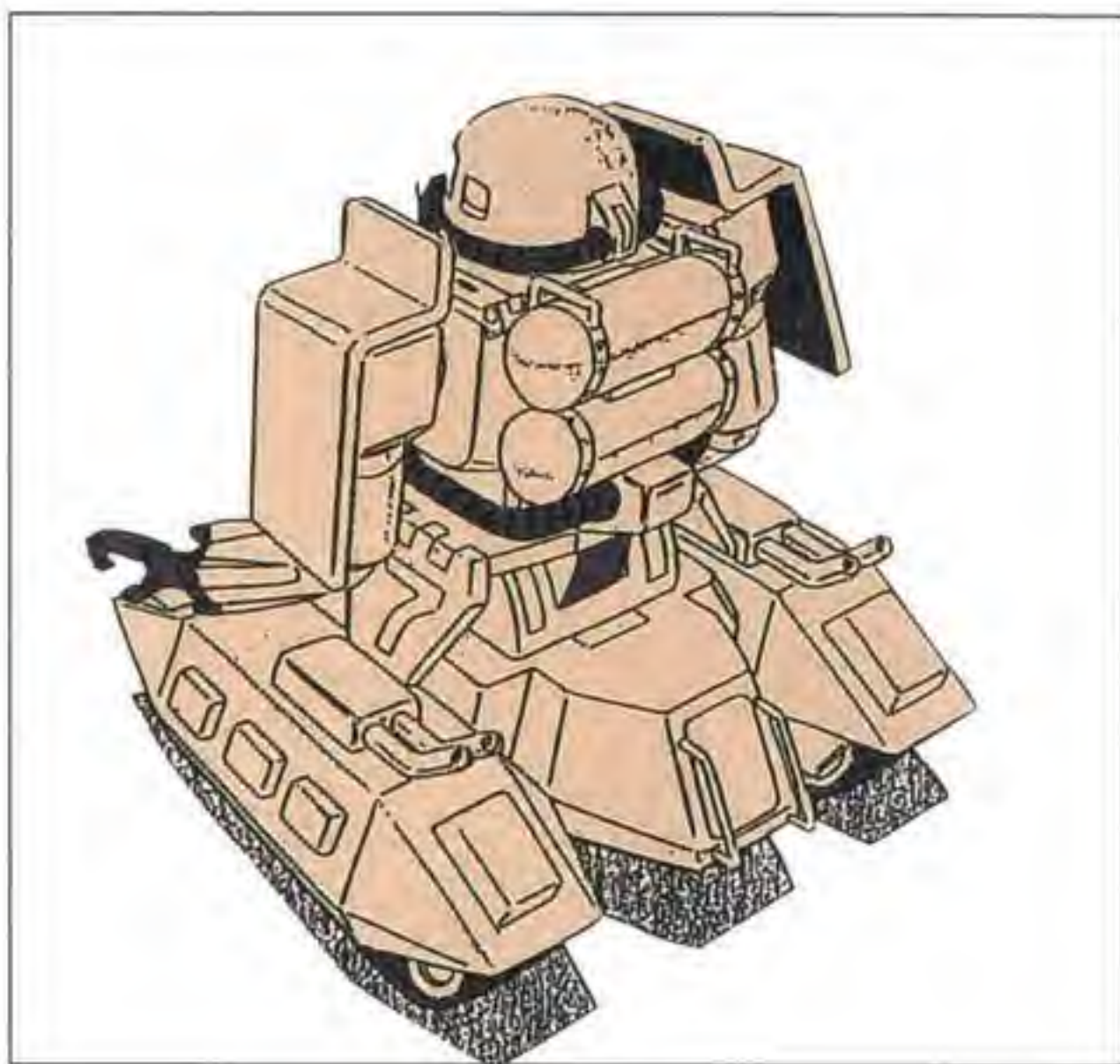
ヒートサーフ



ザクタンク

# MS-06

## GUNDAM MECHANICS







# MS-06V

## ザクタンク

機体分類：戦車用MS

製造：新機軸創研

全高：標準高：14m程度

本体：全重量：50t程度

ジェネレータ出力：951kw

センサー有効半径：3,200m

●「ザクタンク」は、ジオン軍の戦車MSではなく、工場で生産されたものではないため1つとして同じ機体は存在しない。もともとは地上の前線部隊が戦線によって戦場の状況と本とザクの上昇量と、マゼラアタ、タの軍体（マゼラベース）を組み合わせて作った作業員マシンだった。作業員マシンとして戦場のマニピュレーター制御の役割は大きく、中でも機体の足まわりの制御は、このようにサイマル機は非常に重要されたものである。そのため各機体は機体ではあるが、軍用車でも同様のため、多くの部隊で「ザクタンク」が製作された。

基本的にこの機体は地上での作業員や、戦場の戦車・戦車などに使われた「ザクタンク」であるが、なかには試運転機、戦場に使用される部隊もあった。

■モビルスーツ・バリエーション(バリエーション)  
■機体編成Zガンダム



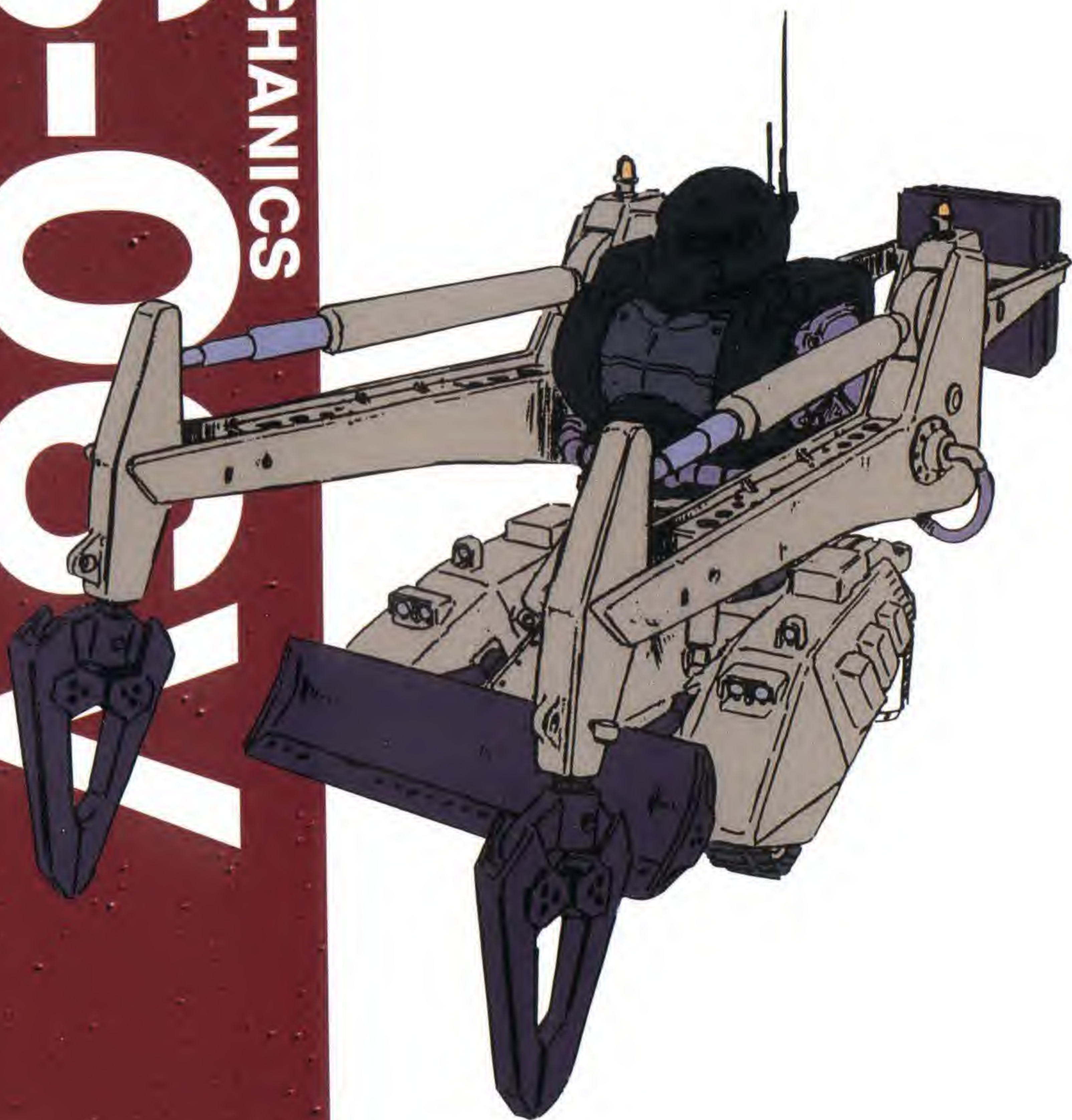
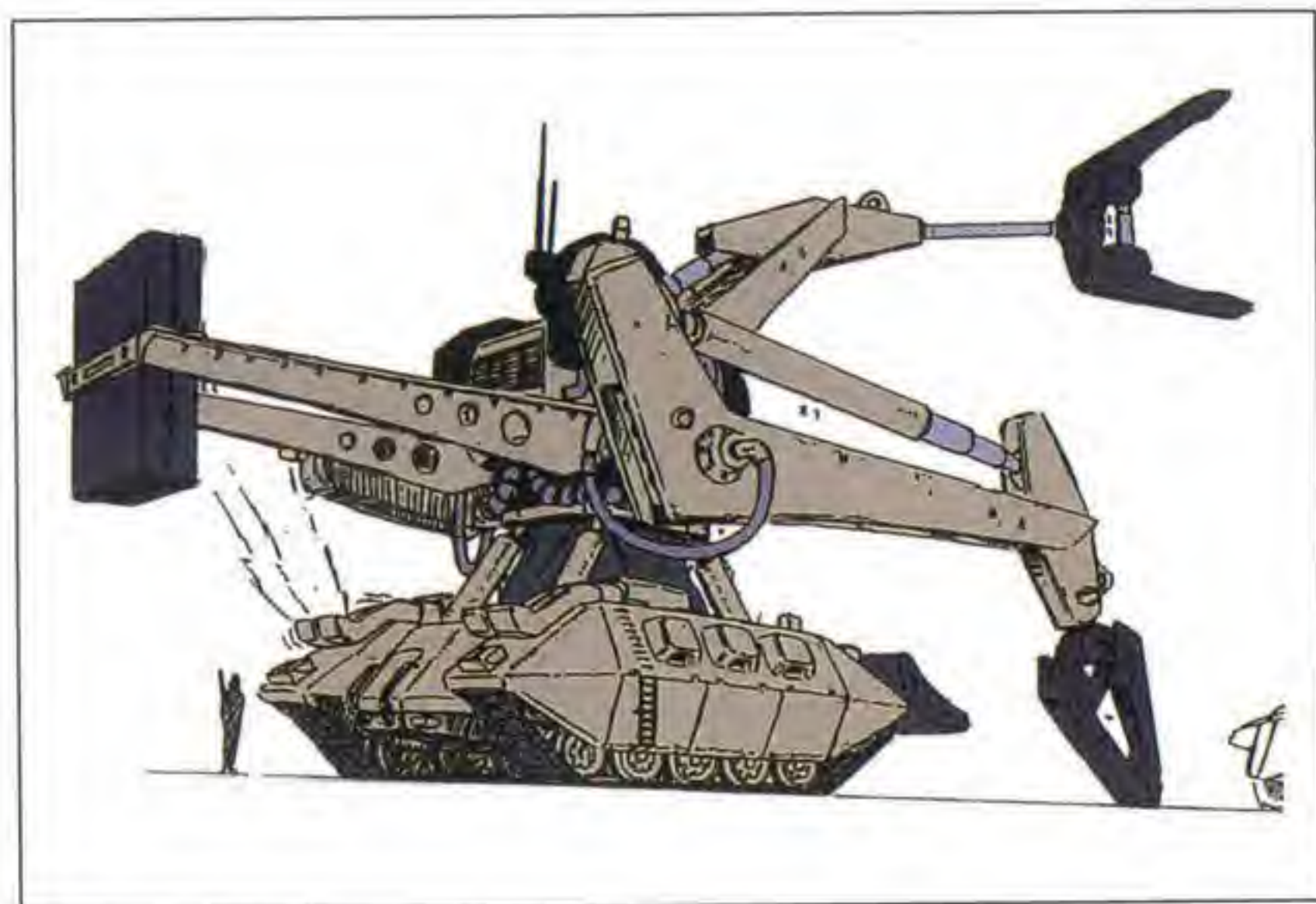
35mm機関銃



ザクタンク

# GUNDAM MECHANICS

# MS-00





**MS-06V**  
ザクタンク

[illegible]

11/02/2010 11:00 AM

2011年11月15日 星期二

2014-2015: 100%

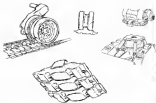
七、十一、十四、十五：2,900元

●一年間集中運動のために、筋肉が硬化した状態で、運動してもなかなかいじくことが多かった。筋肉が硬い状態の筋肉が多く、筋肉の応答性にも限界があった。「アブダクト」は、このように筋肉の硬直を意味し、工作性運動の必要から生じた状態である。

「ザクザク」とは庭音によって庭園を歩  
 かれたずうの上京息と、マゼリアツツの  
 舞袖(マゼラレー)とを混れ合せて書かれ  
 た奥の奥の韻脚で、人、鳥と名の付いた  
 動物もあった。韻脚は、韻脚によって組  
 め、うたはうたに成ります。

この「結果表」の上半身を使用し、開始から経過時間はすなわち、ドーザー・ブレード平均回転数とピッチャー歩数を掛け合わせた割合を計算すればよいことになる。

11/11/2019 11:11:11 AM





ゲフカスタム

GUNDAM

MS-03





# MS-07B3

## グフカスタム

機体：機体開発原型MS

製造会社：ジオニッパ社

全高：頭頂高：18.7、18.5m

本体：全機重量：58.5、77.6t

ジェネレータ出力：1,034kw

スラスター総推力：40,700kg

センサー有効半径：3,600m

●もともとは宇宙用の改裝機に過ぎない「MS-06」に元々搭載された地上用MSとして開発されたのが「MS-07B3」である。しかし、MS-06機体のため、格闘戦用兵器の固定式武装が作られず、結果、機体の用途であった汎用性が失われてしまった「MS-07B3」は、その反省を生かして、汎用性の確保と格闘戦用兵器の向上を目指してチューニングされた機体である。

改造は、従来のマシンガン内蔵していた手を通常のサブコルレーターに置き、代わりにめがねは30mmガトリング砲を装備し、汎用性の確保を図っている。また、格闘戦を行うために簡単に搭載できる75mmガトリング砲を装備し、またサブコルレーターも、両手を備えて有線制御を強化したヒートロッドもを装備し、オールラウンドの戦闘特性を持つ機体になっている。

機体開発士ガンダム 機体MS-06



30mmガトリング砲



ヒートロッド



ヒート  
サーベル



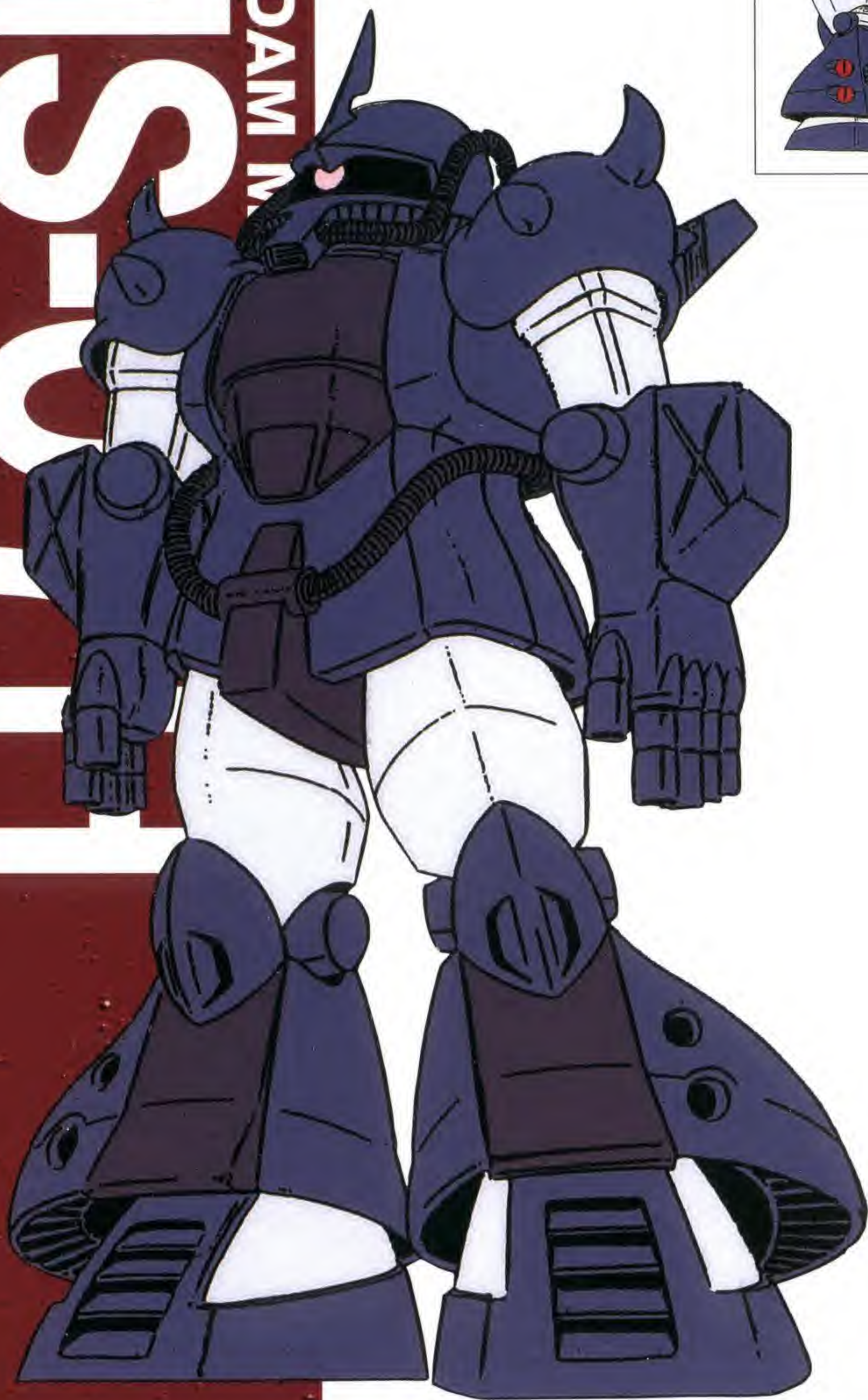
75mmガトリング砲



グフ飛行試験型

# MS-05

## GUNDAM M







# MS-07H

## グフ飛行試験型

機種：試験機試作型MS

開発会社：ジオニッパ社

全高：全機高：18.3 / 18.8m

全機重量：82.9 / 78.6t

ジェネレータ出力：1,034kw

スラスター総出力：60,678kg

センサー有効半径：3,600m

●「MS-07H」の配置が行われるのと同時に、移動力を向上させるためMSに飛行能力をもたせるプランが立案された。このプランは直ちに実行に移され、グフをベースとし、飛行試験機が展開試作されたのである。

「MS-07H」は飛行試験機型の1号機であり、そのP3で製作された後、アジアのフットボール場へと運ばれてテストを受けた。

試作機を中心に強化された推進システムを持つ機体は、背部のロケットバーニアに加え、脚にも同様の多数の推進器が搭載されている。しかし、同機各部の軽量化と同時に行われたこれらの処置をもってしても機体が不逞し、そのため「MS-07H」までのテストはすべて失敗に終わったのである。

だが、これらの運動データは「MS-08」のカバー設計開発に大いに役立った。

■機体スーパ・バリエーション(ブラキアP)

■機体機士Zガンダム



300mmバズーカ



1連装75mmマシンガン



グフ飛行試験型

GUNDAM MEC

MS-07





# MS-07H8

## グフ飛行試験型

機體：機體再製作型M5

推進系統：ジオニッタ型

全高／翼展：10.7／10.2m

本体／全機重量：61.6／77.9t

ジェネレータ出力：1,130kw

スラスター総出力：100,400kg

センサー有効半径：3,500m

機体の飛行実験機として製作された「グフ飛行試験型」の最終改良型が「MS-07H8」である。実験飛行中に発見していったものの、比較的良好の結果が得られた「MS-07H8」の設計コンセプトを継承しつつ、細部に改良が施され、設備が製作されている。

バックパックと機体のスラスターをより強力なものに換装し、実験の熱核ジェットエンジンも出力の高いものが使用された。バックパックとスラスタアーチャーに取り付けられる可動式の固定翼により空での姿勢制御能力も向上している。しかし、スラスターの推進剤の消耗量過多や熱核ジェットエンジンの冷却問題に依然として従っており、高速で長途をとった飛行を行なうと飛行時間は極度に短くなる。

機體再設計ガンダム／機08MS小隊



ガンダレー4075mm(2-リンク型)

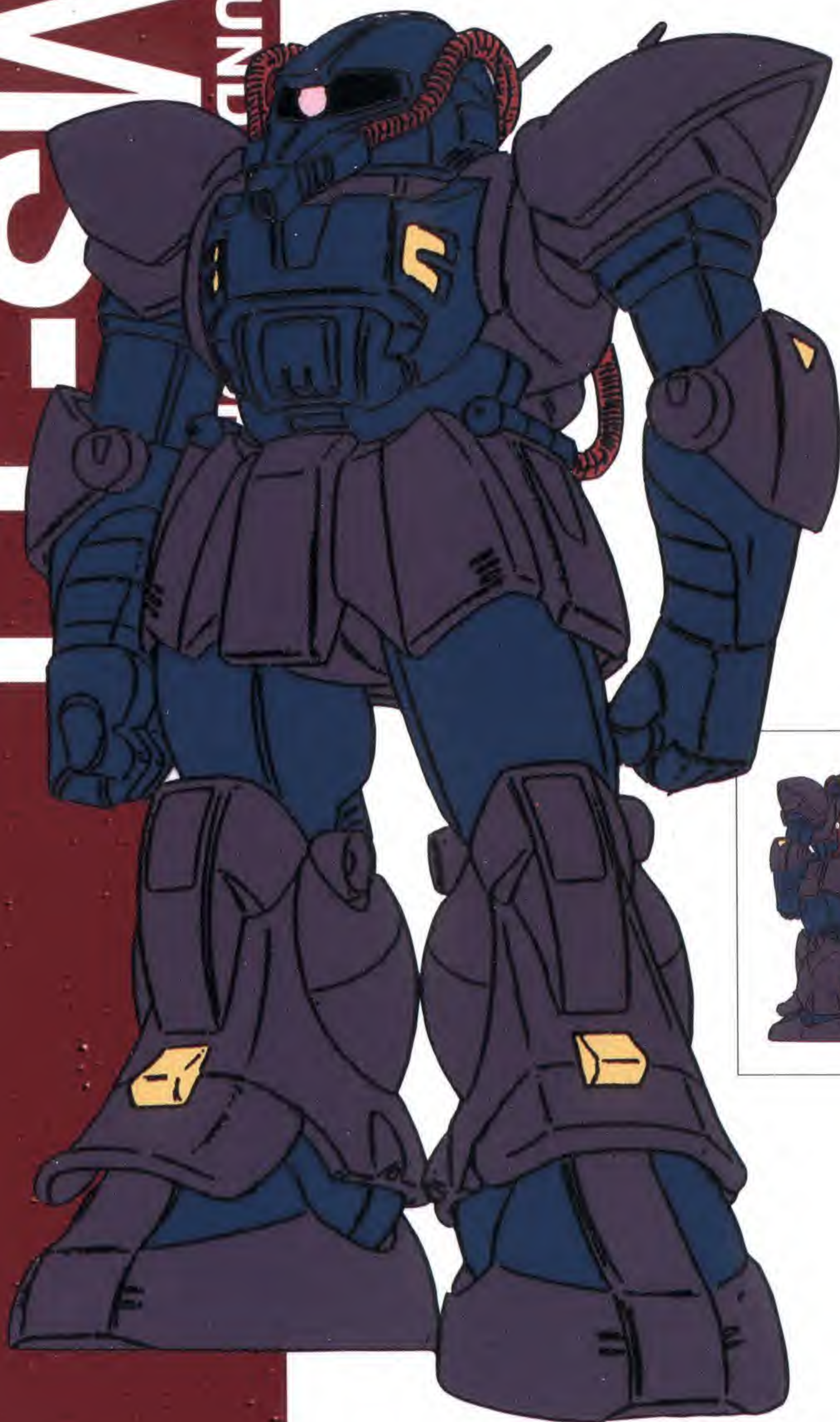


3.0mm 30mm ガトリング砲



アクトザク

GUUNDAM







# MS-11

## アクトザク

機種：汎用MS

製造会社：ジオニッパ社

全高 標準高：18.2/18.2m

本体質量：66.1t

ジュネータ出力：1,440kw

スラスター総推力：84,800kg

センサー有効半径：3,600m

●一年戦争後半、ジオン軍は次期主力MSとして様々な機体を開発していた。「MS-11アクトザク」は、MS-08系の設計を改良し、総合的な運動性能を向上させた機体である。この機体の開発計画は、これまで計画されていたMSのうち、もっとも汎用性に富み、標準型も高いMS-08系を正常進化させるというコンセプトがもたらされた。

実戦的ではあるが、関節部を電磁式で駆動すること、呼吸装置メカニックス的な部分を打ち消すことのできるマグネトチューニング処理が施されてあり、テストでも優秀な性能を示した。初期の頃のジオン軍はこの機体を重視することはできなかったが、戦況その性能の優秀さが認められ、生産施設を併設した増設の形で生産されることになった。

■セト・ムスワ・パリエーション(プラサダ)

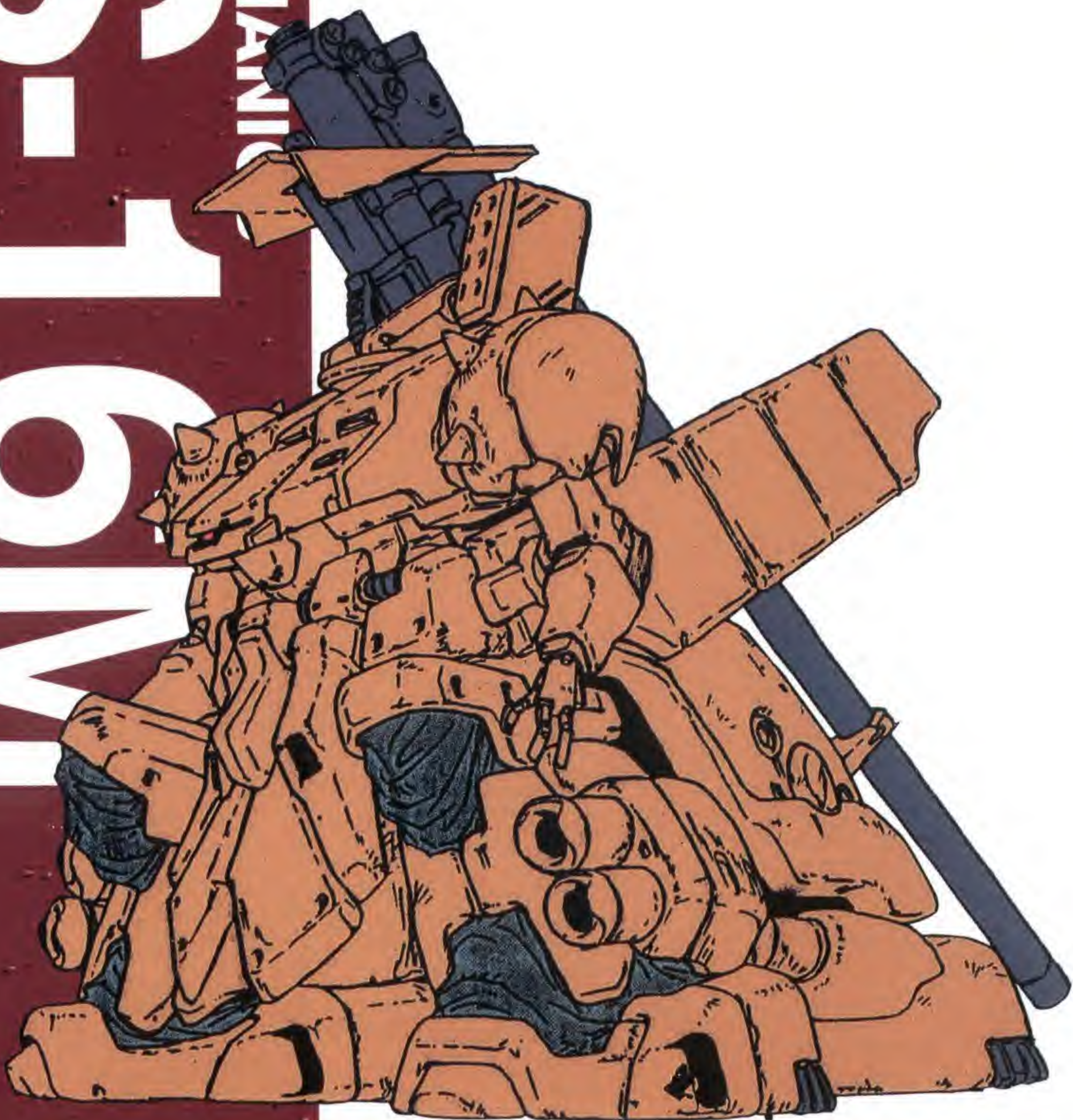
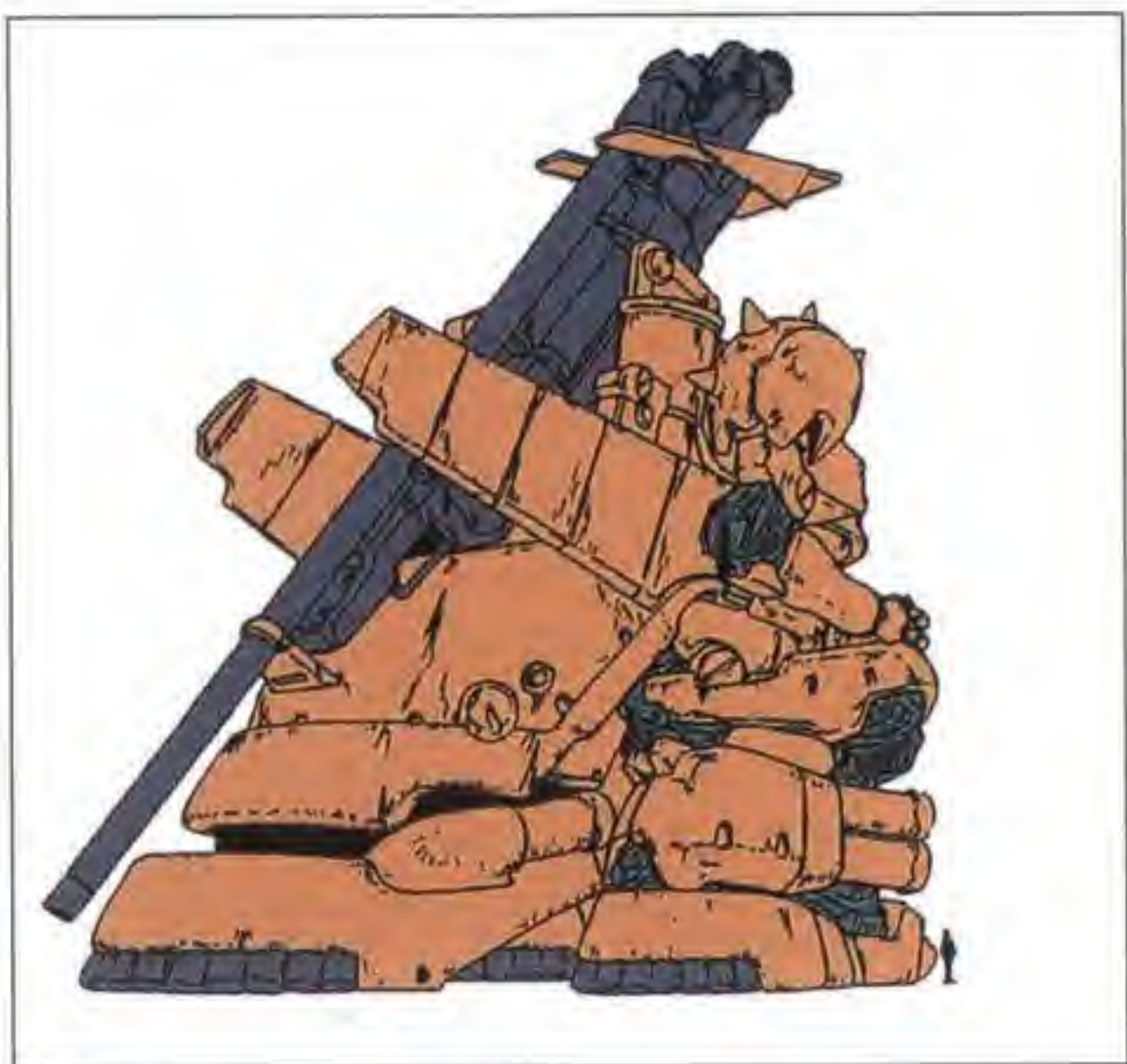
■機体設計士：ガンダム



ザメル

GUNDAM MECHANICS

MS-10A







# YMS-16M

ザメル

開発機関：新日本重工MS

製造：カリフォルニア基地MS工場

全高：27.0m

本体 全備重量：75.0t / 121.0t

ジェネレータ出力：1,000kw

スラスター総数：81,000kg

●ジオン軍の超戦車、MS-14の発展型である。

非常に大型の機体だが、胴部とスカーフに搭載された大出力の熱核ジェネレーターを使用したスーパー走行により、高速で移動を行なうことができる。MSとして、一応画もついているが、ほとんど飾りであり「移動砲台」の戦車がどっか入る機体である。

全高の600mmカノン砲は、機体の全高よりも長い弾薬を持つため、通常は二つ首の状態で動作される。射撃の際は機体を停止状態にして、直接機体の途中部まで突く。機体側や近距離戦用の武器は装備されていないため、基本的に機体側は打たれない。

コアビッドは砲撃式、前方に移動者が張り、砲撃手は後方で武器オペレーションを行う。

■新日本重工ガンダム0003

スターダストストーリー



1 遠隔操縦  
ミサイルランチャー



20mmカノン砲

600mmカノン砲





ドラッツェ

# GUNDAM MECHANICS

# MS-21C







# MS-21C

ドラッグスェ

機体分類：宇宙戦闘MS

製造：デラーズ・フリート

全高：23.0m

本体／全機重量：23.9 49.0t

ジェネレータ出力：520kw

スラスター総推力：117,500kg

■ジオン軍開発のデラーズ・フリートが独自に開発したMS。しかし、実際には使用されるMSなどのパーツをつなぎ合わせて作ったリサイクル品にすぎない。

胴体はMSなので、それに宇宙戦闘機などのスラスターを装着している。胴体はプロペラントタンク兼スラスターとなっており、運動性はそれなりに悪い。たがし、MSというよりはロケットランチャーに近い機体のため、AMBAC機構はない。両肩に取り付けられたスラスターポッドは、その運動性を補うためのものである。

資源不足の中、両肩の装着して置かれた肩に合わせたにすぎないため、生産数も30機程度と少ない。

機体番号：ガンダム0083

スターダストメモリー



40mm/1.6口径砲



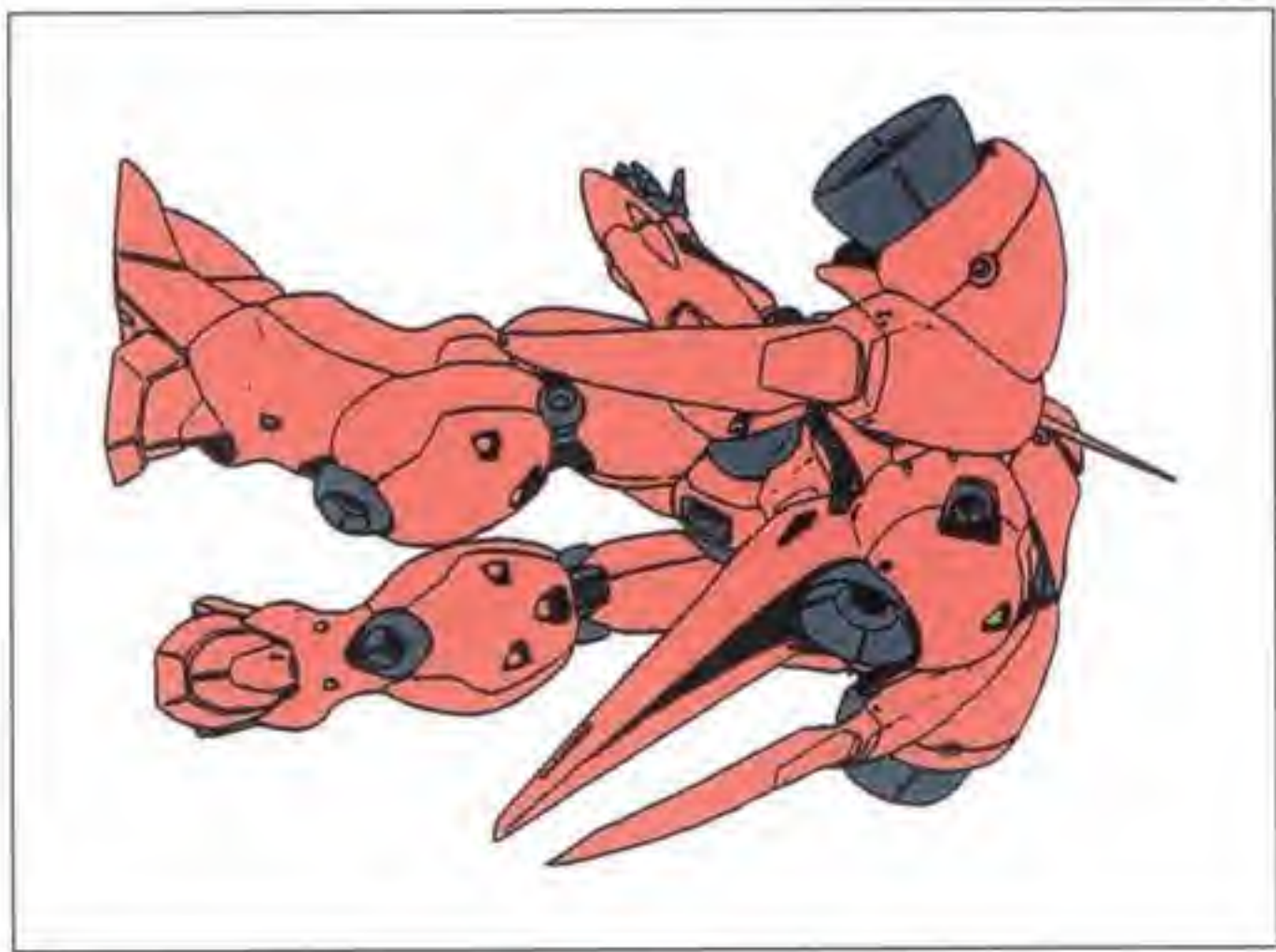
5m光束刀

ビームサーベル



ガーベラ・テトラ

# AGX-04 GUNDAM MECHANICS







# AGX-04

ガーベラ・テトラ

機體分類：宇宙戦闘機S

製造会社：アナハイム・エレクトロニクス社

全高：16.0m

本体 全重量：46.7/73.2t

ジュウラー・タビラ：1,710km

スラスター総出力：222,000kg

●このガーベラ・テトラは、本来「ガンダム」以外で開発/運用された機体である。

「ガンダム」開発計画がアナハイム社に依頼された際、GP04は自衛隊関係者に注目された宇宙戦闘機の候補として開発が開始された。しかし、開発コンセプトが一部GP01と異なることから、GP04の名称はキャンセル、開発は別の機体はそのまま進められるはずだった。

ガーベラ・テトラには実用オプション装備として、プロペラントタンクとスラスターユニットが一体化した「ジュウラー・ブースター」が搭載されている。これを搭載することによりガーベラ・テトラの機動性は格段に向上し、戦闘態勢としてムト/ブラスの機動性・攻撃性を越えている。

機体開発者ガンダム0083

スターダストメモリー



ビーム  
サーベル



ジュウラー・  
ブースターユニット



ビームマシンガン



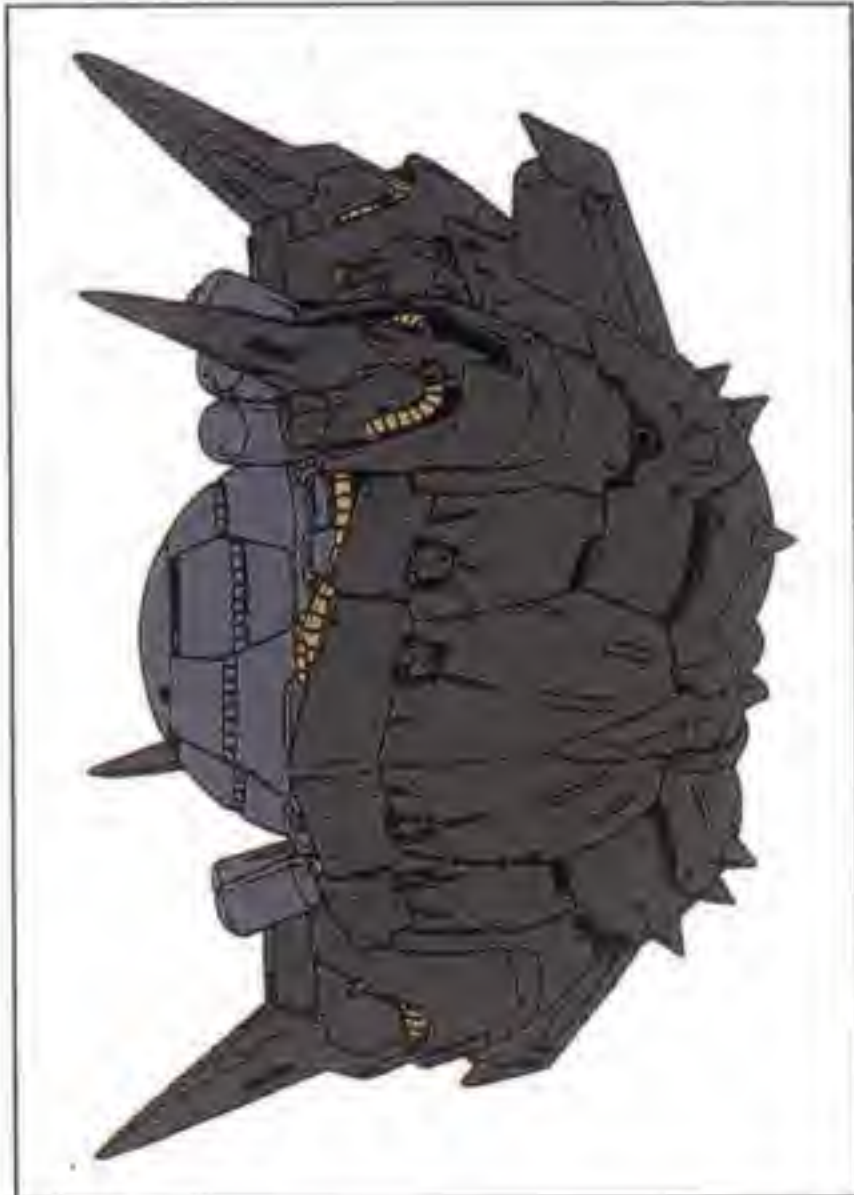
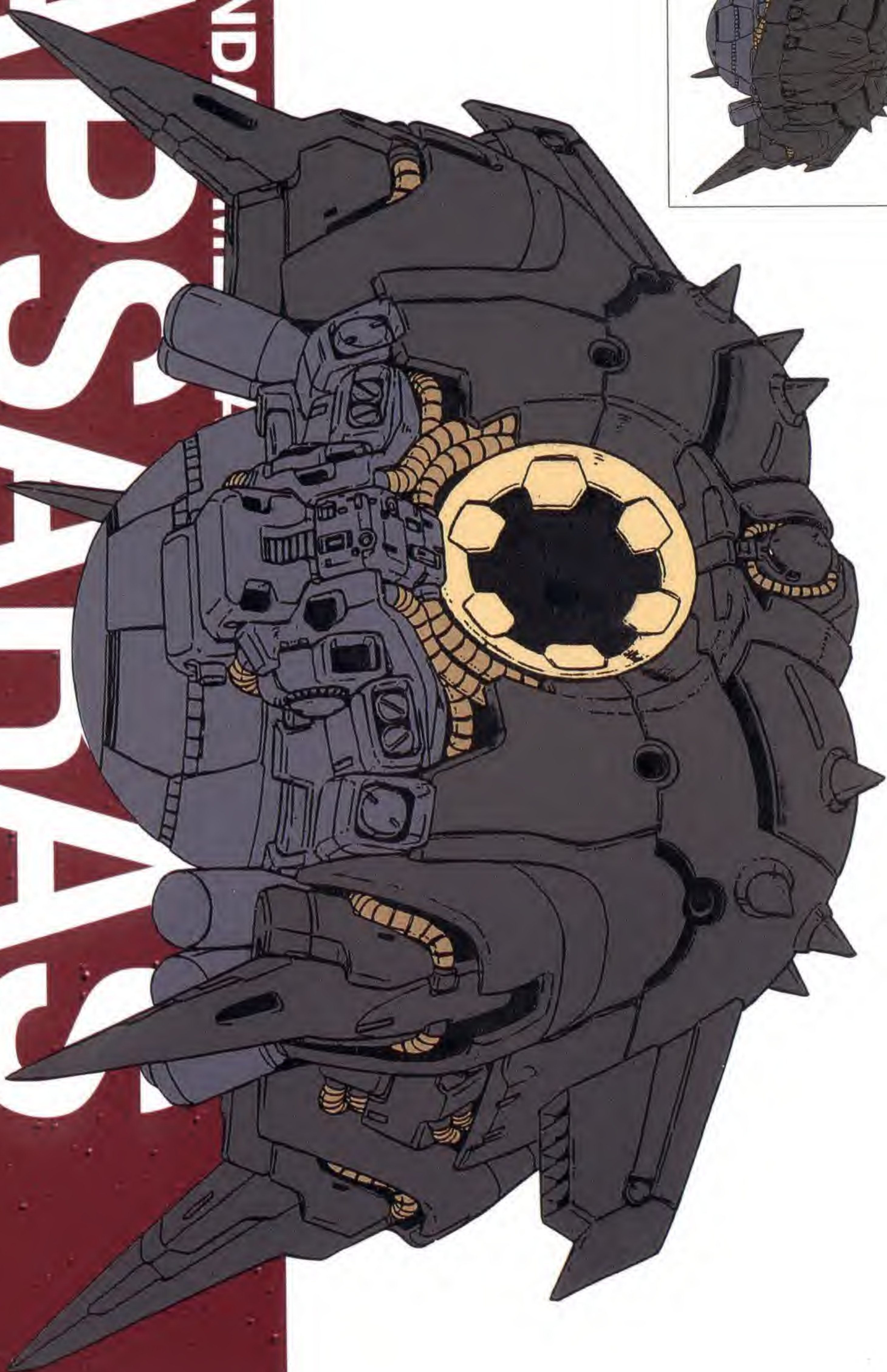
110mmマシンガン



アップサラス

GUNDAM

アップサラス





# APSARAS

## アプサラス

種別：超高度自律思考型MA

製造：ジオン軍

全高：無関係：不明

本体：全機重量：不明

ジェネレータ出力：1,400kw程度

センサー有効半径：3,200m

●スペースコロニーを地球に落とすことで、近頃軍閥も本格的にロボットにシフトし、兵器を製造させる手前だったアプサラスの存在意義も、ジオン軍はジャブローに落とすための計画も、いつか立てていた。試作機は「アプサラス」はそんな中でもっとも重視された、必死に考へ作られた機体である。

「アプサラス」が完成すれば、ミノフスキーコアも利用しての宇宙からの機動でアプサラスの多様な一翼に近づき、高出力メガ粒子砲で敵艦を、それを半壊し、破壊ごと破壊することが可能と期待された。

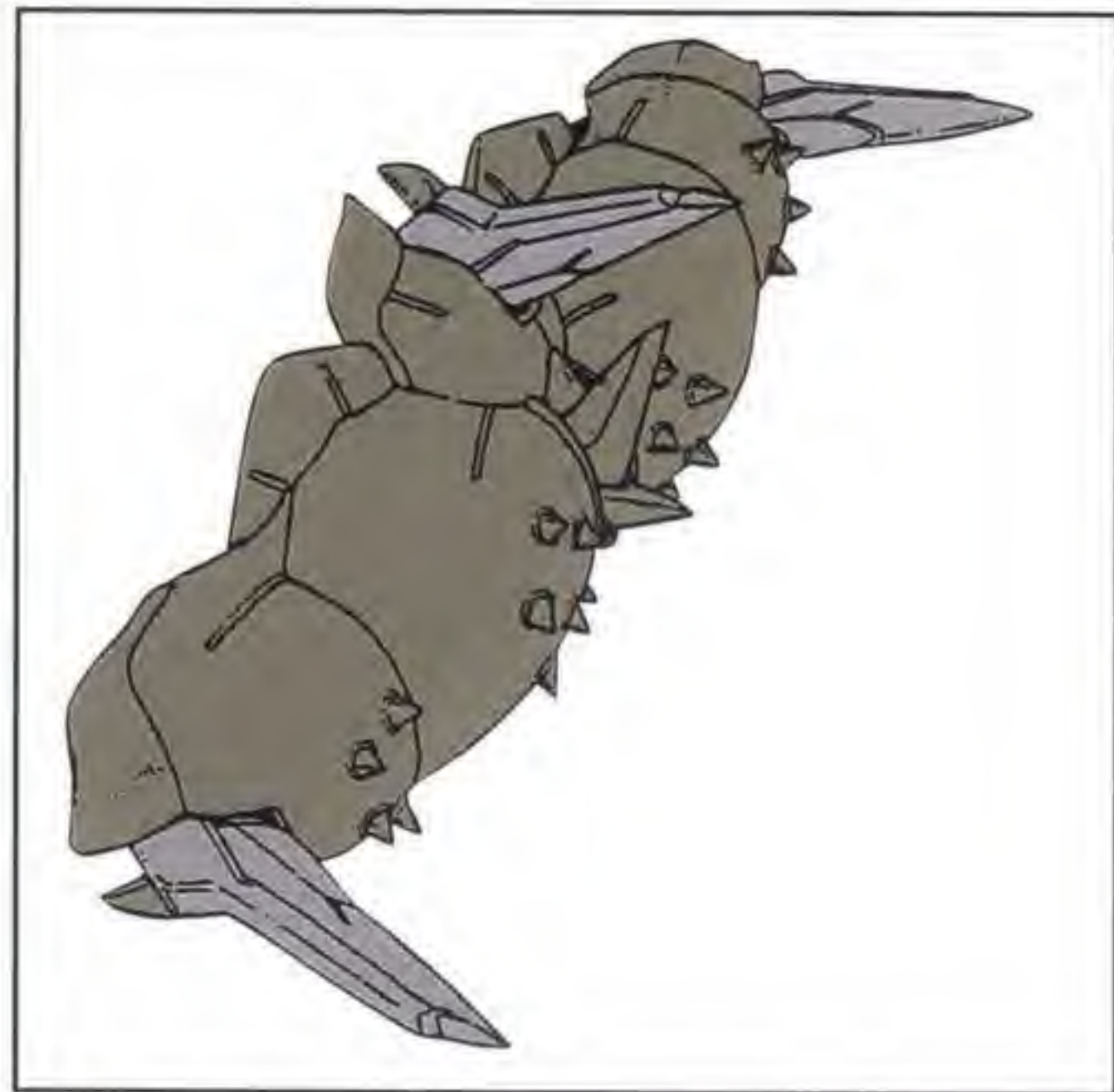
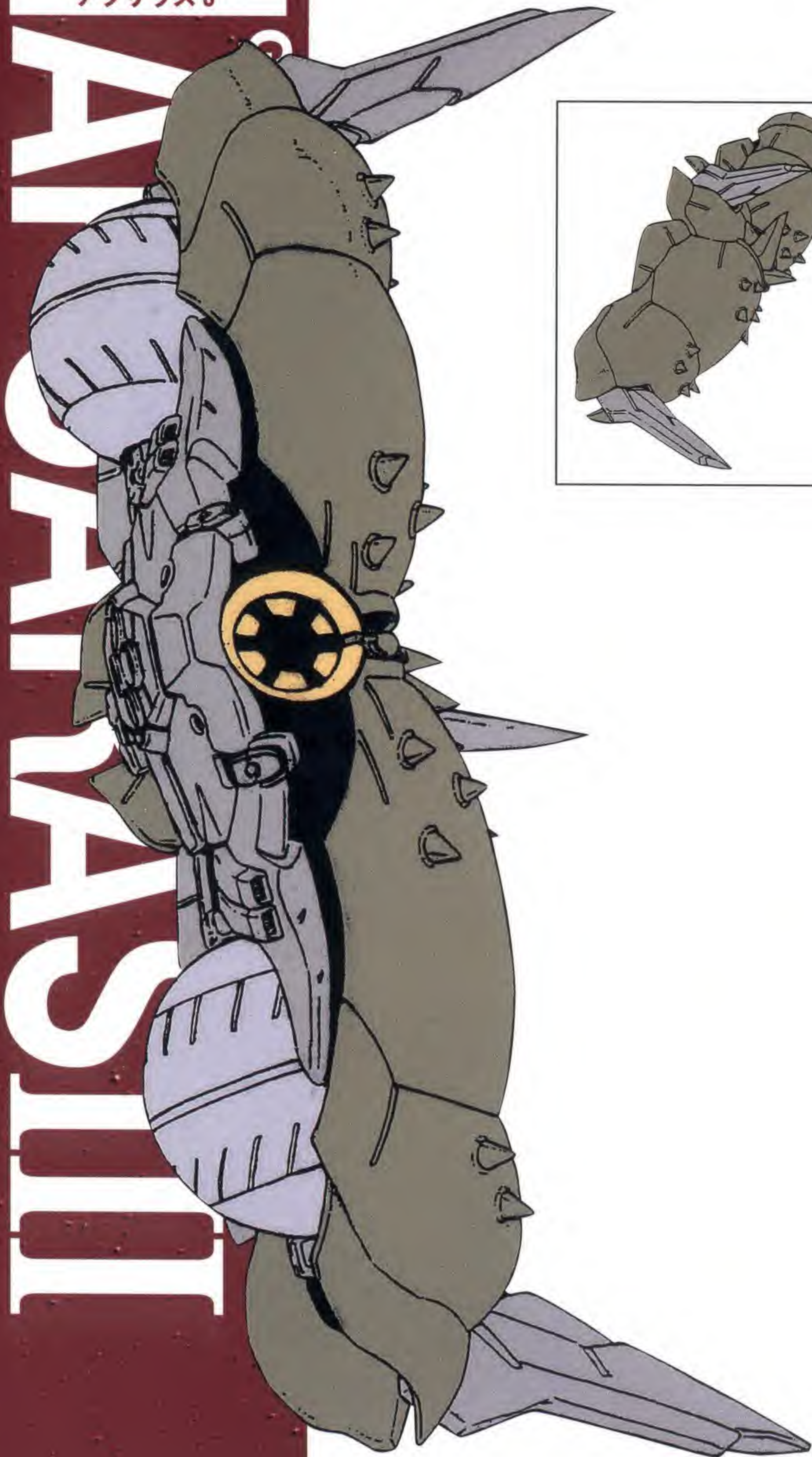
アプサラスはまず実験機として3機が製作された。機体は「05」の部品を重用し、アジアの戦況調査基地で完成し、機体は秘匿的にテストされ、完成後のための貴重なデータを収集するのに使われたのである。

■機体構造：ガンダム、高0.8m小機



メガ粒子砲







# APSARAS III

## アプサラス3

機体：固定武装機体

製造：ジオン軍

全高：機体高：不明

本体：全機重量：不明

ジェネレータ出力：2,600kw程度

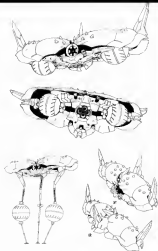
センサー有効半径：3,200m

●定機体であるアプサラスの1号機と2号機での爆発の瞬間は、飛行高度に伸びていたミノフスキーコアシステムであった。ミノフスキー機関を利用してプラズマを発生させ、推力と推進力を発生させるシステムは電力を大量に必要とするため、ジェネレーターの発電量が間に合わなかったためである。しかも、定機体である3号機では機体の重量を減らすため、ミノフスキーコアシステムを2基搭載される予定になっていた。結局「MS-001」のジェネレーター3基を装備することで問題を解決した3号機は戦闘で失われ、1号機と2号機の部品取りに用いられた3号機のデータをもとに完成した。しかし、両方とも電流における号機がジャブローの空に落ちたことはなかったためである。

機体設計士ガンダム 第081話小冊



メカニクス



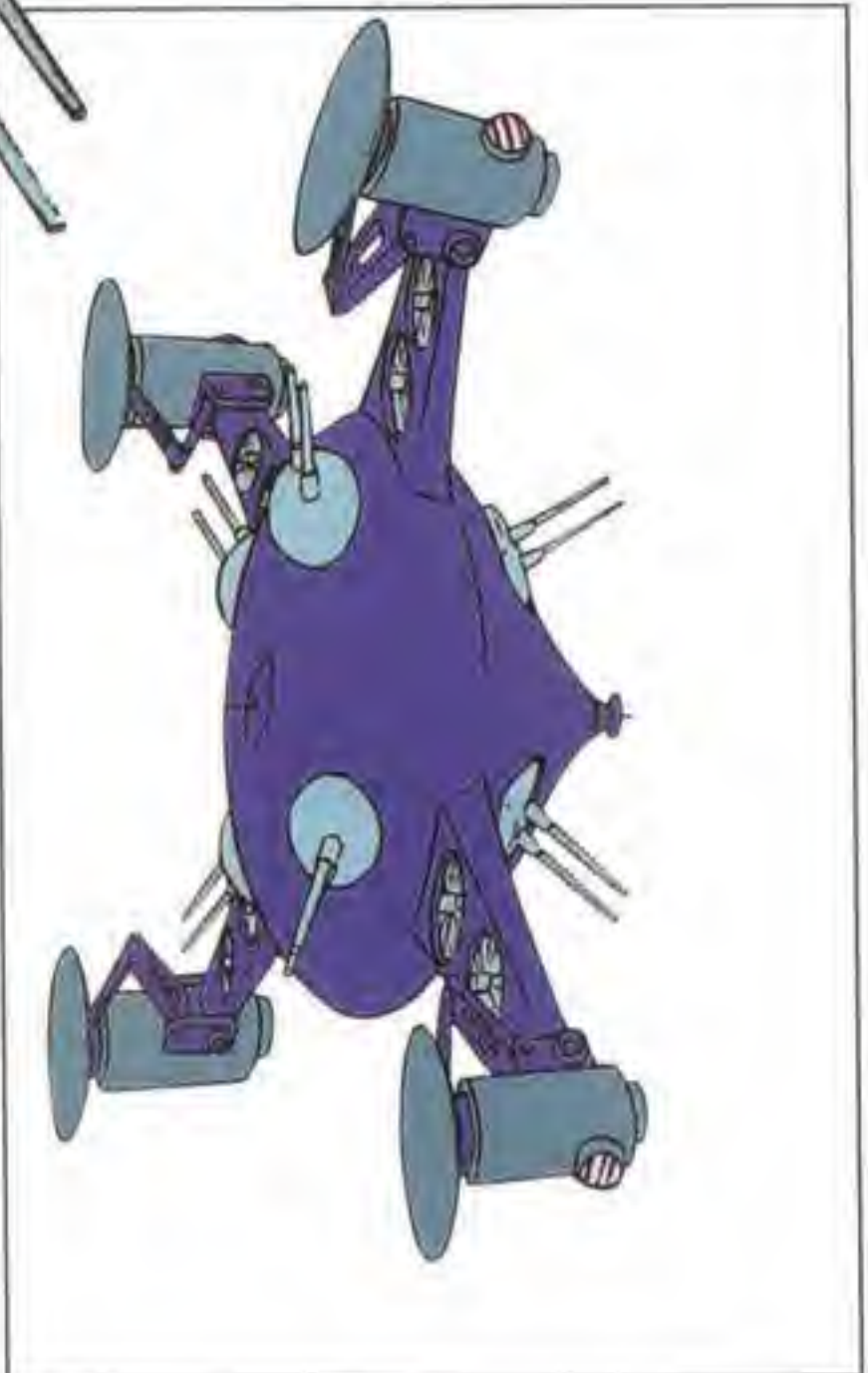
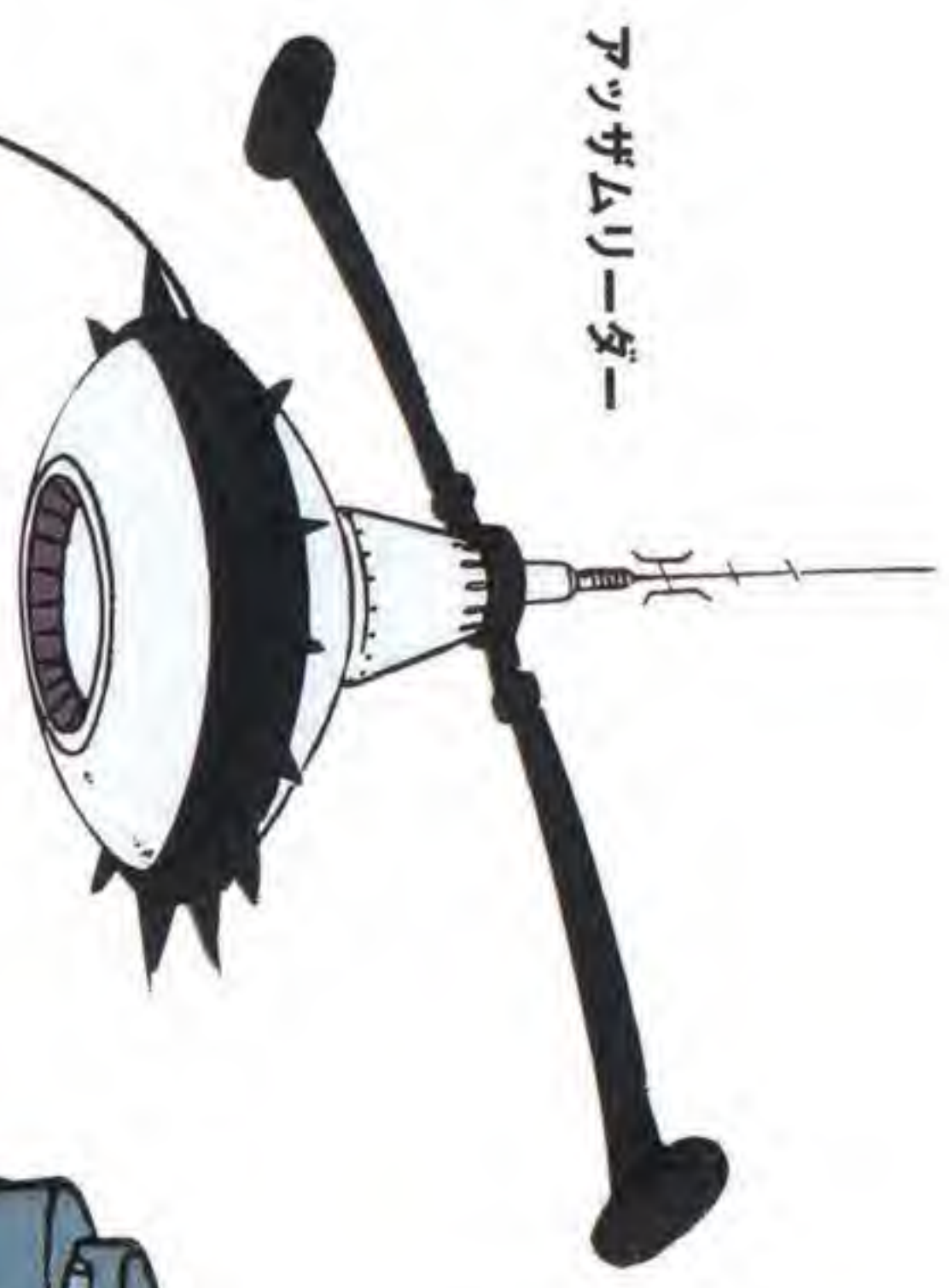


アッザム

# GUUNDAM MECHANICS



アッザムリーダー





# MAX-03

## アッザム

開発分類：開発済試作機A

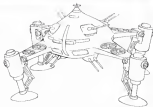
製造：ジオン軍グラナダ工廠

全高：25.5m

本体質量：不明

ジェネレータ出力：不明

スラスター駆動力：不明



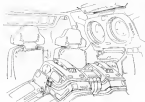
■あくまでも試験的に製造された地上用モビルスーツ。開発上「MAX」に分類されているが、実際に使用されている機動式対地攻撃兵器「GDR/ルナタ」を地上用に改造しただけにすぎず、機動機体の域まででない。

ジオン軍ではまだ試験段階にあった「ミノブスキー・クラアム」開発が停滞しており、経時間ではあるが浮遊機動も行うことができた。

武装として、多数の連射メガ粒子砲及び、射撃兵器アッザムリーダーを装備している。アッザムリーダーは強力な電磁点を放出し、地帯の電子回路にダメージを与える武器である。本意は戦車などの地上車両を攻撃するための物だったが、MAXに於いても効果的だったようだ。

このアッザムは試験的ニータへの転送機に配備されている。

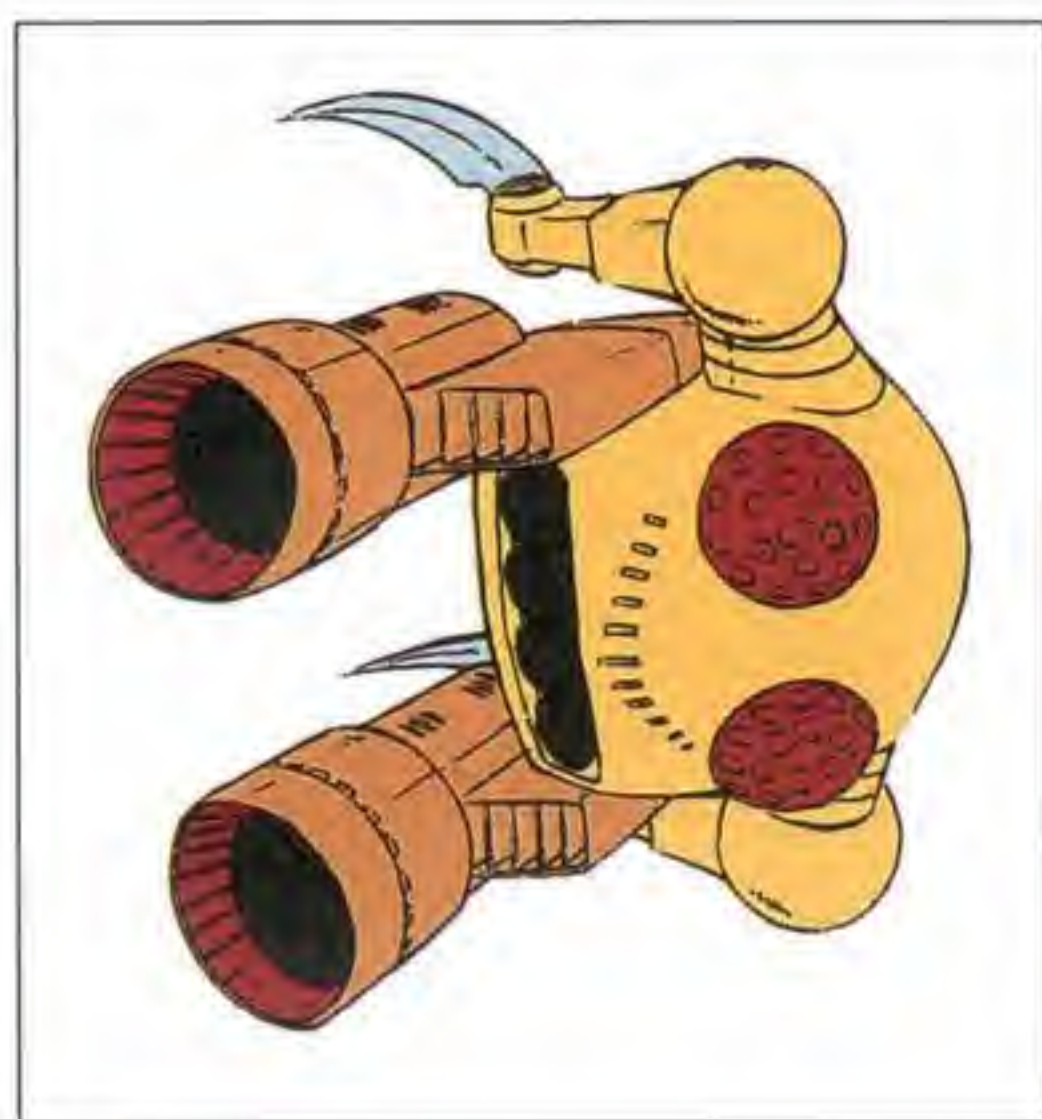
機動戦士ガンダム(TV版)



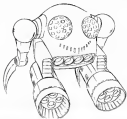
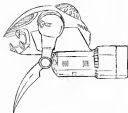


ザクレロ

GUNDAM MECHANICS







# MA-04X

## ザクレロ

機體分類：汎用MA

製造：MP社

全高：不明

本体・全機重量：不明

ジェネレータ出力：不明

スラスター総推力：不明

センサー探知半径：不明

●機体に搭載された試きもビルアーマー(MA)の内の1機。

MAの汎用性や汎用性という開発コンセプトに対し、MAの開発コンセプトは機動性+攻撃力、つまり「高い運動力を持った高速・高機動の機動兵器」である。

このザクレロは、その開発コンセプトどおりに造られて機動で、強いジェネレータ出力を持ち、高出力の波動ビーム銃を装備する。大量力のスラスターから得られる機動力は申し分ないが、反面あまりにも運動性が低く、攻撃回数が少ないという点で悪い。

結局ザクレロは1機が試作されただけで、量産はされなかった。

■機動兵器ガンダム(TV版)



波動ビーム銃



ミサイルランチャー



ヴァル・ヴァロ

GUNDAM MECHANICS

VAL-00







110mm 66mm 66mm



対空ビームガン



メガ粒子砲

# MA-06 ヴァル・ヴァロ

機体分類：宇宙戦闘機MA  
製造：ジオングラナダ工業  
全長 全高：80.0 / 22.5m  
本体 全機重量：254.1 / 379.0t  
ジュネータ出力：28,032kw  
スラスター総推力：729,000kg

■大戦末期にジオン軍が開発したMA。基本的には「MA-05のブロー」の改良機である。

MA-05では射撃装置に主眼が置かれていたが、このヴァル・ヴァロは射撃装置にも考慮を入れて開発されている。機体後面に搭載されたプラズマリーダーは「MA-05のアップ」に改良されたアップリーダーの発展型で、機体から射ばされると直ぐに直ぐで強力な電磁波を放出し、MAの電子装置にダメージを与える兵器である。ほかに大型メガ粒子砲サビームガン、機体周囲のクローアームなども装備し、総合面ではMA-05よりもかなり上回る性能を持つ。

大戦末期に完成したため、最後までロールアウトしたのは、わずかに数機にすぎない。

■機体番号ガンダム0083  
スカーダストメモリー



プラズマリーダー



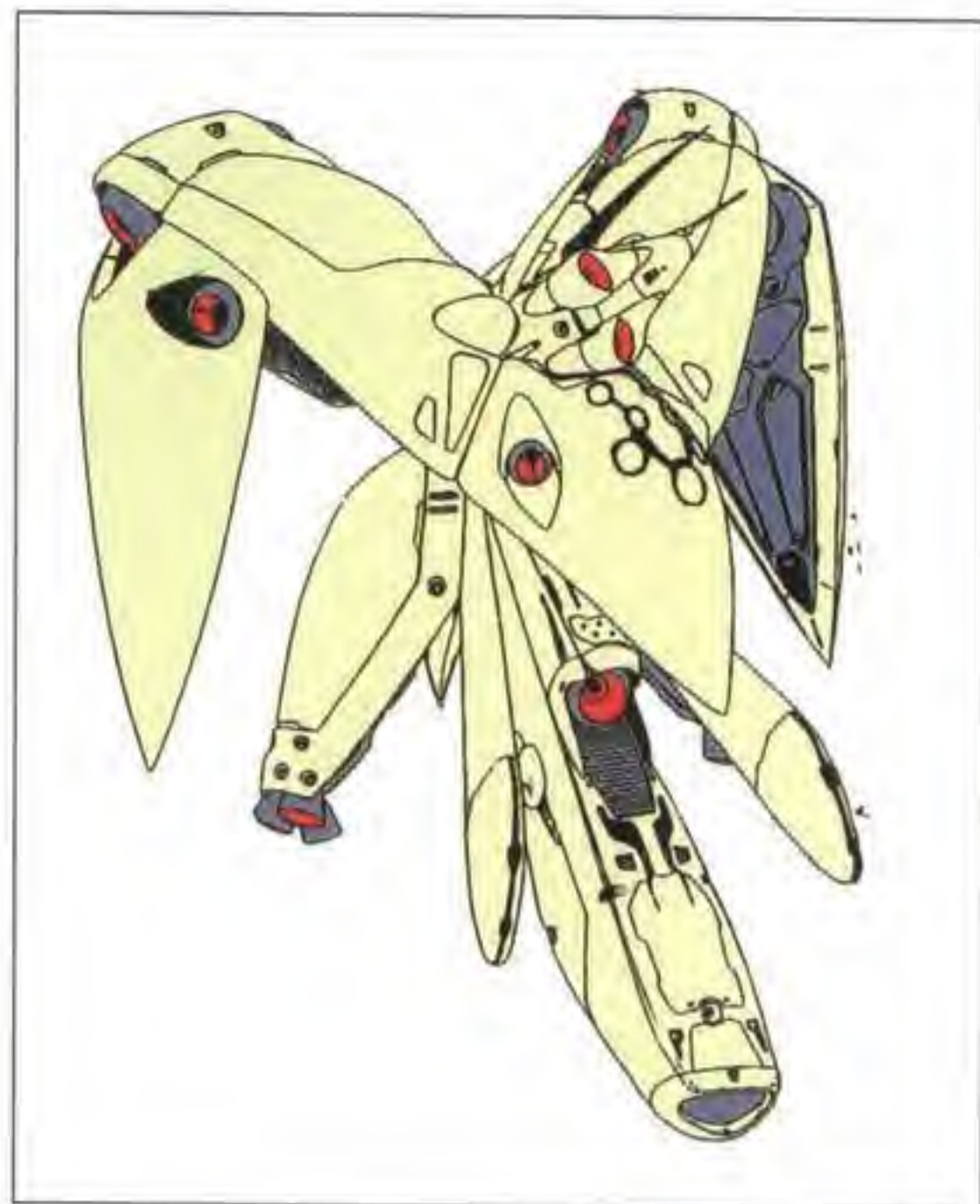
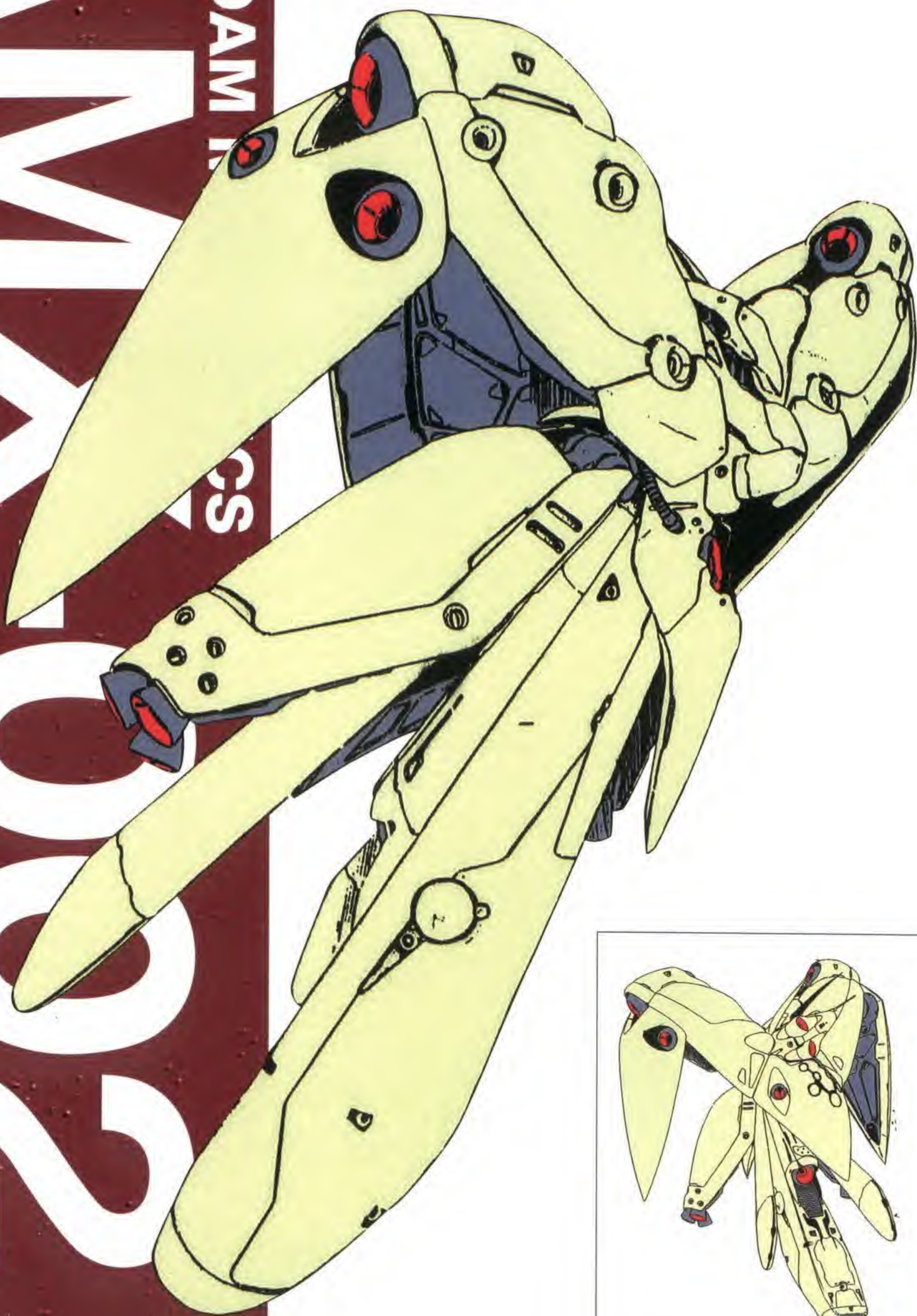


ノイエ・ジール

GUNDAM

CS

AVANCE





# AMX-002

ノイエ・ジール

機體分類：試作MA

製造：アークス

全高：76.8m

全幅：全機重量：198.2/403.5t

ジェネレータ出力：75,000kw

スラスター推進力：1,333,000kg

●ノイオン推進受のアークス軍によって破壊された試作MA。

一年戦争前から製造計画は存在しており、小惑星アークスに逃げのびた旧ジオン軍の技術者達の手によって製造された、当時最新水準の機体兵器である。大出力のジェネレータを搭載し、機体各部に多数の電子眼を装備する。フューアームは有線誘導が可能であり、コンピュータによる半自動コントロールで、ニュータイプ以外でもオーラのレンジ攻撃を行なうことができる。さらにこの機体には、リファールシステムが装備されており、対ビームバリアによるビーム攻撃の無効化も実装している。

ノイエ・ジールはデラーズ紛争の際に、アークス先進部隊の手によってデラーズ・フリードに破壊されている。

機體開発士ガンダム0093

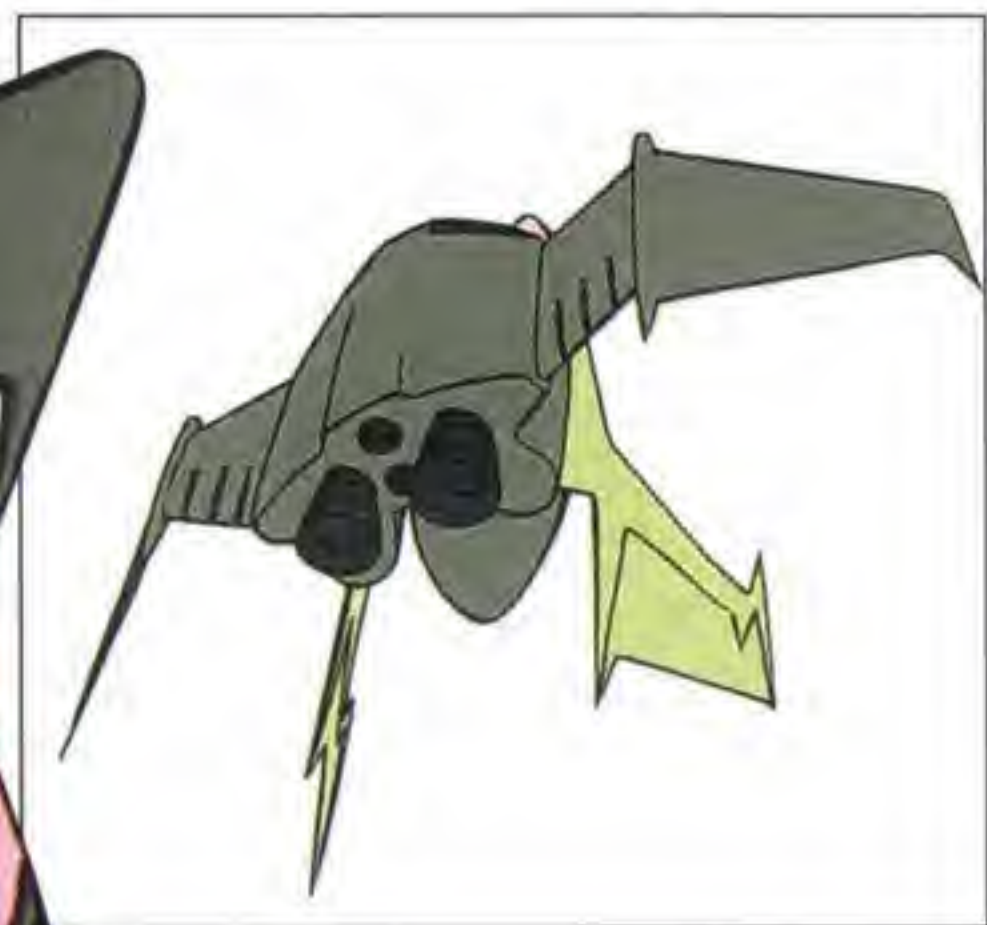
スターダストメモリー





ドップ

GUNDAM



ガルマ・ザビ専用機



# DOPP

## ドップ

機體分類：小型機・機銃

電源：MPP仕

全長：全幅：9.2/12.1m

全機重量：5.2t

乗員：1名

●ジオン軍が開発した大気圏内用の小型機群。

コロニー圏内であるジオン公国は「空」をいつも手に入れない。そのため航空機が存在せず、その開発ノウハウも枯渇だった。しかし、地球降参を要する場合は、航空能力の確保は必要不可欠で、設計と造ることのできる兵器だった。これによって開発されたDOPPは、航空力学的な不利な点を空母型戦闘バーニアによって補正に補い、高い機動性を実現させた。その結果、機体が動く範囲は約120kmと広い。

機體分類：ガンダム

機體分類：ガンダム／第50回5小冊



20mm  
バズカン砲

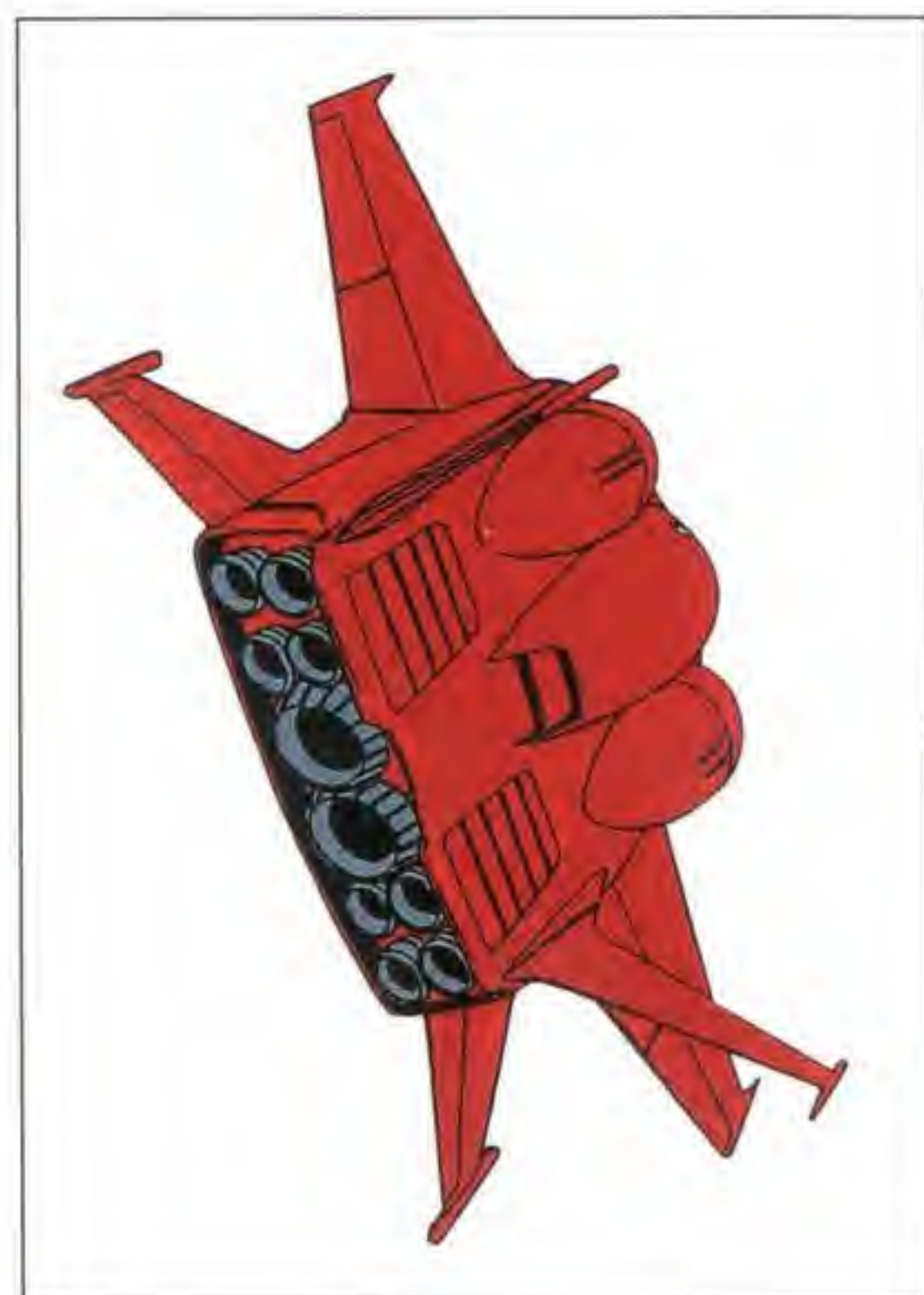
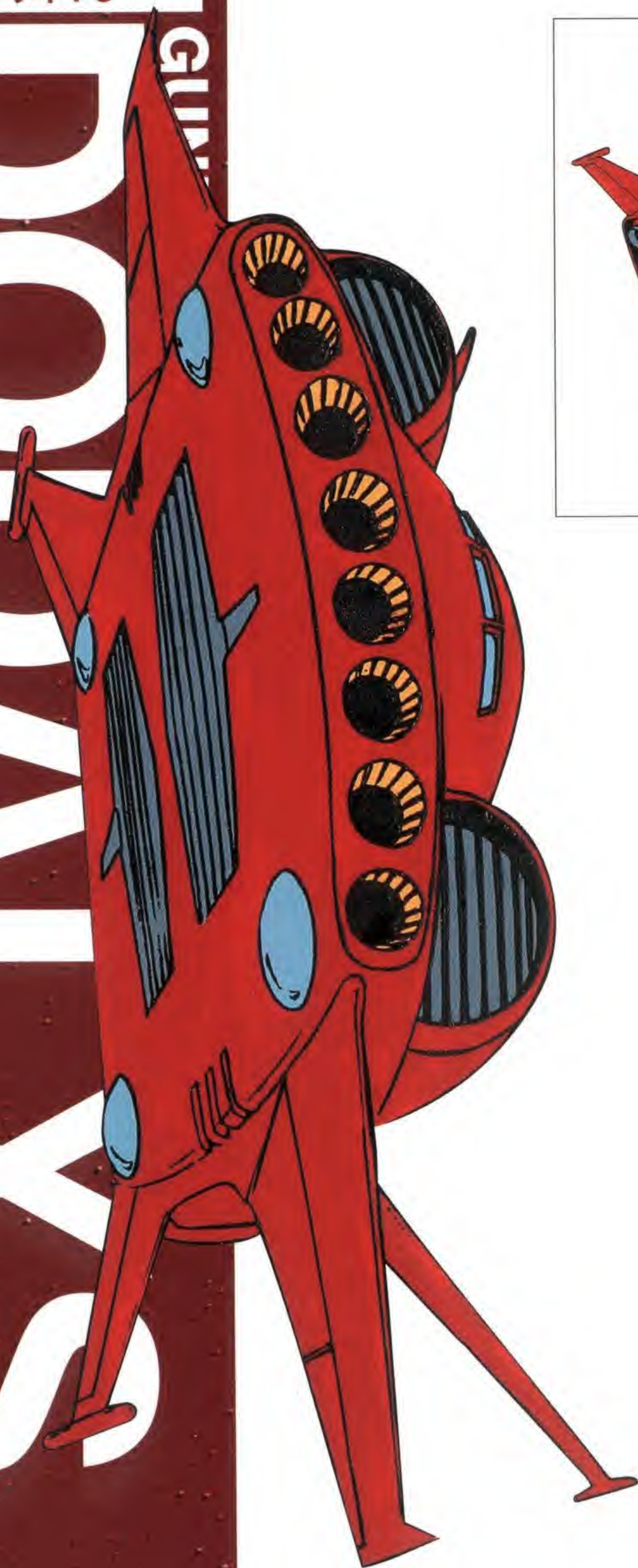
ミサイルランチャー  
ミサイル





ドダイYS

DOODAYS







# DODAI YS

ドダイYS

機体分類：爆撃機

乗員：2名

●イン軍の爆撃機で、機首先端に射門の射撃とサイルランチャーを持つ。射撃とサイル以外の武器はない。

「ドダイYS」は機体サイズに比べ、大出力で推力が大きいジェットエンジンを搭載している。そのため、MS1機を機体上面に乗せて航行できるほど機体推力は膨大であった。機体におけるMSの移動方向上も開いた位置をMSはこの点に目を付けたのである。こうして、攻撃目標地点までMSを解放したあと、地上の攻撃ノックアウトが行ない、ドダイYSは空からそれを支援するという戦法が考案された。

一年戦争後期、MSとの戦いによりドダイYSは高い戦果を上げ、以降MSをサブ・フライット・システムに昇格するという戦術は広くとられるようになった。

## ■機動戦士ガンダム



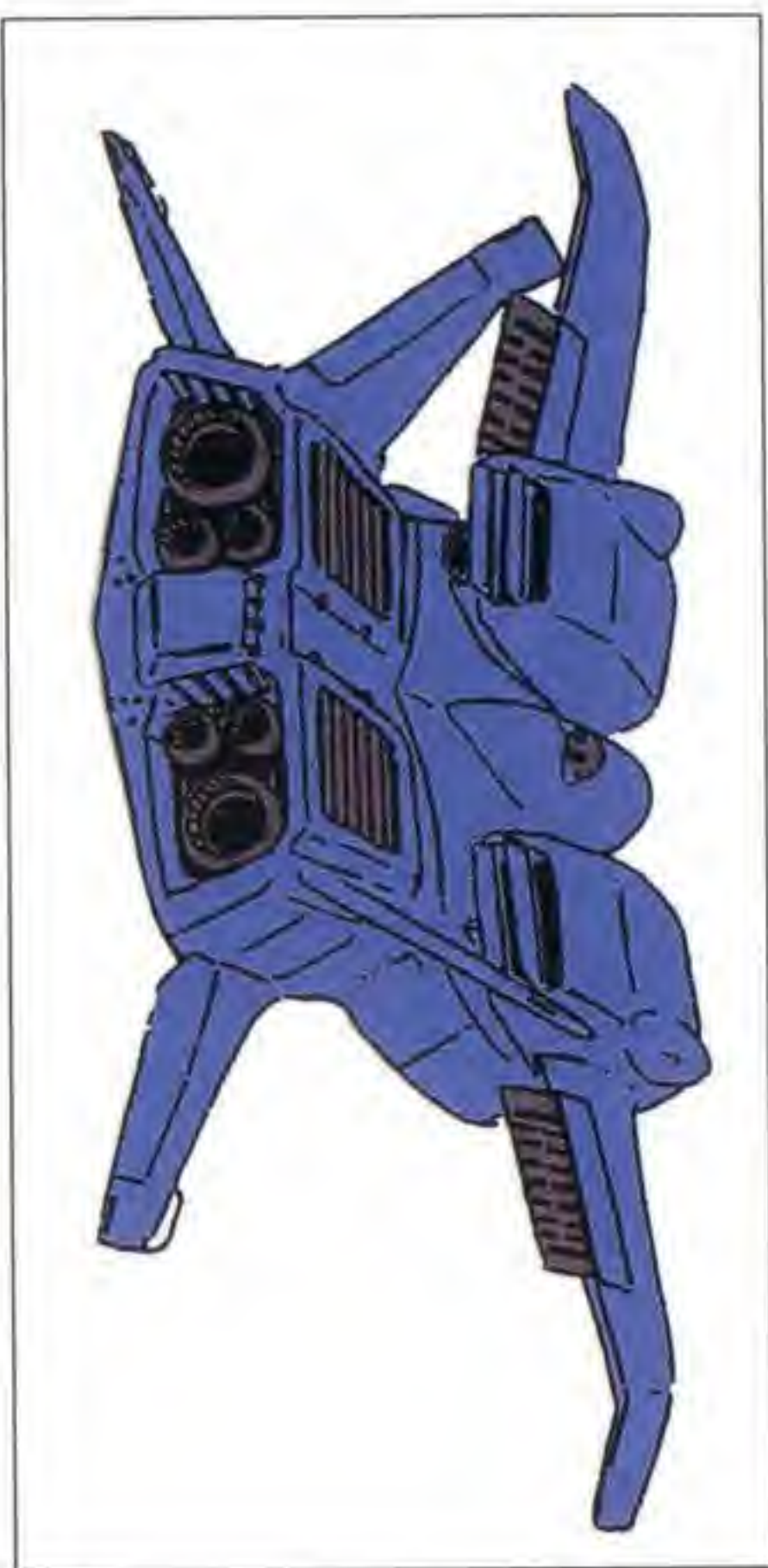
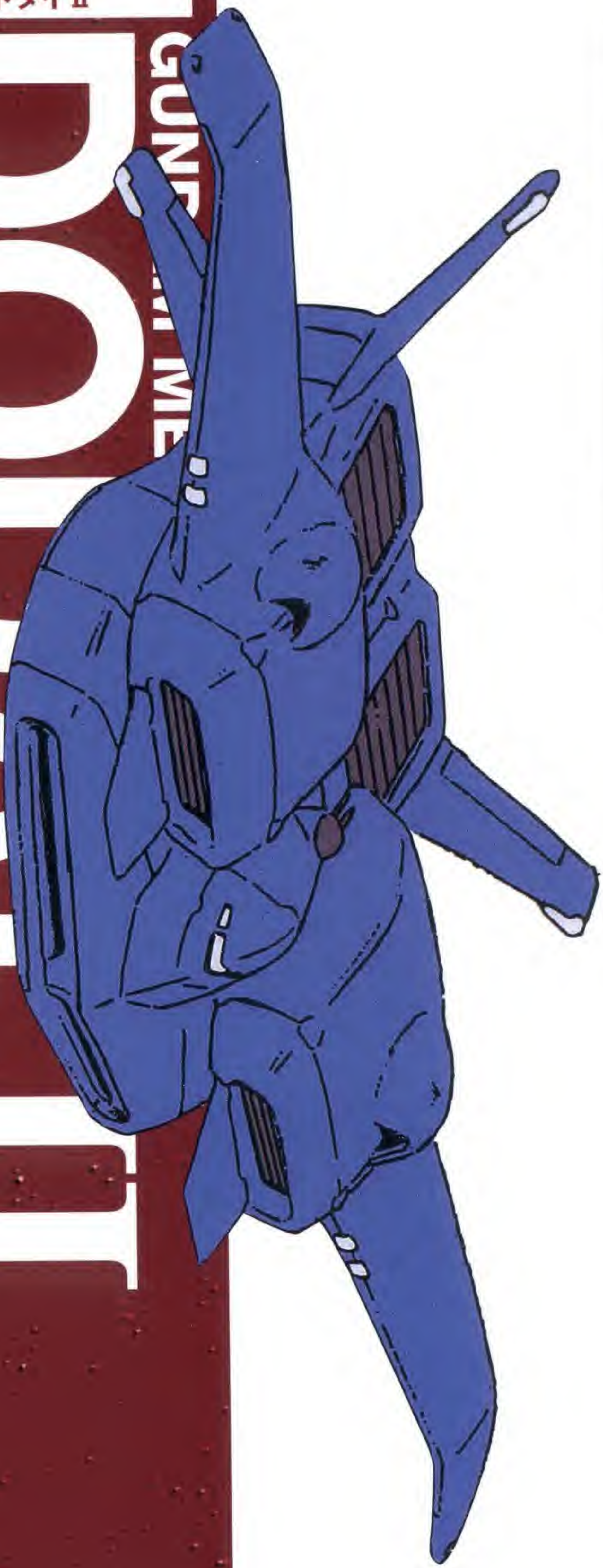
1機とサイルランチャーとサイル





ドダイⅡ

GUNF  
MIE





# DODAI II

## ドダイⅡ

機体分類：機動兵器

身長：2m



■本記事執筆時であったドダイであるが、一年戦争後期にはMS特務機としての運用のほうが多くなっている『ドダイII』は、MSとしての運用を前提として再設計されたドダイの後継型である。MSと兼ねた状態での戦闘のため、腕部前部のミサイルランチャーも取り外し、ジェネレーターの数を増やすことで推進力を増している。攻撃力の低下と引き換えに、MS特務機としての戦闘能力を向上させたこの機体は、後のMS特務機の基本となった。

機動兵器上ガンダム 第003話 小冊

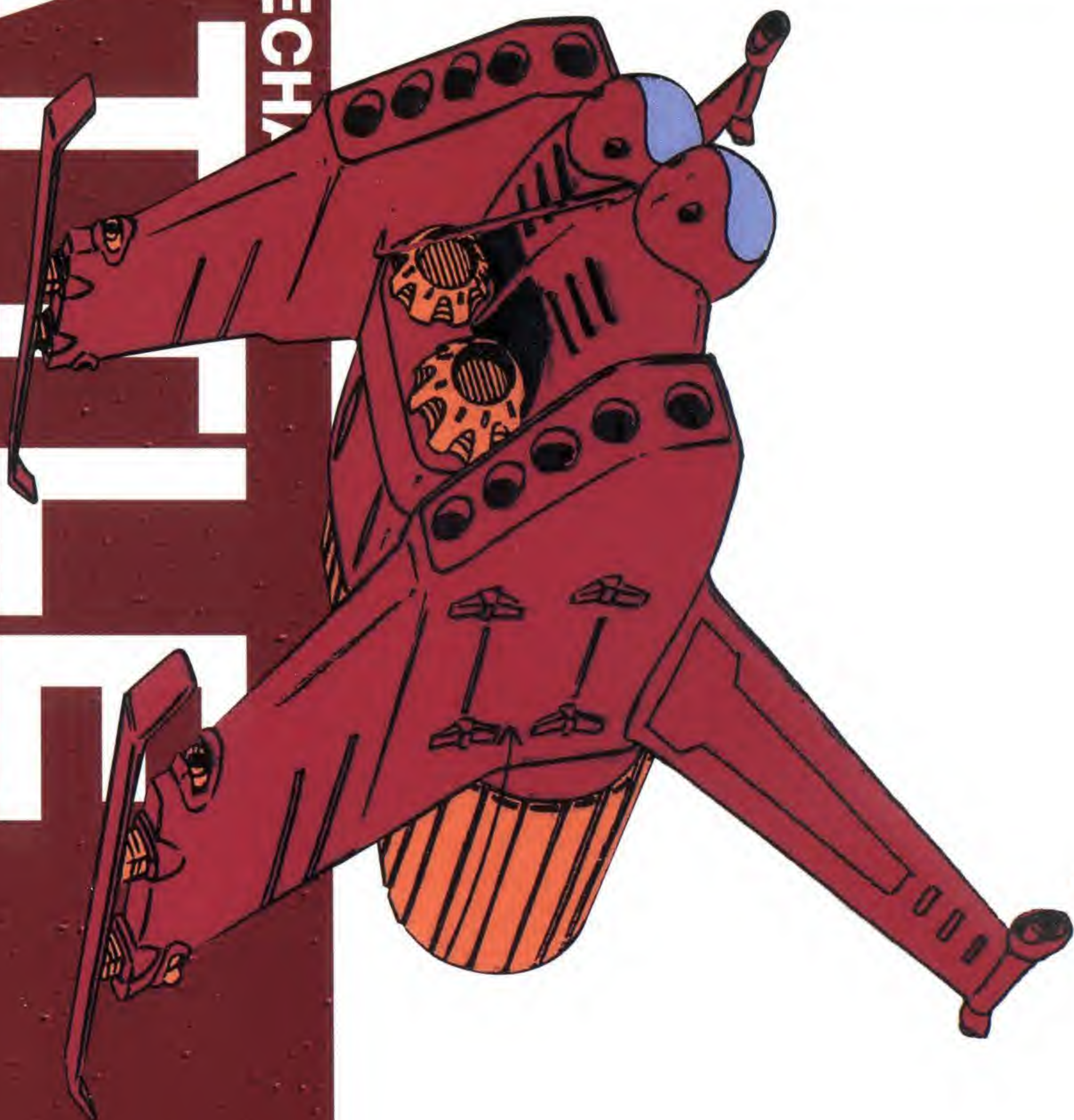




ガトル

GUUNDAM MECH

GA



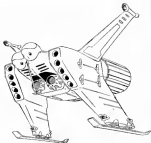


# GATTLE

ガトル

機体分類：宇宙戦闘機

乗員：2名

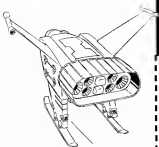


●機体性の高い、ジオン軍の宇宙戦闘機。

機体と足の中心に位置するサイルランチャーを装備、立つあるコアビムは射出装置として単独運用が可能であり、バルカン砲も装備している。さらに射撃は機体の大型サイイルを、無敵同様に高速発射することが可能である。

ガトルは宇宙軍の主力戦闘機として多くの戦場から使用されており、同型機は、数々の戦場で多数のガトルがMSとともに使用された。しかし、機体の部品数が多いことにより、ガトルは前線から、ジオン本国やア・バオア・ターといった後方の基地防衛局に置かれることになる。

機体部品とガンダム

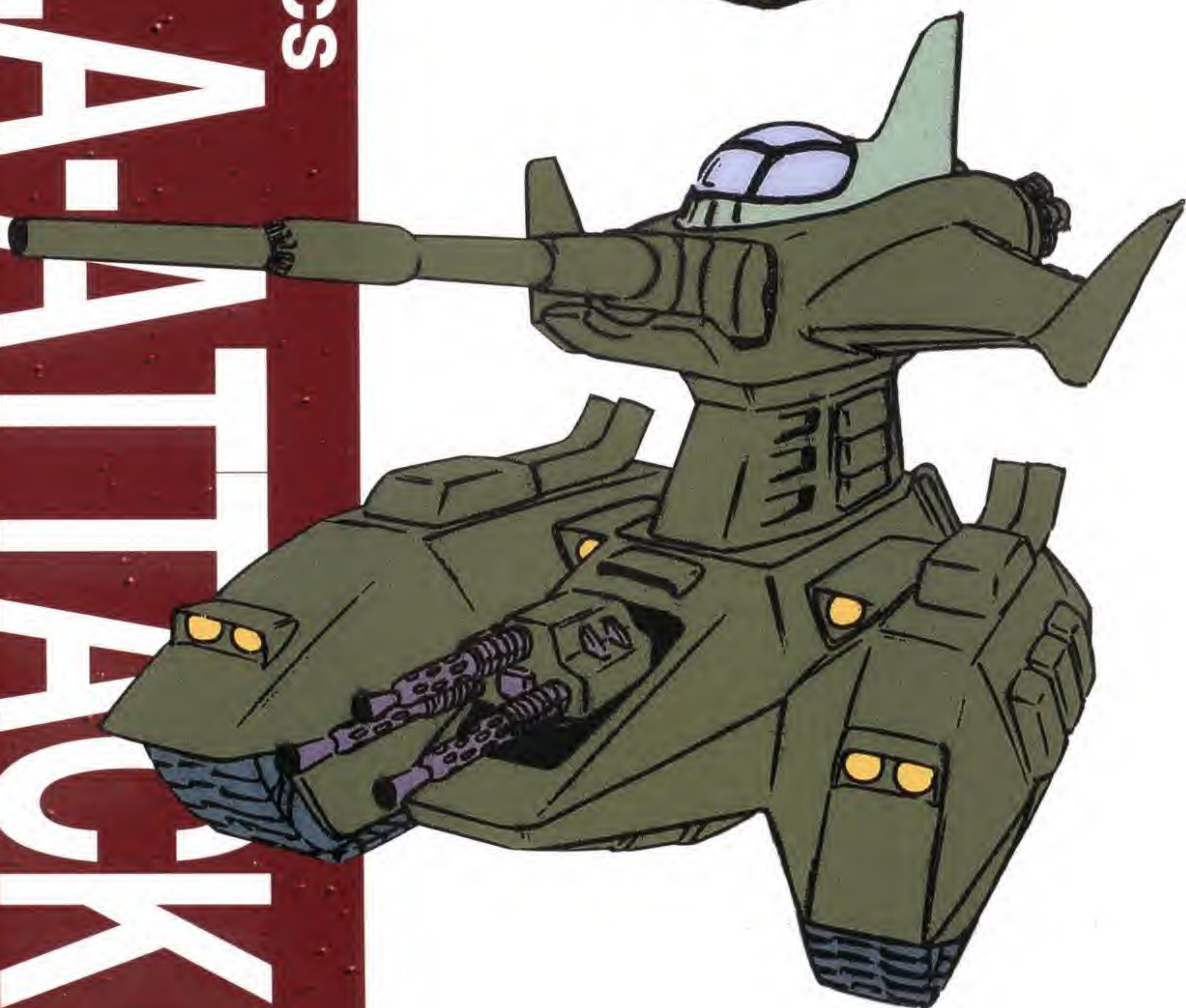




マゼラ・アタック

GUNDAM MECHANICS

MAGELA-ATTACK





175mm砲

25mm連射砲

マゼラトップ

# MAGELLA-ATTACK

## マゼラ・アタック

車種分類：主力戦車

国産：

全長：全幅：不明

全高重量：不明

乗員：2名

●地球連合作戦のためにジオン軍が開発した主力戦車。

地上用戦車車両の開発ノウハウを惜まないジオン軍は、外見、能力ともに最新鋭戦車を作り上げる。175mm砲を装備したほか、足部に高い位置にあり、戦車の弱点である上面装甲を攻撃するため、マゼラ・アタックの設計は車体から放射して車体周りを回ることであった。攻撃用の自爆弾「マゼラ・トップ」、車体は「マゼラ・ベース」と呼ぶ。しかし、マゼラ・トップの飛行時間は5秒と短く、飛行中は175mm砲の命中精度も低下した。

■機動戦士ガンダム

■機動戦士ガンダム 第00845小冊





